

男女共同参画社会に関する市民意識調査 報告書

令和6年3月

宗 像 市

目 次

I 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査の性格	1
4. 回答者の属性	2
5. 調査結果利用上の注意	4

II 調査結果の分析

第1章 男女の地位・役割について

1. 男女の地位の平等感	5
2. 性別役割分担意識	11

第2章 家庭生活について

1. 家庭内の役割分担	14
2. 家庭生活における慣習	21

第3章 子育てや教育について

1. 子どもの育て方	24
2. 学校教育の中で推進すべき男女共同参画の取り組み	28

第4章 就労・働き方について

1. 女性が職業をもつことについて	31
(1) 理想の働き方	31
(2) 現実の働き方	33
2. 男性の育児休業・介護休業取得率が低い理由	35
3. 職場における慣習	37

第5章 地域活動や社会活動への参加について

1. 女性の役職登用についての考え方	40
2. 女性が役職につくことについての考え方	45
(1) 地域の役職に推薦された場合の対処	45
(2) 地域の役職を断る理由	47
3. 災害への備えについての考え方	49

第6章 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

1. 自身のワーク・ライフ・バランス…………… 51
2. あらゆる場面に参画するために必要なこと…………… 53

第7章 暴力などの人権侵害について

1. ドメスティック・バイオレンスの見聞き…………… 56
2. ドメスティック・バイオレンスの認知…………… 58

第8章 男女共同参画社会の実現について

1. 行政に望む施策…………… 64

Ⅲ 調査結果のまとめ

- 市民意識調査結果の総括と今後の課題 …………… 67

◎参考資料

- 使用した調査票 …………… 73

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は男女共同参画社会（男女がお互いの人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会）の実現を目指し、さまざまな取り組みを進めるために市民の男女共同参画に関する意識と実態を把握し、今後の施策に反映させることを目的として実施した。

2. 調査項目

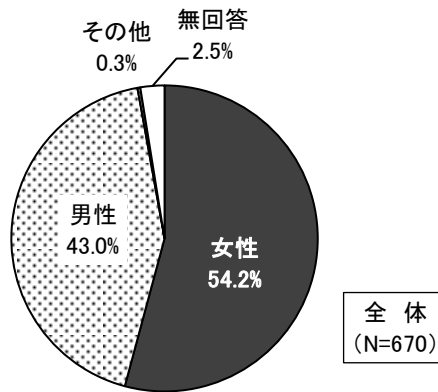
- (1) 男女の地位・役割について
- (2) 家庭生活について
- (3) 子育てや教育について
- (4) 就労・働き方について
- (5) 地域活動や社会活動への参加について
- (6) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について
- (7) 暴力などの人権侵害について
- (8) 男女共同参画社会の実現について

3. 調査の性格

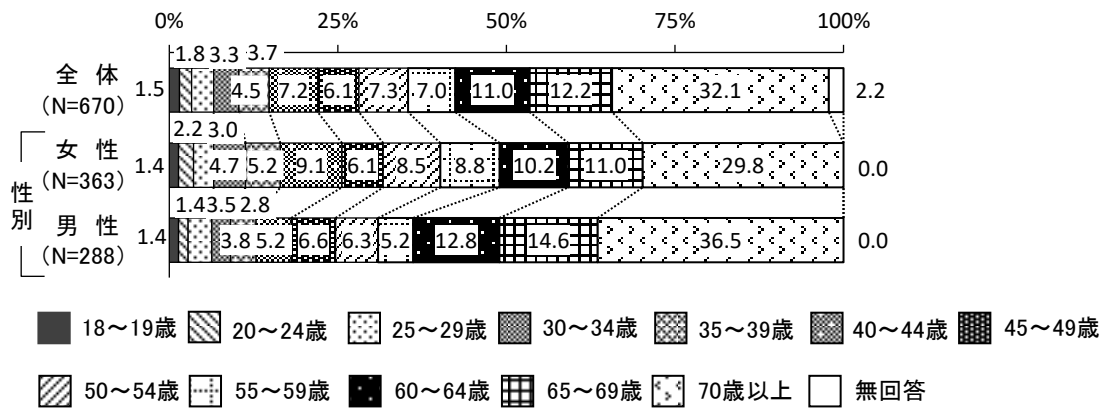
- | | |
|-----------|-----------------------|
| (1) 調査地域 | 宗像市全域 |
| (2) 調査対象者 | 18歳以上の男女2,000人 |
| (3) 回収率 | 有効回収数670人（有効回収率33.5%） |
| (4) 抽出方法 | 住民基本台帳から無作為抽出 |
| (5) 調査方法 | 郵送法 |
| (6) 調査期間 | 令和5年11月17日～12月15日 |

4. 回答者の属性

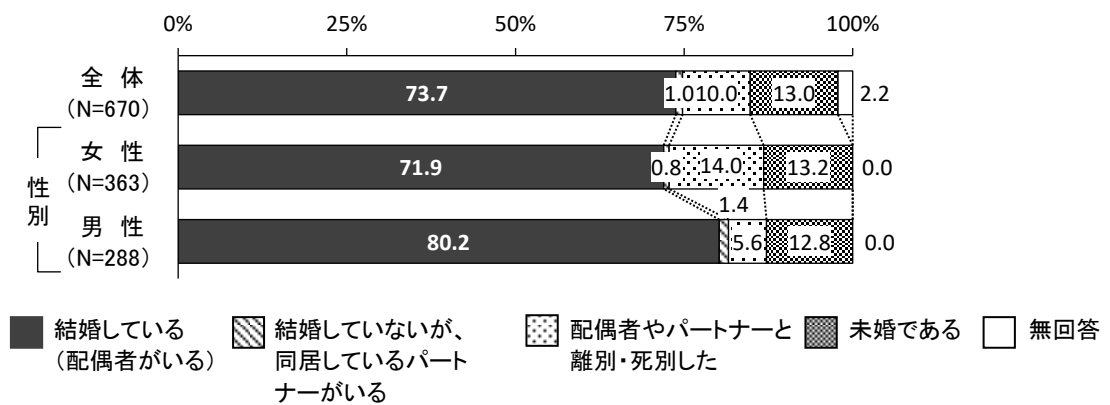
◎性別



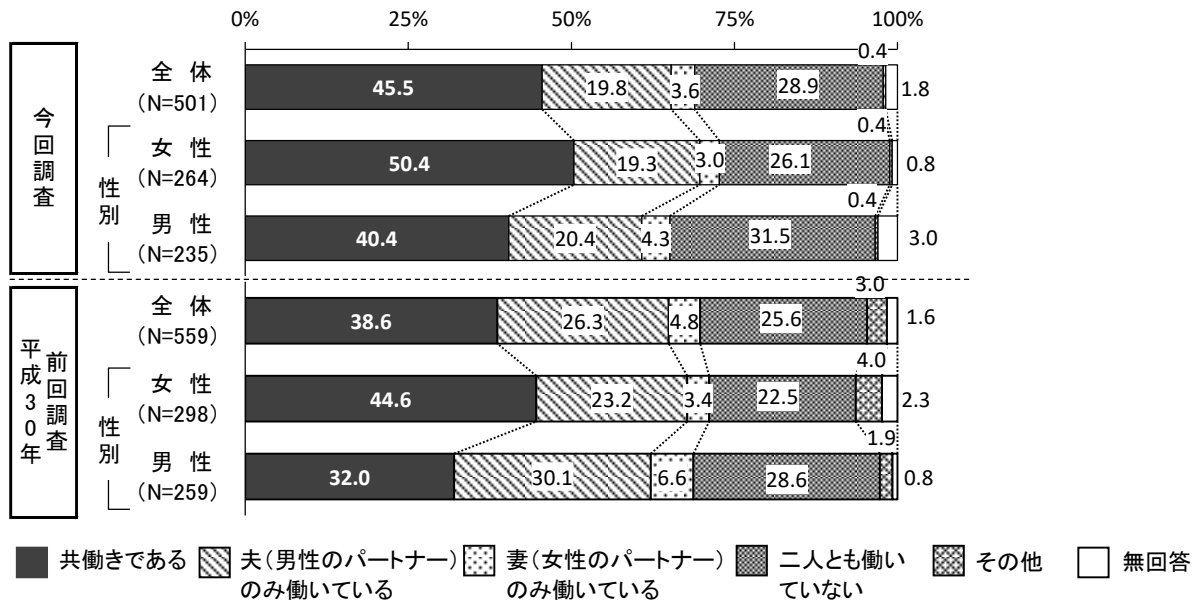
◎年代



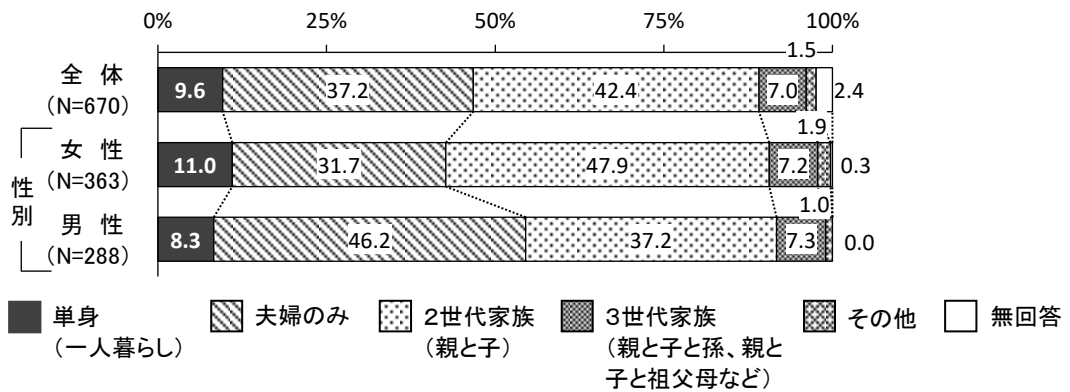
◎婚姻状況



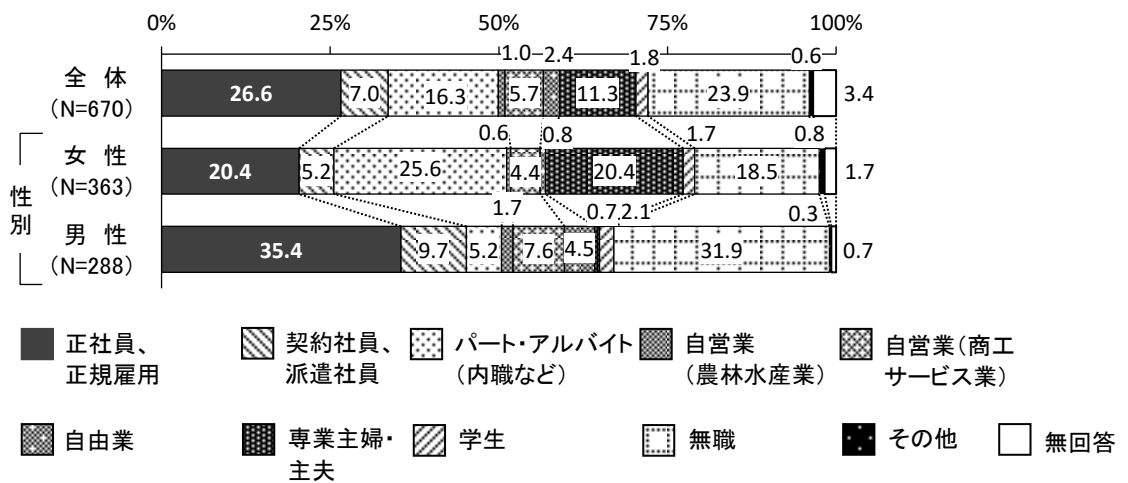
◎共働きの状況



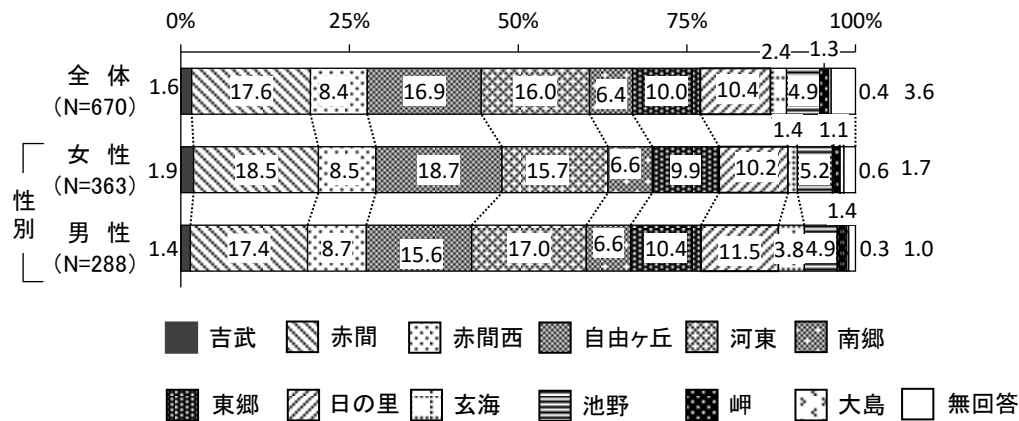
◎家族構成



◎職業



◎居住地区



5. 調査結果利用上の注意

- (1) 回答比率の合計は百分比のポイント以下2位を四捨五入しているため、必ずしも100%ちょうどになるとは限らない。
- (2) 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。数表で、分析項目によっては対象者が限定されるため、全体の標本数と合わないことがある。
- (3) 2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、回答数の合計を回答者数Nで割った比率であり、通常その値は100%を超える。
- (4) 「付問」では前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して、続けて行った質問である。
- (5) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち2つ以上のものを合計して表す場合は『 』とした。
- (6) 今回の調査は、次の資料と比較分析を行っている。

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」	令和4年11月実施
福岡県「男女共同参画に向けての意識調査」	令和元年12月実施
宗像市「男女共同参画に関する市民意識調査」	平成30年7月実施

Ⅱ 調査結果の分析

Ⅱ 調査結果の分析

第1章 男女の地位・役割について

1. 男女の地位の平等感

問1. あなたは、次にあげる各分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○印はそれぞれ1つ)

傾 向

- 「学校教育の場」を除く7つの分野で、『男性優遇』が「平等である」を上回っており、「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」「社会全体」で『男性優遇』が特に高い。
- すべての分野で、女性の方が男性よりも『男性優遇』とする割合が高く、「家庭生活」「地域活動や社会活動の場」「法律や制度上」で、性別による認識の違いが大きい。

社会における8つの分野について、男女の地位が平等であると思うかどうか、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「平等である」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「男性の方が優遇されている」の5段階でたずねた。

その結果、「学校教育の場」を除く7つの分野で、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた『男性優遇』が「平等である」を上回った。

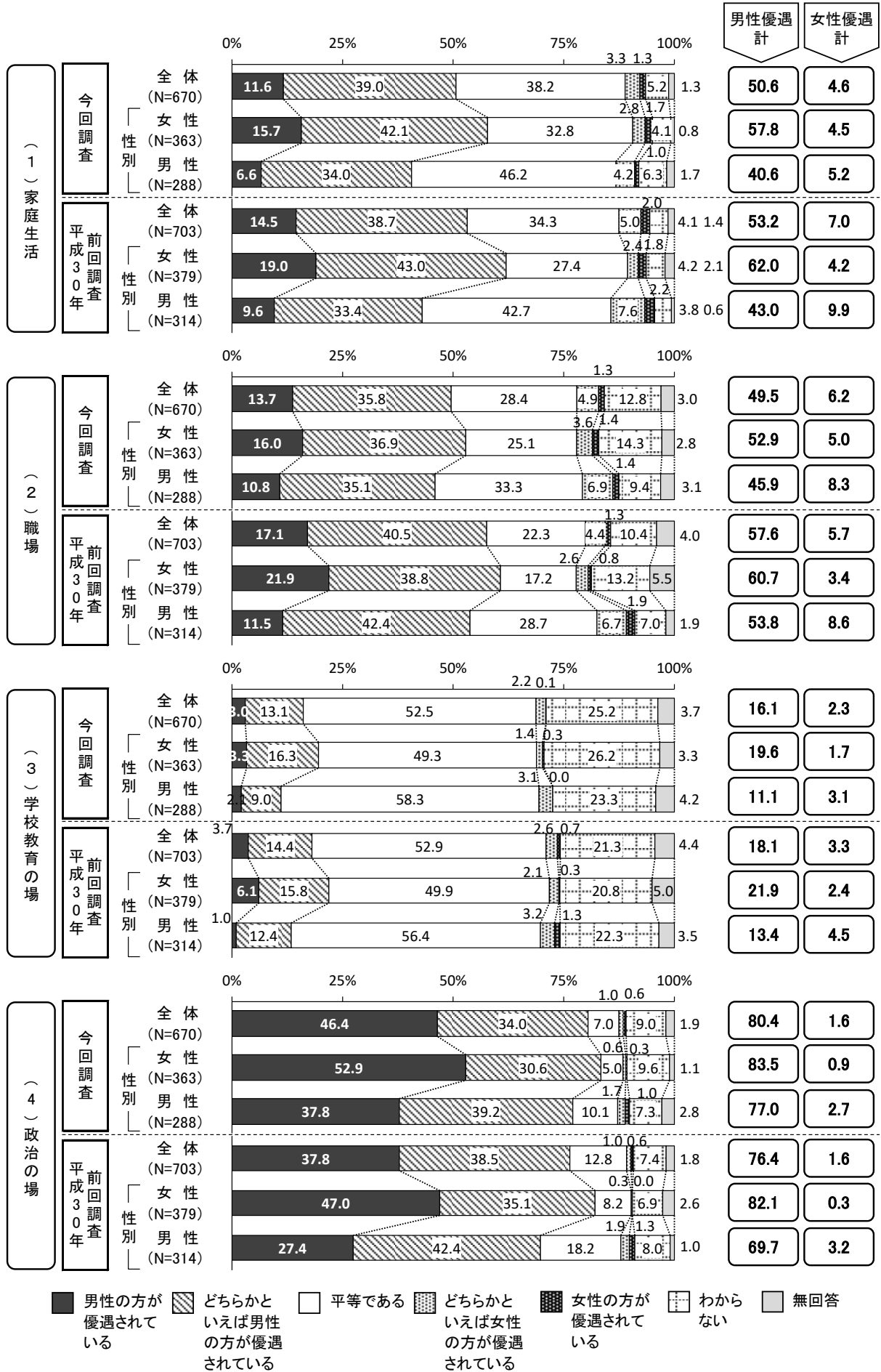
『男性優遇』の割合は、「政治の場」(80.4%)、「社会通念・慣習・しきたりなど」(80.3%)、「社会全体」(76.8%)で特に高い。また、「家庭生活」(50.6%)「職場」(49.5%)、で約5割、「法律や制度上」(46.0%)、「地域活動や社会活動の場」(45.0%)でも『男性優遇』が4割を超えて、「平等である」の割合を上回っている。一方、「学校教育の場」は「平等である」が52.5%と5割を超え、『男性優遇』(16.1%)を大きく上回っている。

性別で見ると、8つすべての分野で女性の方が男性よりも『男性優遇』とする割合が高くなっており、特に「家庭生活」(女性57.8%、男性40.6%)、「地域活動や社会活動の場」(女性52.1%、男性36.5%)、「法律や制度上」(女性52.9%、男性38.2%)で、差が14.7~17.2ポイントとなっており、性別による認識の違いが大きくなっている。

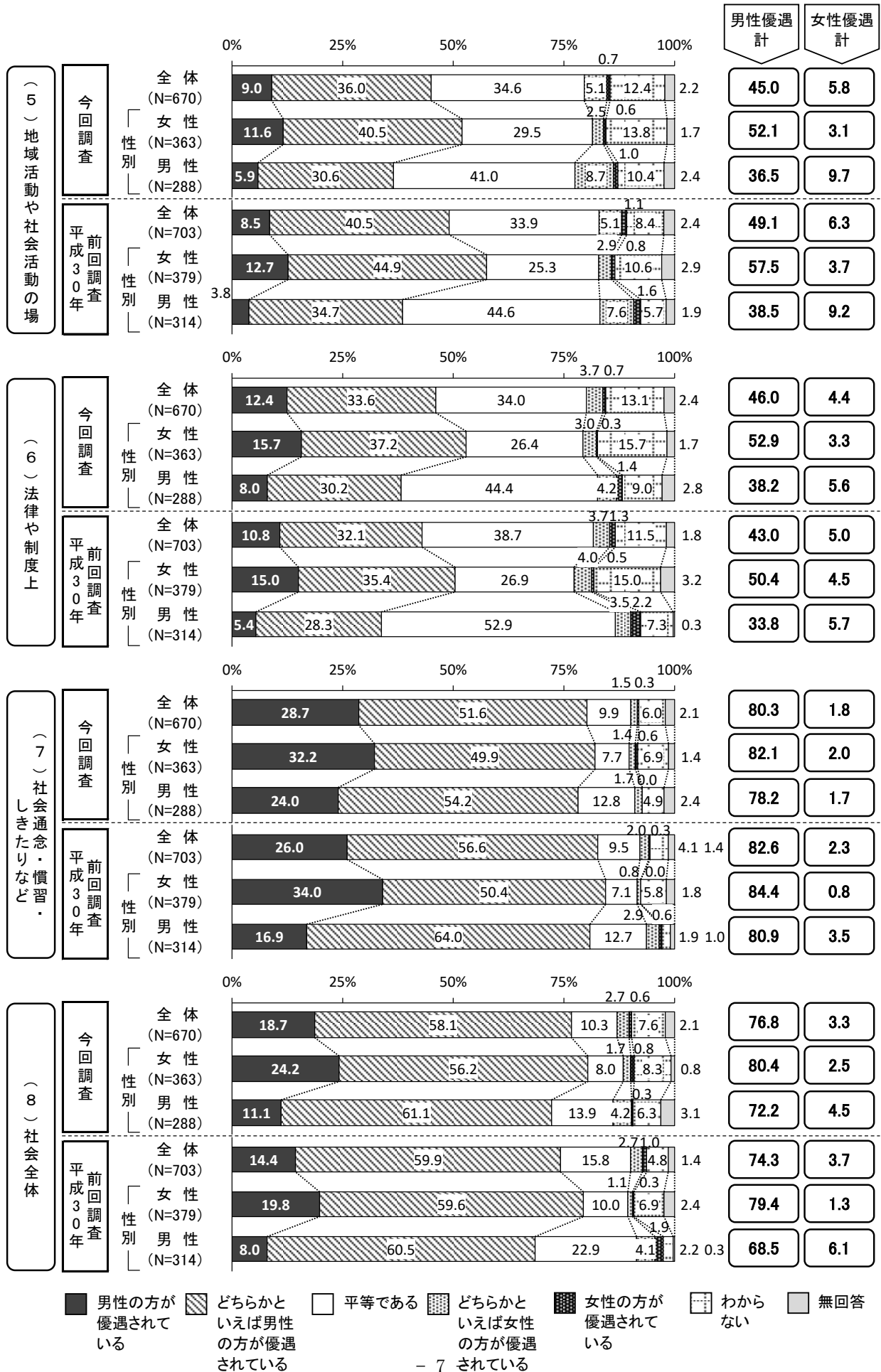
前回調査と比較すると、ほとんどの項目で大きな変化はないが、「職場」については『男性優遇』が8.1ポイント減少し、「平等である」が6.1ポイント増加しており、平等感がやや高まっている。

令和元年に実施された福岡県調査と比べると、今回調査は「家庭生活」「職場」の『男性優遇』の割合が福岡県より5ポイントほど低くなっている。同じく令和4年に実施された全国調査とは項目の違いがあるため正確な比較はできないが、今回調査の方が「家庭生活」での平等感は全国より6.5ポイント高くなっている。

図表 1-1 (1) 男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回調査比較)

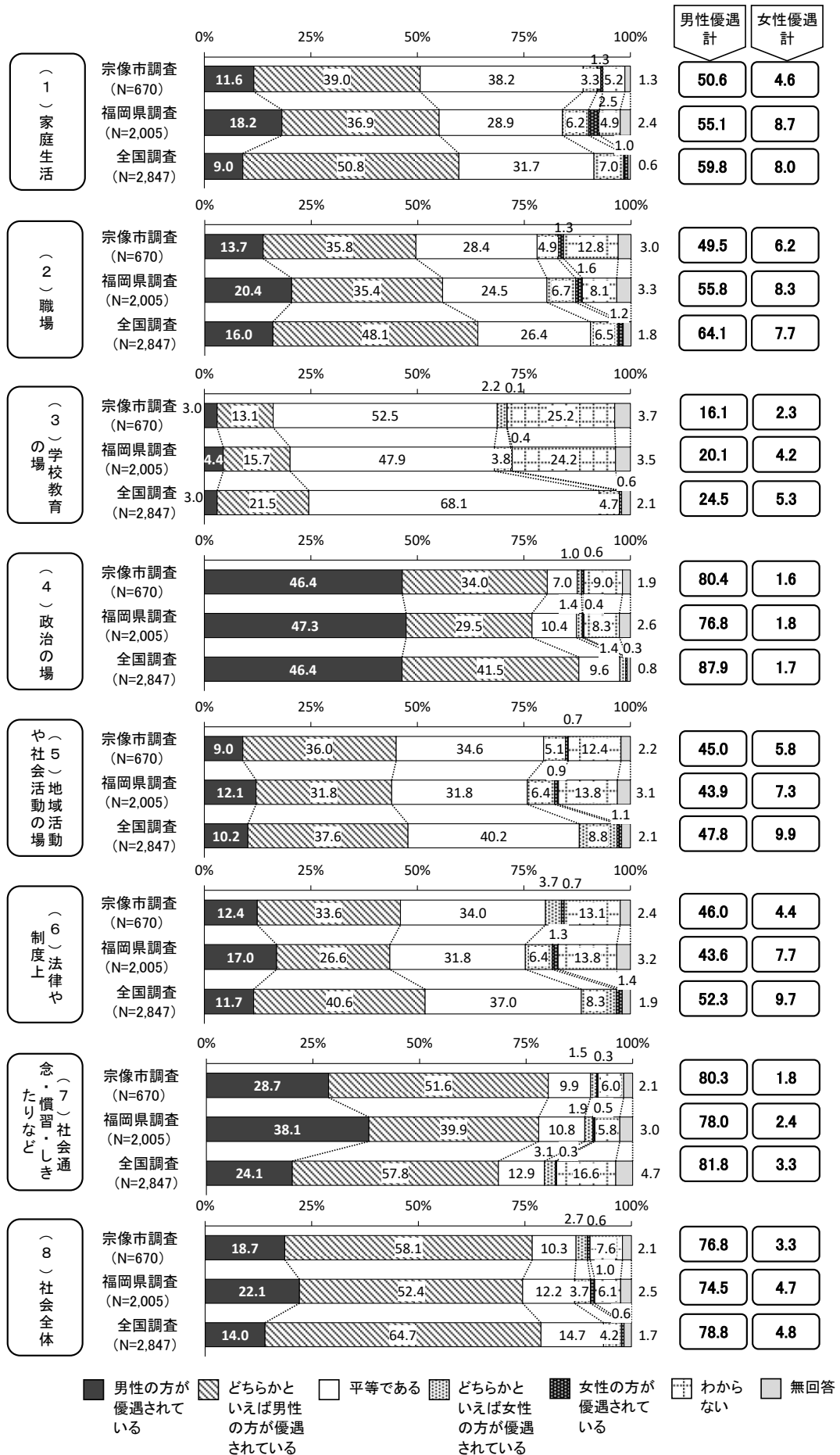


図表1-1(2) 男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回調査比較)



男性の方が優遇されている
 どちらかといえば男性の方が優遇されている
 平等である
 どちらかといえば女性の方が優遇されている
 女性の方が優遇されている
 わからない
 無回答

図表 1-2 男女の地位の平等感 [全体] (福岡県・全国調査比較)



第1章 男女の地位・役割について

年代別でみると、全体的に男女とも年代が上がるほど『男性優遇』の割合が高くなる傾向がみられる。「職場」では、女性の30代と男性の10、20代、30代、50代で『女性優遇』が比較的高く、女性の50代以上では『男性優遇』が5割を超えて高くなっている。「学校教育」では女性の10、20代で「平等である」が75.0%と非常に高い。

図表1-3 (1) 男女の地位の平等感 [全体、年代別]

		(1)家庭生活では										(2)職場では										(%)	
性別・年代別	標本数	男性の方が優遇さ	男性の方が優遇さ	どちらかといえ	平等である	どちらかといえ	どちらかといえ	女性の方が優遇さ	わからない	無回答	男性優遇」計	女性優遇」計	男性の方が優遇さ	男性の方が優遇さ	どちらかといえ	平等である	女性の方が優遇さ	どちらかといえ	わからない	無回答	男性優遇」計	女性優遇」計	
		全体	670 100.0	78 11.6	261 39.0	256 38.2	22 3.3	9 1.3	35 5.2	9 1.3	339 50.6	31 4.6	92 13.7	240 35.8	190 28.4	33 4.9	9 1.3	86 12.8	20 3.0	332 49.5	42 6.2		
性別・年代別	女性:10,20代	24	8.3	25.0	37.5	4.2	8.3	16.7	-	33.3	12.5	16.7	25.0	33.3	4.2	4.2	16.7	-	-	-	41.7	8.4	
	女性:30代	36	8.3	41.7	30.6	5.6	2.8	11.1	-	50.0	8.4	2.8	30.6	30.6	13.9	2.8	16.7	2.8	-	-	33.4	16.7	
	女性:40代	55	20.0	40.0	30.9	3.6	-	3.6	1.8	-	60.0	3.6	16.4	30.9	30.9	3.6	1.8	16.4	-	-	47.3	5.4	
	女性:50代	63	15.9	41.3	39.7	-	-	3.2	-	-	57.2	-	19.0	39.7	31.7	3.2	-	6.3	-	-	58.7	3.2	
	女性:60代	77	16.9	42.9	37.7	1.3	-	1.3	-	-	59.8	1.3	18.2	40.3	28.6	3.9	1.3	6.5	1.3	-	58.5	5.2	
	女性:70代以上	108	16.7	47.2	25.9	3.7	2.8	1.9	1.9	-	63.9	6.5	16.7	40.7	12.0	-	0.9	22.2	7.4	-	57.4	0.9	
	男性:10,20代	18	16.7	16.7	50.0	11.1	-	5.6	-	-	33.4	11.1	11.1	27.8	33.3	16.7	-	11.1	-	-	-	38.9	16.7
	男性:30代	19	-	21.1	63.2	5.3	-	10.5	-	-	21.1	5.3	5.3	21.1	47.4	10.5	5.3	10.5	-	-	-	26.4	15.8
	男性:40代	34	11.8	29.4	44.1	8.8	2.9	2.9	-	-	41.2	11.7	5.9	38.2	41.2	8.8	-	5.9	-	-	-	44.1	8.8
	男性:50代	33	-	45.5	39.4	3.0	-	12.1	-	-	45.5	3.0	9.1	33.3	27.3	21.2	3.0	6.1	-	-	-	42.4	24.2
男性:60代	79	3.8	35.4	45.6	3.8	-	8.9	2.5	-	39.2	3.8	12.7	27.8	40.5	3.8	1.3	11.4	2.5	-	-	40.5	5.1	
男性:70代以上	105	8.6	36.2	45.7	1.9	1.9	2.9	2.9	-	44.8	3.8	12.4	43.8	24.8	1.9	1.0	9.5	6.7	-	-	56.2	2.9	
不明・無回答	17	11.8	58.8	17.6	-	-	5.9	5.9	-	70.6	-	11.8	23.5	17.6	-	-	41.2	5.9	-	-	35.3	-	
		(3)学校教育では										(4)政治の場では											
性別・年代別	標本数	男性の方が優遇さ	男性の方が優遇さ	どちらかといえ	平等である	どちらかといえ	どちらかといえ	女性の方が優遇さ	わからない	無回答	男性優遇」計	女性優遇」計	男性の方が優遇さ	男性の方が優遇さ	どちらかといえ	平等である	女性の方が優遇さ	どちらかといえ	わからない	無回答	男性優遇」計	女性優遇」計	
		全体	670 100.0	20 3.0	88 13.1	352 52.5	15 2.2	1 0.1	169 25.2	25 3.7	108 16.1	16 2.3	311 46.4	228 34.0	47 7.0	7 1.0	4 0.6	60 9.0	13 1.9	539 80.4	11 1.6		
性別・年代別	女性:10,20代	24	-	8.3	75.0	-	4.2	8.3	4.2	8.3	4.2	54.2	20.8	4.2	-	-	16.7	4.2	-	-	75.0	-	
	女性:30代	36	2.8	8.3	61.1	-	-	27.8	-	11.1	-	47.2	38.9	2.8	-	-	11.1	-	-	-	86.1	-	
	女性:40代	55	3.6	14.5	56.4	3.6	-	21.8	-	18.1	3.6	50.9	34.5	7.3	-	-	7.3	-	-	-	85.4	-	
	女性:50代	63	-	12.7	54.0	1.6	-	31.7	-	12.7	1.6	44.4	33.3	6.3	-	-	15.9	-	-	-	77.7	-	
	女性:60代	77	7.8	19.5	44.2	1.3	-	23.4	3.9	27.3	1.3	58.4	24.7	7.8	1.3	-	7.8	-	-	-	83.1	1.3	
	女性:70代以上	108	2.8	21.3	37.0	0.9	-	30.6	7.4	24.1	0.9	56.5	30.6	1.9	0.9	0.9	6.5	2.8	-	-	87.1	1.8	
	男性:10,20代	18	11.1	-	61.1	5.6	-	16.7	5.6	-	11.1	5.6	55.6	33.3	-	-	5.6	-	-	-	-	88.9	5.6
	男性:30代	19	-	5.3	73.7	-	-	21.1	-	-	5.3	-	31.6	26.3	21.1	-	-	21.1	-	-	-	57.9	-
	男性:40代	34	-	11.8	64.7	2.9	-	20.6	-	-	11.8	2.9	44.1	35.3	8.8	5.9	-	5.9	-	-	-	79.4	5.9
	男性:50代	33	6.1	3.0	57.6	6.1	-	27.3	-	-	9.1	6.1	51.5	36.4	3.0	-	3.0	6.1	-	-	-	87.9	3.0
男性:60代	79	1.3	7.6	59.5	2.5	-	25.3	3.8	-	8.9	2.5	34.2	43.0	8.9	1.3	2.5	7.6	2.5	-	-	77.2	3.8	
男性:70代以上	105	1.0	13.3	52.4	2.9	-	22.9	7.6	-	14.3	2.9	32.4	41.9	13.3	1.0	-	5.7	5.7	-	-	74.3	1.0	
不明・無回答	17	11.8	11.8	23.5	5.9	-	41.2	5.9	-	23.6	5.9	47.1	23.5	-	-	-	23.5	5.9	-	-	70.6	-	

2. 性別役割分担意識

問2. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(〇印は1つ)

傾向

- 性別役割分担意識に『反対』は男性で53.1%、女性で67.0%となっており、前回調査より男女とも『反対』が10ポイント以上増加している。
- 男性の方が性別役割分担を容認する割合が高い。
- 年齢が上がるほど『反対』の割合が低下する傾向がみられるが、女性はすべての年代で『反対』が6割を超える。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といういわゆる性別役割分担意識について、全体では「賛成」(3.3%)と「どちらかといえば賛成」(22.5%)をあわせた『賛成』が25.8%、「反対」(29.9%)と「どちらかといえば反対」(30.4%)をあわせた『反対』が60.3%となっており、性別役割分担を容認しない人は約6割に上っている。

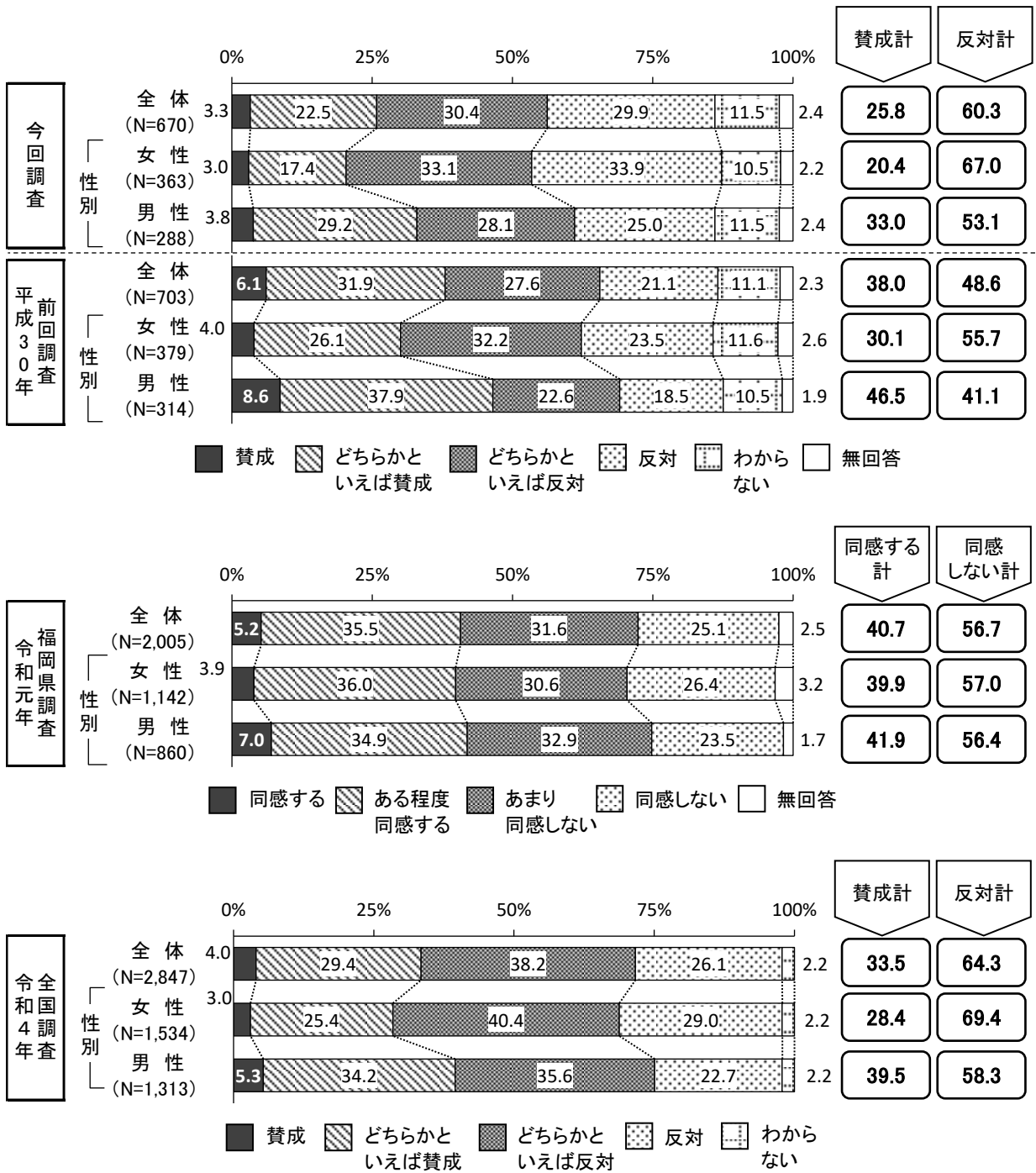
性別で見ると、『反対』は女性が67.0%で男性(53.1%)より13.9ポイント高く、『賛成』は男性が33.0%で女性(20.4%)より12.6ポイント高くなっており、男性の方が性別役割分担を容認する割合が高い。

前回調査と比べると、男女とも『反対』が増加し、『賛成』が減少しており、性別役割分担を容認しない人が男女とも大きく増えている。

福岡県調査と比べると、設問項目が違うため正確な比較はできないが、男女とも『賛成』の割合は今回調査の方が低く、『反対』の割合は女性は福岡県調査より10ポイント高く、男性は福岡県調査より3.3ポイント低くなっている。

全国調査と比べると、男女とも『賛成』の割合は今回調査の方が低いが、『反対』の割合も全国より低くなっている。

図表 1-4 性別役割分担意識 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



年代別でみると、全体的に年齢が上がるほど『反対』の割合が低下する傾向がみられるが、女性ではすべての年代で『反対』が6割を超えている。また、男性でもすべての年代で『反対』が『賛成』を上回っている。

既未婚別では、男女とも未婚の人で『反対』が7割を超えて高くなっている。

配偶者・パートナーがいる人について夫婦共働きかどうかでみると、男女とも共働きの人では『反対』が高く、片働きでは『賛成』が高くなっている。

図表1-5 性別役割分担意識 [全体、年代別、既未婚別、共働きの状況別]

(%)

		標本数	賛成	いど えち ばら 賛か 成と	いど えち ばら 反か 対と	反対	わ か ら な い	無 回 答	『賛 成』 計	『反 対』 計
全体		670 100.0	22 3.3	151 22.5	204 30.4	200 29.9	77 11.5	16 2.4	173 25.8	404 60.3
年代別	女性:10,20代	24	8.3	-	29.2	50.0	12.5	-	8.3	79.2
	女性:30代	36	-	16.7	33.3	33.3	13.9	2.8	16.7	66.6
	女性:40代	55	1.8	14.5	30.9	38.2	10.9	3.6	16.3	69.1
	女性:50代	63	1.6	17.5	33.3	28.6	17.5	1.6	19.1	61.9
	女性:60代	77	1.3	19.5	33.8	39.0	3.9	2.6	20.8	72.8
	女性:70代以上	108	5.6	21.3	34.3	27.8	9.3	1.9	26.9	62.1
	男性:10,20代	18	-	5.6	44.4	44.4	5.6	-	5.6	88.8
	男性:30代	19	5.3	21.1	21.1	31.6	21.1	-	26.4	52.7
	男性:40代	34	-	5.9	29.4	44.1	14.7	5.9	5.9	73.5
	男性:50代	33	3.0	30.3	27.3	21.2	18.2	-	33.3	48.5
	男性:60代	79	1.3	35.4	26.6	21.5	12.7	2.5	36.7	48.1
	男性:70代以上	105	7.6	37.1	27.6	18.1	6.7	2.9	44.7	45.7
	無回答	17	-	23.5	17.6	23.5	29.4	5.9	23.5	41.1
既未婚別	女性:既婚(配偶者・パートナーがいる)	264	2.3	18.6	33.3	34.1	9.1	2.7	20.9	67.4
	女性:離・死別	51	3.9	21.6	27.5	33.3	11.8	2.0	25.5	60.8
	女性:未婚	48	6.3	6.3	37.5	33.3	16.7	-	12.6	70.8
	男性:既婚(配偶者・パートナーがいる)	235	4.3	31.1	25.1	25.5	11.1	3.0	35.4	50.6
	男性:離・死別	16	-	43.8	43.8	-	12.5	-	43.8	43.8
	男性:未婚	37	2.7	10.8	40.5	32.4	13.5	-	13.5	72.9
無回答	17	-	23.5	17.6	23.5	29.4	5.9	23.5	41.1	
共働きの状況別	女性:共働きである	133	-	16.5	31.6	42.1	7.5	2.3	16.5	73.7
	女性:片働きである	59	6.8	27.1	35.6	20.3	10.2	-	33.9	55.9
	女性:二人とも働いていない	69	2.9	15.9	34.8	31.9	11.6	2.9	18.8	66.7
	女性:その他	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-
	男性:共働きである	95	1.1	25.3	26.3	33.7	10.5	3.2	26.4	60.0
	男性:片働きである	58	5.2	39.7	22.4	19.0	13.8	-	44.9	41.4
	男性:二人とも働いていない	74	5.4	33.8	27.0	18.9	10.8	4.1	39.2	45.9
	男性:その他	1	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0
無回答	180	4.4	16.7	32.2	29.4	15.0	2.2	21.1	61.6	

第2章 家庭生活について

1. 家庭内の役割分担

問3. 現在、配偶者（パートナー）と同居している方におたずねします。

あなたの家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、主に誰がしていますか。各項目について、最もあてはまるものを選んでください。（○印はそれぞれ1つ）

傾 向

- 「家計を支える」は『夫中心』が約7割、「料理や食事の支度」「掃除や洗濯などの家事」は『妻中心』が約8割に上る。
- 「高額商品の購入を決める」「家庭の問題の最終的な決定をする」は「夫と妻が同じ程度」の割合が4割台半ばから約5割と比較的高い一方、『夫中心』も3割以上を占める。
- 前回調査より「夫と妻が同じ程度」が増加するも、依然として家計の維持は夫、家事や育児は妻という役割分担が残る。

現在、配偶者・パートナー（事実婚含む）と同居している人に、家庭内での10項目の仕事に関する分担状況についてたずねた。

「家計を支える（生活費をかせぐ）」は「主に夫がしている」と「どちらかといえば夫」をあわせた『夫中心』が71.0%と高く、「夫と妻が同じ程度」は18.8%、「主に妻がしている」と「どちらかといえば妻」をあわせた『妻中心』は6.2%で、家計維持は主に夫の役割となっている。

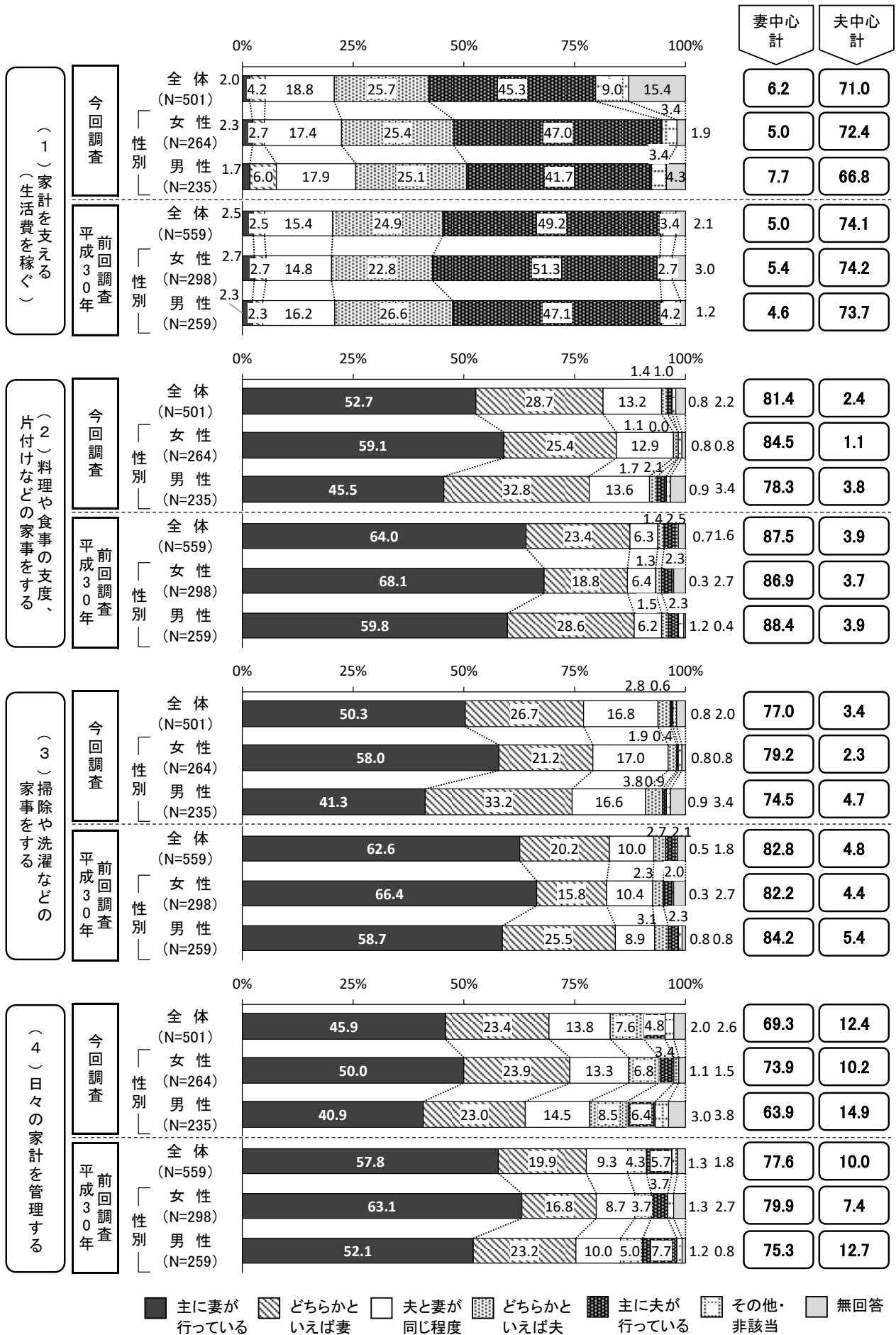
一方、「料理や食事の支度、片付けなどの家事をする」や「掃除や洗濯などの家事をする」は『妻中心』の割合が各々81.4%、77.0%と高く、炊事や掃除・洗濯などの家事は妻に大きく偏っている。また、「日々の家計管理」も『妻中心』が69.3%と高い。その他、「育児、子どものしつけをする」（52.3%）、「家族（親、祖父母等）の世話や介護をする」（37.0%）、「自治会やPTA活動などの地域活動に参加する」（41.2%）も、『妻中心』が約4割から約5割で、「夫と妻が同じ程度」を上回っている。

「子どもの教育方針や進学目標を決める」（40.3%）、「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」（50.7%）、「家庭の問題における最終的な決定をする」（46.3%）は「夫と妻が同じ程度」の割合が約4割から5割と他の分野に比べて高くなっている。しかし、「子どもの教育方針や進学目標を決める」は『妻中心』が25.0%、「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」「家庭の問題における最終的な決定をする」は『夫中心』が各々33.4%、37.8%と高くなっており、子どもに関しては主に妻、高額商品の購入や家庭問題の最終的な決定は主に夫という傾向がみられる。

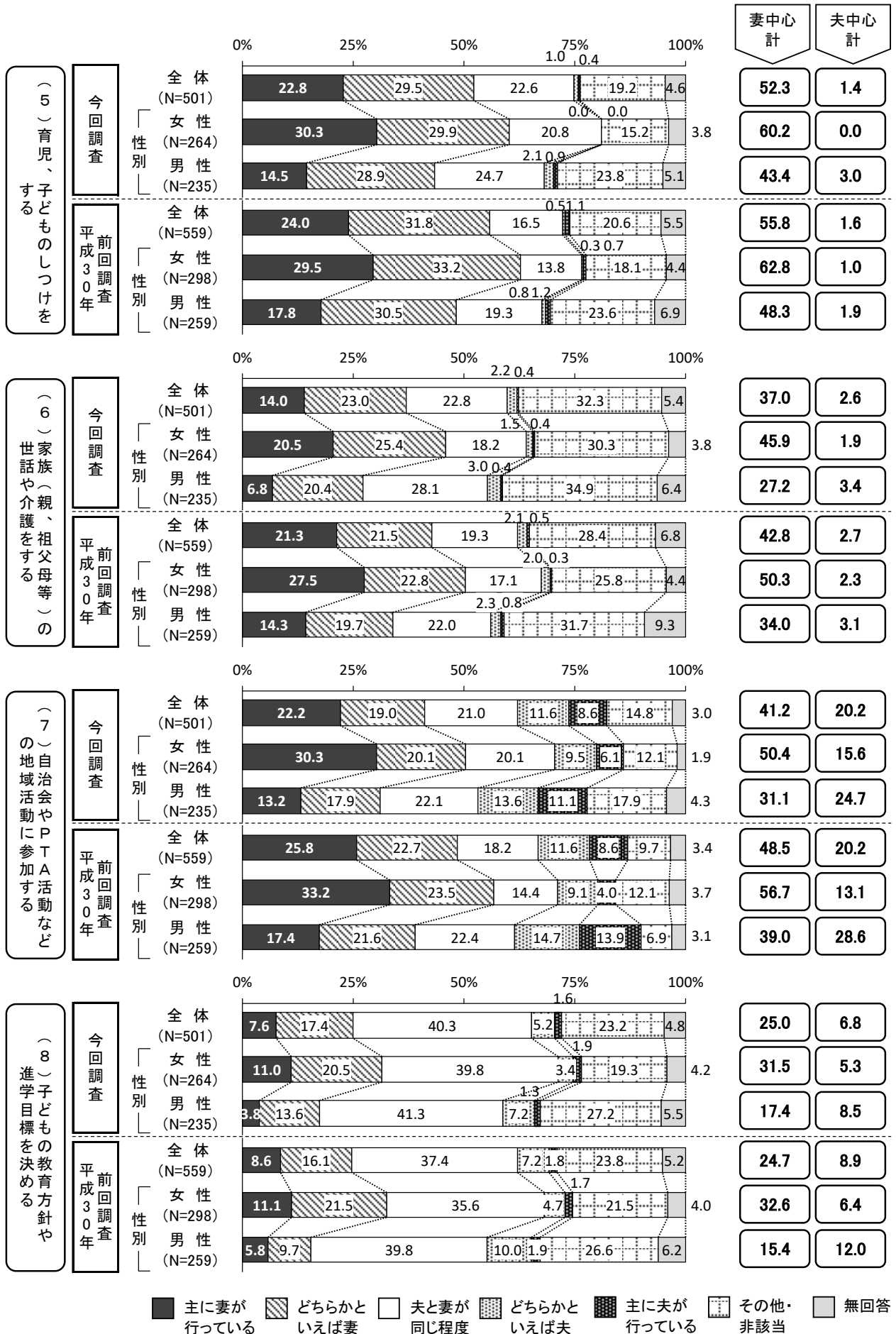
性別でみると、「家計を支える（生活費をかせぐ）」「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」「家庭の問題における最終的な決定をする」以外の項目では『妻中心』の割合は女性で高くなっており、「主に妻がしている」だけでみても7.2~17.1ポイント女性の方が高くなっている。家事や育児・介護に関する役割は女性が多く担っているが、分担の度合いについて、女性においてより負担しているという認識が強くなっているようである。また、「自治会やPTA活動などの地域活動に参加する」は、女性で『妻中心』が高い一方で男性では『夫中心』が高くなっている。

前回調査と比較すると、いずれの項目についても「夫と妻が同じ程度」の割合は増加しているが、依然として家計の維持は夫、家事や育児は妻という役割分担が残っている。

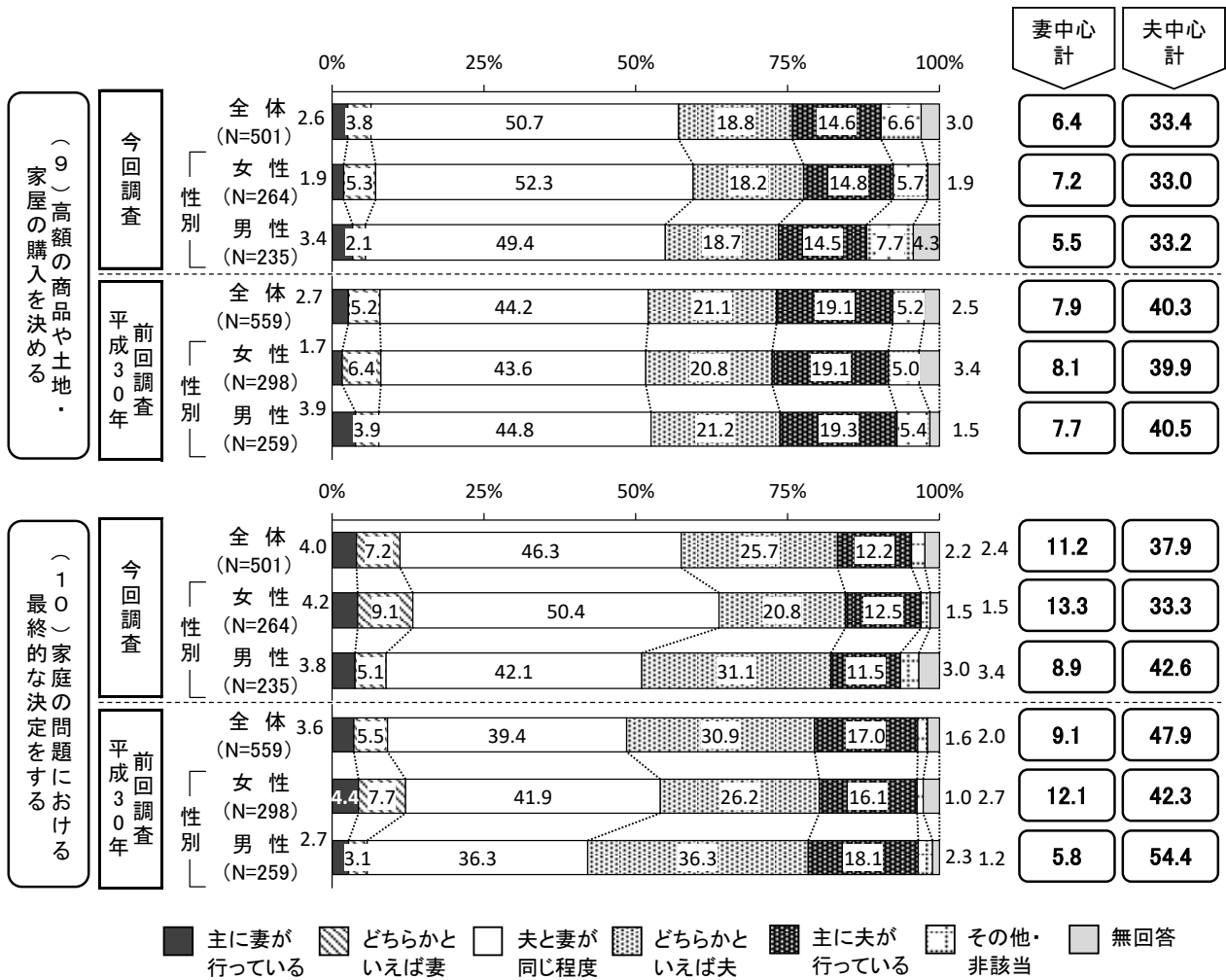
図表2-1 (1) 家庭内の役割分担 [全体、性別] (前回調査比較)



図表 2-1 (2) 家庭内の役割分担 [全体、性別] (前回調査比較)



図表2-1(3) 家庭内の役割分担〔全体、性別〕(前回調査比較)



男女共同参画に関する市民意識調査報告書

年代別でみると、「家計を支える」は女性の 40 代と男性の 50 代で『夫中心』が 8 割を超えて高くなっている。「料理や食事の支度、片付けなどの家事をする」は女性の 30 代、40 代で『妻中心』が約 9 割と高い。「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」「家庭の問題における最終的な決定をする」は男女とも 30 代で「夫と妻が同じ程度」が約 6 割から 6 割台半ばと高い。

共働き別でみると、「家計を支える（生活費をかせぐ）」は共働きの場合「夫と妻が同じ程度」が片働きより男女とも 18～21.9 ポイント高くなっているが、「料理や食事の支度、片付けなどの家事をする」「掃除や洗濯などの家事をする」「日々の家計管理」「育児、子どものしつけをする」などは共働きの男性は片働きの男性より「夫と妻が同じ程度」が 4.7～9.7 ポイント高いものの、共働きの女性と片働きの女性ではほとんど差がみられず、特に女性においては共働きであっても家事や育児の分担が自分に多くかかっていると認識されているようである。

図表2-2(1) 家庭内の役割分担〔全体、年代別、共働きの状況別〕

		(1) 家計を支える(生活費を稼ぐ)										(2) 料理や食事の支度、片付けなどの家事をする									
		主 に 妻 が し て	え ど ち ら か と い	程 夫 と 妻 が 同 じ	え ど ち ら か と い	主 に 夫 が し て	当 そ の 他 ・ 非 該	無 回 答	妻 中 心 」 計	夫 中 心 」 計	主 に 妻 が し て	え ど ち ら か と い	程 夫 と 妻 が 同 じ	え ど ち ら か と い	主 に 夫 が し て	当 そ の 他 ・ 非 該	無 回 答	妻 中 心 」 計	夫 中 心 」 計		
標 本 数																					
全体	501	10	21	94	129	227	45	77	31	356	264	144	66	7	5	4	11	408	12		
	100.0	2.0	4.2	18.8	25.7	45.3	9.0	15.4	6.2	71.0	52.7	28.7	13.2	1.4	1.0	0.8	2.2	81.4	2.4		
年代別	女性:10,20代	5	-	80.0	-	20.0	-	-	-	20.0	-	20.0	60.0	-	-	20.0	-	20.0	-		
	女性:30代	31	-	22.6	9.7	67.7	-	-	-	77.4	64.5	25.8	9.7	-	-	-	-	90.3	-		
	女性:40代	40	2.5	-	17.5	27.5	52.5	-	-	2.5	80.0	62.5	27.5	10.0	-	-	-	90.0	-		
	女性:50代	44	2.3	6.8	18.2	25.0	45.5	2.3	-	9.1	70.5	59.1	22.7	13.6	4.5	-	-	81.8	4.5		
	女性:60代	65	1.5	3.1	16.9	36.9	36.9	3.1	1.5	4.6	73.8	53.8	24.6	16.9	1.5	-	1.5	78.4	1.5		
	女性:70代以上	79	3.8	2.5	11.4	22.8	46.8	7.6	5.1	6.3	69.6	63.3	26.6	8.9	-	-	-	89.9	-		
	男性:10,20代	4	-	-	75.0	-	25.0	-	-	-	25.0	-	-	75.0	-	-	-	-	25.0	-	
	男性:30代	18	-	5.6	16.7	16.7	55.6	-	5.6	5.6	72.3	55.6	27.8	-	11.1	-	-	5.6	83.4	11.1	
	男性:40代	28	-	7.1	17.9	17.9	53.6	3.6	-	7.1	71.5	46.4	35.7	14.3	-	3.6	-	-	82.1	3.6	
	男性:50代	27	3.7	7.4	7.4	29.6	51.9	-	-	11.1	81.5	59.3	18.5	11.1	-	7.4	3.7	-	77.8	7.4	
男性:60代	67	1.5	3.0	19.4	25.4	44.8	1.5	4.5	4.5	70.2	40.3	41.8	10.4	1.5	-	1.5	4.5	82.1	1.5		
男性:70代以上	91	2.2	7.7	17.6	28.6	30.8	6.6	6.6	9.9	59.4	44.0	31.9	16.5	1.1	2.2	-	4.4	75.9	3.3		
無回答	2	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-		
共働きの状況別	女性:共働きである	133	1.5	3.0	24.8	27.8	42.1	-	0.8	4.5	69.9	57.9	25.6	13.5	1.5	-	0.8	0.8	83.5	1.5	
	女性:片働きである	59	3.4	5.1	6.8	13.6	69.5	1.7	-	8.5	83.1	59.3	27.1	11.9	1.7	-	-	-	86.4	1.7	
	女性:二人とも働いていない	69	2.9	-	13.0	31.9	34.8	11.6	5.8	2.9	66.7	59.4	24.6	13.0	-	-	1.4	1.4	84.0	-	
	女性:その他	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
	男性:共働きである	95	1.1	5.3	25.3	28.4	38.9	-	1.1	6.4	67.3	41.1	38.9	13.7	1.1	2.1	2.1	1.1	80.0	3.2	
	男性:片働きである	58	1.7	10.3	3.4	8.6	70.7	1.7	3.4	12.0	79.3	58.6	25.9	8.6	1.7	-	-	3.4	84.5	3.4	
男性:二人とも働いていない	74	1.4	4.1	20.3	35.1	24.3	8.1	6.8	5.5	59.4	40.5	29.7	18.9	2.7	-	-	5.4	70.2	5.4		
男性:その他	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
無回答	11	9.1	-	9.1	9.1	45.5	-	27.3	9.1	54.6	63.6	18.2	-	-	-	-	18.2	81.8	-		
		(3) 掃除や洗濯などの家事をする										(4) 日々の家計を管理する									
		主 に 妻 が し て	え ど ち ら か と い	程 夫 と 妻 が 同 じ	え ど ち ら か と い	主 に 夫 が し て	当 そ の 他 ・ 非 該	無 回 答	妻 中 心 」 計	夫 中 心 」 計	主 に 妻 が し て	え ど ち ら か と い	程 夫 と 妻 が 同 じ	え ど ち ら か と い	主 に 夫 が し て	当 そ の 他 ・ 非 該	無 回 答	妻 中 心 」 計	夫 中 心 」 計		
全体	501	252	134	84	14	3	4	10	386	17	230	117	69	38	24	10	13	347	62		
	100.0	50.3	26.7	16.8	2.8	0.6	0.8	2.0	77.0	3.4	45.9	23.4	13.8	7.6	4.8	2.0	2.6	69.3	12.4		
年代別	女性:10,20代	5	-	20.0	60.0	20.0	-	-	20.0	20.0	-	20.0	60.0	-	20.0	-	-	20.0	20.0		
	女性:30代	31	58.1	22.6	16.1	-	-	3.2	80.7	-	48.4	16.1	25.8	-	9.7	-	-	64.5	9.7		
	女性:40代	40	60.0	12.5	22.5	-	-	-	77.5	-	55.0	27.5	5.0	5.0	7.5	-	-	82.5	12.5		
	女性:50代	44	52.3	34.1	9.1	4.5	-	-	86.4	4.5	56.8	25.0	6.8	6.8	-	4.5	-	81.8	6.8		
	女性:60代	65	60.0	20.0	15.4	1.5	-	1.5	80.0	1.5	43.1	24.6	15.4	15.4	-	-	1.5	67.7	15.4		
	女性:70代以上	79	59.5	19.0	17.7	1.3	1.3	-	78.5	2.6	53.2	24.1	11.4	3.8	2.5	1.3	3.8	77.3	6.3		
	男性:10,20代	4	-	25.0	50.0	-	25.0	-	25.0	25.0	-	25.0	-	25.0	25.0	-	-	25.0	50.0		
	男性:30代	18	44.4	33.3	5.6	11.1	-	-	77.7	11.1	38.9	22.2	22.2	-	-	11.1	5.6	61.1	-		
	男性:40代	28	32.1	46.4	14.3	7.1	-	-	78.5	7.1	39.3	10.7	17.9	10.7	17.9	3.6	-	50.0	28.6		
	男性:50代	27	48.1	22.2	18.5	7.4	-	-	70.3	7.4	51.9	29.6	11.1	-	3.7	3.7	-	81.5	3.7		
男性:60代	67	43.3	31.3	19.4	-	-	1.5	4.5	74.6	-	37.3	28.4	13.4	11.9	1.5	3.0	4.5	65.7	13.4		
男性:70代以上	91	41.8	34.1	15.4	3.3	1.1	-	4.4	75.9	4.4	42.9	20.9	14.3	8.8	7.7	-	5.5	63.8	16.5		
無回答	2	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-		
共働きの状況別	女性:共働きである	133	57.1	22.6	15.8	2.3	-	1.5	0.8	79.7	2.3	51.1	22.6	14.3	6.0	4.5	0.8	0.8	73.7	10.5	
	女性:片働きである	59	59.3	18.6	18.6	3.4	-	-	77.9	3.4	47.5	27.1	13.6	6.8	3.4	1.7	-	7.6	10.2		
	女性:二人とも働いていない	69	58.0	21.7	17.4	-	1.4	-	79.7	1.4	50.7	24.6	10.1	8.7	-	1.4	4.3	75.3	8.7		
	女性:その他	1	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	
	男性:共働きである	95	32.6	40.0	20.0	3.2	1.1	2.1	1.1	72.6	4.3	37.9	28.4	16.8	6.3	4.2	5.3	1.1	66.3	10.5	
	男性:片働きである	58	55.2	25.9	10.3	5.2	-	-	3.4	81.1	5.2	50.0	13.8	12.1	5.2	12.1	3.4	3.4	63.8	17.3	
男性:二人とも働いていない	74	40.5	29.7	18.9	4.1	1.4	-	5.4	70.2	5.5	37.8	23.0	12.2	14.9	5.4	-	6.8	60.8	20.3		
男性:その他	1	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
無回答	11	63.6	18.2	9.1	-	-	-	9.1	81.8	-	54.5	9.1	27.3	-	-	-	9.1	63.6	-		
		(5) 育児、子どものしつけをする										(6) 家族(親・祖父母等)の世話や介護をする									
		主 に 妻 が し て	え ど ち ら か と い	程 夫 と 妻 が 同 じ	え ど ち ら か と い	主 に 夫 が し て	当 そ の 他 ・ 非 該	無 回 答	妻 中 心 」 計	夫 中 心 」 計	主 に 妻 が し て	え ど ち ら か と い	程 夫 と 妻 が 同 じ	え ど ち ら か と い	主 に 夫 が し て	当 そ の 他 ・ 非 該	無 回 答	妻 中 心 」 計	夫 中 心 」 計		
全体	501	114	148	113	5	2	96	23	282	7	70	115	114	11	2	162	27	185	13		
	100.0	22.8	29.5	22.6	1.0	0.4	19.2	4.6	52.3	1.4	14.0	23.0	22.8	2.2	0.4	32.3	5.4	37.0	2.6		
年代別	女性:10,20代	5	20.0	-	20.0	-	-	-	20.0	-	-	-	40.0	-	-	60.0	-	-	-	-	
	女性:30代	31	22.6	38.7	25.8	-	-	12.9	61.3	-	9.7	9.7	12.9	-	-	67.7	-	19.4	-		
	女性:40代	40	27.5	42.5	27.5	-	-	2.5	70.0	-	17.5	22.5	22.5	2.5	-	35.0	-	40.0	2.5		
	女性:50代	44	36.4	18.2	29.5	-	-	15.9	54.6	-	13.6	36.4	22.7	4.5	-	22.7	-	50.0	4.5		
	女性:60代	65	26.2	33.8	20.0	-	-	16.9	60.0	-	26.2	30.8	20.0	1.5	-	15.4	4.6	57.0	3.0		
	女性:70代以上	79	35.4	25.3	11.4	-	-	17.7	60.7	-	26.6	24.1	12.7	-	-	27.8	8.9	50.7	-		
	男性:10,20代	4	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	75.0	-	-	-	-	-	-	
	男性:30代	18	22.2	22.2	33.3	-	-	16.7	5.6	44.4	-	5.6	16.7	33.3	-	-	38.9	5.6	22.3	-	
	男性:40代	28	17.9	28.6	39.3	3.6	-	10.7	-	46.5	3.6	3.6	14.3	25.0	3.6	-	53.6	-	17.9	3.6	
	男性:50代	27	14.8	48.1	22.2	3.7	-	11.1	-	62.9	3.7	14.8	25.9	40.7	-	3.7	14.8	-	40.7	3.7	
男性:60代	67	14.9	34.3	20.9	1.5	-	23.9	4.													

2. 家庭生活における慣習

問4. あなたの家庭生活において、以下のようなことがありますか(現在一人暮らしの方は、これまで家庭のなかで以下のようなことがありましたか)。(〇印はいくつでも)

傾 向

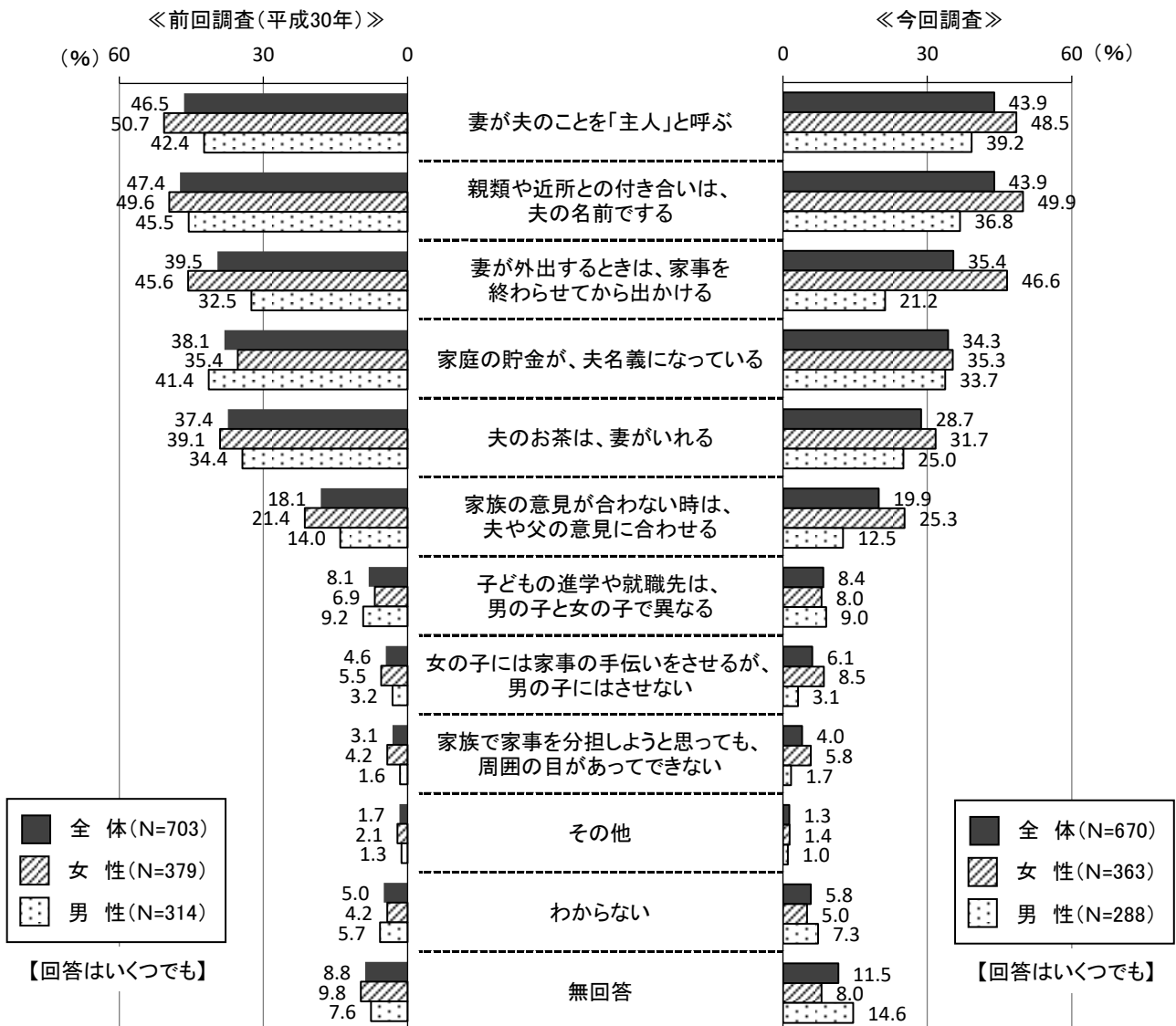
- 「妻が夫のことを「主人」と呼ぶ」「親類や近所との付き合いは、夫の名前です」が4割を超える。
- 女性の方が家庭内の性差別的な慣習を認識しており、「妻が外出するときは、家事を終わらせてから出かける」は性別による認識の差が大きい。

家庭生活における慣習についてたずねたところ、「妻が夫のことを「主人」と呼ぶ」(43.9%)「親類や近所との付き合いは、夫の名前です」(43.9%)が同率で最も高くなっている。以下、「妻が外出するときは、家事を終わらせてから出かける」(35.4%)、「家庭の貯金は夫名義になっている」(34.3%)、「夫のお茶は妻が入れる」(28.7%)などが続いている。

性別でみると、多くの項目で女性の割合が高くなっており、男性より女性の方が性差別的な慣習があると感じている。特に、「妻が外出するときは、家事を終わらせてから出かける」では女性46.6%、男性21.2%と25.4ポイントの差がみられる。また、全体では前回調査より割合が減った項目でも、「妻が夫のことを「主人」と呼ぶ」「親類や近所との付き合いは、夫の名前です」「妻が外出するときは、家事を終わらせてから出かける」「家庭の貯金は夫名義になっている」などは女性ではほとんど変化がないなど、性別によって認識に差がみられる。

前回調査と比較すると、「妻が夫のことを「主人」と呼ぶ」「親類や近所との付き合いは、夫の名前です」「妻が外出するときは、家事を終わらせてから出かける」「家庭の貯金は夫名義になっている」「夫のお茶は妻が入れる」など上位の項目は、いずれも前回調査より割合は減少しており、特に「夫のお茶は妻が入れる」は8.7ポイント低くなっている。

図表 2-3 家庭生活における慣習 [全体、性別] (前回調査比較)



第3章 子育てや教育について

1. 子どもの育て方

問5. あなたは、子どもの育て方についてどのような考え方を持っていますか。

次の項目について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。子どものいない方も、一般的にどう思われるかお答えください。(○印はそれぞれ1つ)

傾 向

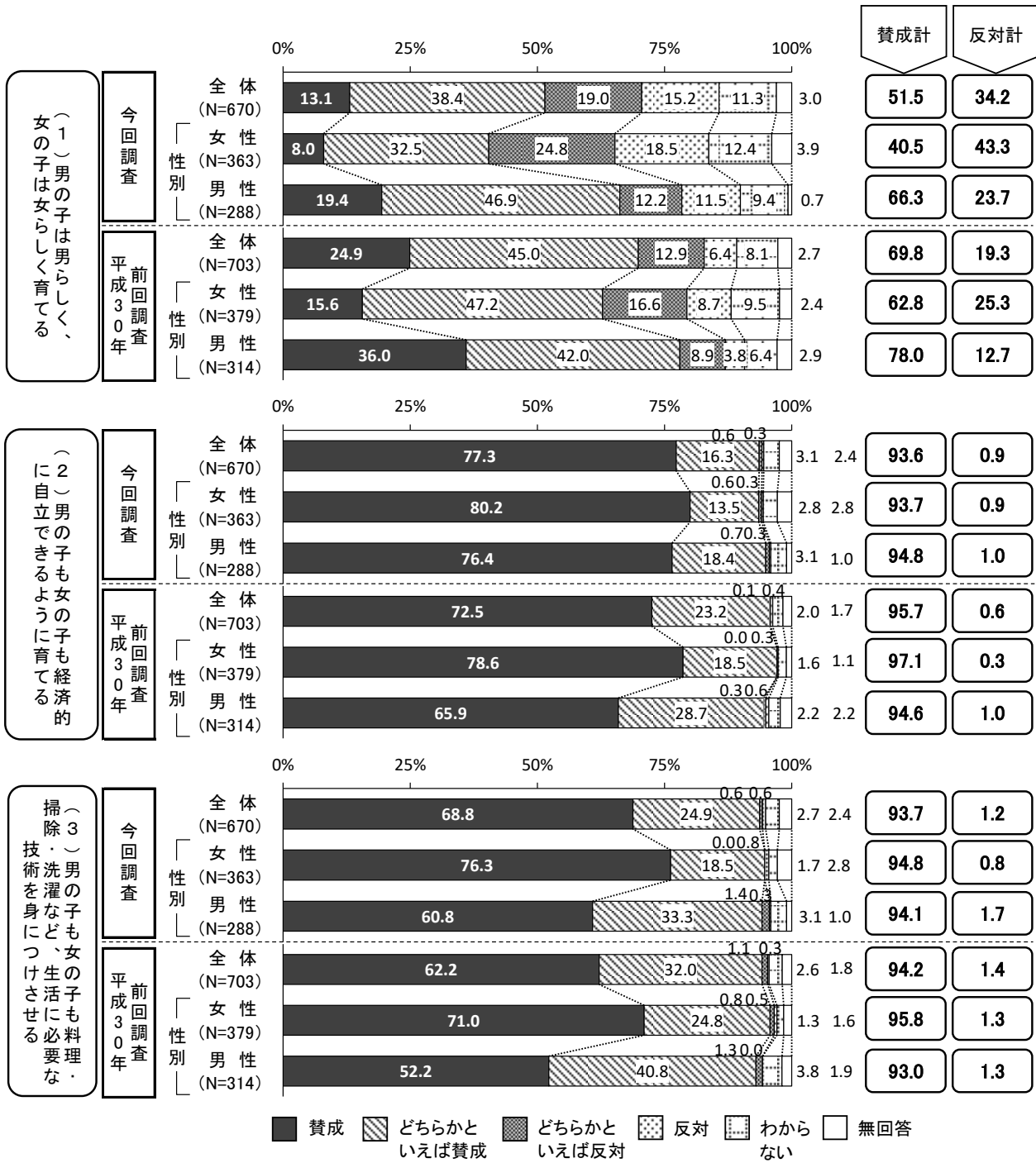
- 「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」に約半数が『賛成』するも、『反対』が増加傾向。
- 「男の子も女の子も経済的に自立できるように育てる」「男の子も女の子も生活に必要な技術を身につけさせる」は『賛成』が9割を超える。

「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」という考え方については、「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた『賛成』が 51.5%と約半数を占める。「男の子も女の子も経済的に自立できるように育てる」「男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる」なども『賛成』がそれぞれ 93.6%、93.7%と9割を超えて高い。「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」という意識をもつ人も多いものの、男の子にも女の子にも職業人、生活人として自立できることが必要と考える人が大半を占める。

性別でみると、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」について男性の『賛成』は 66.3%と約3分の2を占めるのに対し、女性は『賛成』が 40.5%、『反対』が 43.3%で『賛成』をやや上回っている。「男の子も女の子も経済的に自立できるように育てる」「男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる」は、『賛成派』の割合はほぼ同じだが、「賛成」だけでみると男性より女性の方が高く、特に「男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる」は女性の方が 15.5 ポイント高く、女性の方が積極的に肯定している。

前回調査と比較すると、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」は男女とも『賛成』が減少し、『反対』が増加しており、特に女性で『反対』が 18 ポイント増加している。「男の子も女の子も経済的に自立できるように育てる」「男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる」については、男女とも「賛成」が増加しており、特に男性で 8.6～10.5 ポイント増加している。

図表3-1 子どもの育て方〔全体、性別〕（前回調査比較）



男女共同参画に関する市民意識調査報告書

年代別でみると、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」は男女とも年齢が低い層で『反対』が高い傾向がみられる。

性別役割分担意識別でみると、性別役割分担に反対の人ほど「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」は「反対」が、「男の子も女の子も経済的に自立できるように育てる」「男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる」は「賛成」が高くなる傾向がみられる。一方で、性別役割分担に賛成の人でも、「男の子も女の子も経済的に自立できるように育てる」「男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる」について『反対』の人は1割に満たない。

図表3-2(1) 子どもの育て方〔全体、年代別、性別役割分担意識別〕

(%)

		標本数	(1)男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる						賛成 『計』	反対 『計』
			賛成	いど えち ばら 賛か 成と	いど えち ばら 反か 対と	反 対	わ か ら な い	無 回 答		
全体		670	88	257	127	102	76	20	345	229
		100.0	13.1	38.4	19.0	15.2	11.3	3.0	51.5	34.2
年代別	女性:10,20代	24	8.3	12.5	33.3	29.2	16.7	-	20.8	62.5
	女性:30代	36	-	27.8	22.2	30.6	16.7	2.8	27.8	52.8
	女性:40代	55	-	38.2	27.3	16.4	12.7	5.5	38.2	43.7
	女性:50代	63	6.3	28.6	27.0	17.5	17.5	3.2	34.9	44.5
	女性:60代	77	7.8	31.2	23.4	19.5	14.3	3.9	39.0	42.9
	女性:70代以上	108	15.7	38.9	22.2	13.0	5.6	4.6	54.6	35.2
	男性:10,20代	18	5.6	27.8	33.3	33.3	-	-	33.4	66.6
	男性:30代	19	5.3	42.1	5.3	21.1	26.3	-	47.4	26.4
	男性:40代	34	20.6	32.4	11.8	23.5	11.8	-	53.0	35.3
	男性:50代	33	18.2	39.4	30.3	3.0	9.1	-	57.6	33.3
	男性:60代	79	17.7	53.2	10.1	8.9	8.9	1.3	70.9	19.0
	男性:70代以上	105	25.7	53.3	5.7	6.7	7.6	1.0	79.0	12.4
不明・無回答		17	17.6	23.5	5.9	5.9	23.5	23.5	41.1	11.8
性別 役割 分担 意識 別	女性:賛成	11	63.6	9.1	-	-	18.2	9.1	72.7	-
	女性:どちらかといえば賛成	63	17.5	61.9	-	3.2	14.3	3.2	79.4	3.2
	女性:どちらかといえば反対	120	3.3	25.8	43.3	14.2	10.0	3.3	29.1	57.5
	女性:反対	123	4.1	23.6	26.8	34.1	6.5	4.9	27.7	60.9
	女性:わからない	38	2.6	36.8	10.5	13.2	36.8	-	39.4	23.7
	男性:賛成	11	63.6	27.3	-	-	9.1	-	90.9	-
	男性:どちらかといえば賛成	84	25.0	59.5	6.0	2.4	4.8	2.4	84.5	8.4
	男性:どちらかといえば反対	81	16.0	51.9	14.8	14.8	2.5	-	67.9	29.6
	男性:反対	72	15.3	34.7	19.4	20.8	9.7	-	50.0	40.2
	男性:わからない	33	9.1	39.4	9.1	6.1	36.4	-	48.5	15.2
	無回答		32	15.6	31.3	9.4	12.5	15.6	15.6	46.9

図表3-2 (2) 子どもの育て方 [全体、年代別、性別役割分担意識別]

(%)

		標本数	(2)男の子も女の子も経済的に自立できるように育てる							賛成 『計	反対 『計
			賛成	いど えち ばら 賛か 成と	いど えち ばら 反か 対と	反 対	わ か ら な い	無 回 答			
全体		670 100.0	518 77.3	109 16.3	4 0.6	2 0.3	21 3.1	16 2.4	627 93.6	6 0.9	
年代別	女性:10,20代	24	79.2	12.5	-	-	8.3	-	91.7	-	
	女性:30代	36	94.4	2.8	-	-	2.8	-	97.2	-	
	女性:40代	55	80.0	14.5	-	-	1.8	3.6	94.5	-	
	女性:50代	63	73.0	20.6	-	-	3.2	3.2	93.6	-	
	女性:60代	77	80.5	11.7	1.3	-	3.9	2.6	92.2	1.3	
	女性:70代以上	108	79.6	13.9	0.9	0.9	0.9	3.7	93.5	1.8	
	男性:10,20代	18	88.9	5.6	5.6	-	-	-	94.5	5.6	
	男性:30代	19	84.2	15.8	-	-	-	-	100.0	-	
	男性:40代	34	82.4	17.6	-	-	-	-	100.0	-	
	男性:50代	33	75.8	18.2	-	-	6.1	-	94.0	-	
	男性:60代	79	81.0	15.2	-	-	2.5	1.3	96.2	-	
	男性:70代以上	105	67.6	23.8	1.0	1.0	4.8	1.9	91.4	2.0	
不明・無回答		17	35.3	35.3	-	-	11.8	17.6	70.6	-	
性別 役割 分担 意識 別	女性:賛成	11	45.5	27.3	-	-	18.2	9.1	72.8	-	
	女性:どちらかといえば賛成	63	74.6	20.6	-	-	3.2	1.6	95.2	-	
	女性:どちらかといえば反対	120	81.7	13.3	0.8	-	1.7	2.5	95.0	0.8	
	女性:反対	123	86.2	8.1	0.8	0.8	0.8	3.3	94.3	1.6	
	女性:わからない	38	73.7	18.4	-	-	7.9	-	92.1	-	
	男性:賛成	11	72.7	27.3	-	-	-	-	100.0	-	
	男性:どちらかといえば賛成	84	71.4	22.6	1.2	1.2	1.2	2.4	94.0	2.4	
	男性:どちらかといえば反対	81	75.3	21.0	1.2	-	1.2	1.2	96.3	1.2	
	男性:反対	72	86.1	11.1	-	-	2.8	-	97.2	-	
	男性:わからない	33	69.7	15.2	-	-	15.2	-	84.9	-	
	無回答		32	59.4	21.9	-	-	6.3	12.5	81.3	-
			標本数	(3)男の子も女の子も料理・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる							賛成 『計
		賛成		いど えち ばら 賛か 成と	いど えち ばら 反か 対と	反 対	わ か ら な い	無 回 答			
全体		670 100.0	461 68.8	167 24.9	4 0.6	4 0.6	18 2.7	16 2.4	628 93.7	8 1.2	
年代別	女性:10,20代	24	83.3	8.3	-	-	8.3	-	91.6	-	
	女性:30代	36	91.7	8.3	-	-	-	-	100.0	-	
	女性:40代	55	78.2	18.2	-	-	-	3.6	96.4	-	
	女性:50代	63	69.8	23.8	-	-	3.2	3.2	93.6	-	
	女性:60代	77	81.8	11.7	-	1.3	2.6	2.6	93.5	1.3	
	女性:70代以上	108	68.5	25.9	-	1.9	-	3.7	94.4	1.9	
	男性:10,20代	18	88.9	5.6	-	-	5.6	-	94.5	-	
	男性:30代	19	84.2	15.8	-	-	-	-	100.0	-	
	男性:40代	34	76.5	23.5	-	-	-	-	100.0	-	
	男性:50代	33	78.8	21.2	-	-	-	-	100.0	-	
	男性:60代	79	60.8	32.9	2.5	-	2.5	1.3	93.7	2.5	
	男性:70代以上	105	41.0	48.6	1.9	1.0	5.7	1.9	89.6	2.9	
不明・無回答		17	41.2	23.5	-	-	17.6	17.6	64.7	-	
性別 役割 分担 意識 別	女性:賛成	11	63.6	9.1	-	-	18.2	9.1	72.7	-	
	女性:どちらかといえば賛成	63	60.3	33.3	-	3.2	1.6	1.6	93.6	3.2	
	女性:どちらかといえば反対	120	80.0	17.5	-	-	-	2.5	97.5	-	
	女性:反対	123	87.0	8.9	-	0.8	-	3.3	95.9	0.8	
	女性:わからない	38	60.5	31.6	-	-	7.9	-	92.1	-	
	男性:賛成	11	45.5	45.5	-	9.1	-	-	91.0	9.1	
	男性:どちらかといえば賛成	84	48.8	41.7	3.6	-	3.6	2.4	90.5	3.6	
	男性:どちらかといえば反対	81	60.5	33.3	-	-	4.9	1.2	93.8	-	
	男性:反対	72	80.6	18.1	1.4	-	-	-	98.7	1.4	
	男性:わからない	33	60.6	33.3	-	-	6.1	-	93.9	-	
	無回答		32	46.9	31.3	-	-	9.4	12.5	78.2	-

2. 学校教育の中で推進すべき男女共同参画の取り組み

問6. あなたは、男女共同参画をすすめるための取り組みとして、学校教育のなかで以下のことを推進すべきと思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。

(○印はそれぞれ1つ)

傾向

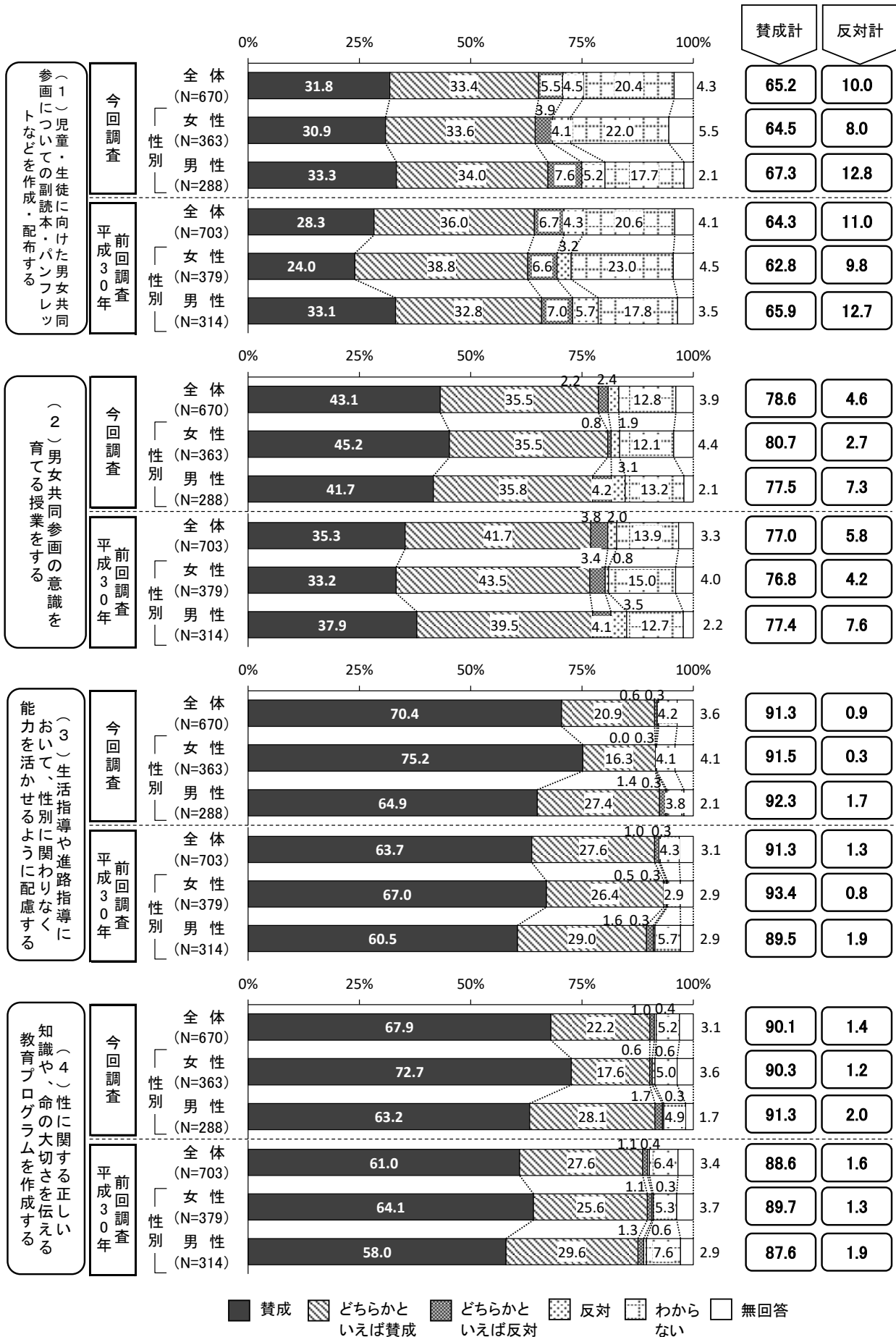
●学校教育での男女共同参画を進めるための取り組みについて、いずれの項目も『賛成』が6割台半ばから約9割となっており、学校教育での取組みの必要性が感じられている。

学校教育の中で男女共同参画をすすめるための取り組み6項目について、それぞれ賛否をたずねたところ、「性暴力や、セクシュアル・ハラスメントについて相談できる環境を整備する」(93.0%)、「生活指導や進路指導において、性別に関わりなく能力を活かせるように配慮する」(91.3%)、「性に関する正しい知識や、命の大切さを伝える教育プログラムを作成する」(90.1%)では、「賛成」「どちらかといえば賛成」をあわせた『賛成』が9割を超えて高くなっている。また、「教員自身の男女共同参画についての意識を高めるための研修を行う」(83.1%)、「男女共同参画の意識を育てる授業をする」(78.6%)、「児童・生徒に向けた男女共同参画についての副読本・パンフレットなどを作成する」(65.2%)も6割台半ばから8割を超える人が『賛成』であり、またこれらの項目では「わからない」が比較的高く、『反対』の割合はそれほど高くない。教育現場において男女共同参画を進めるための取り組みの必要性を感じている人は多い。

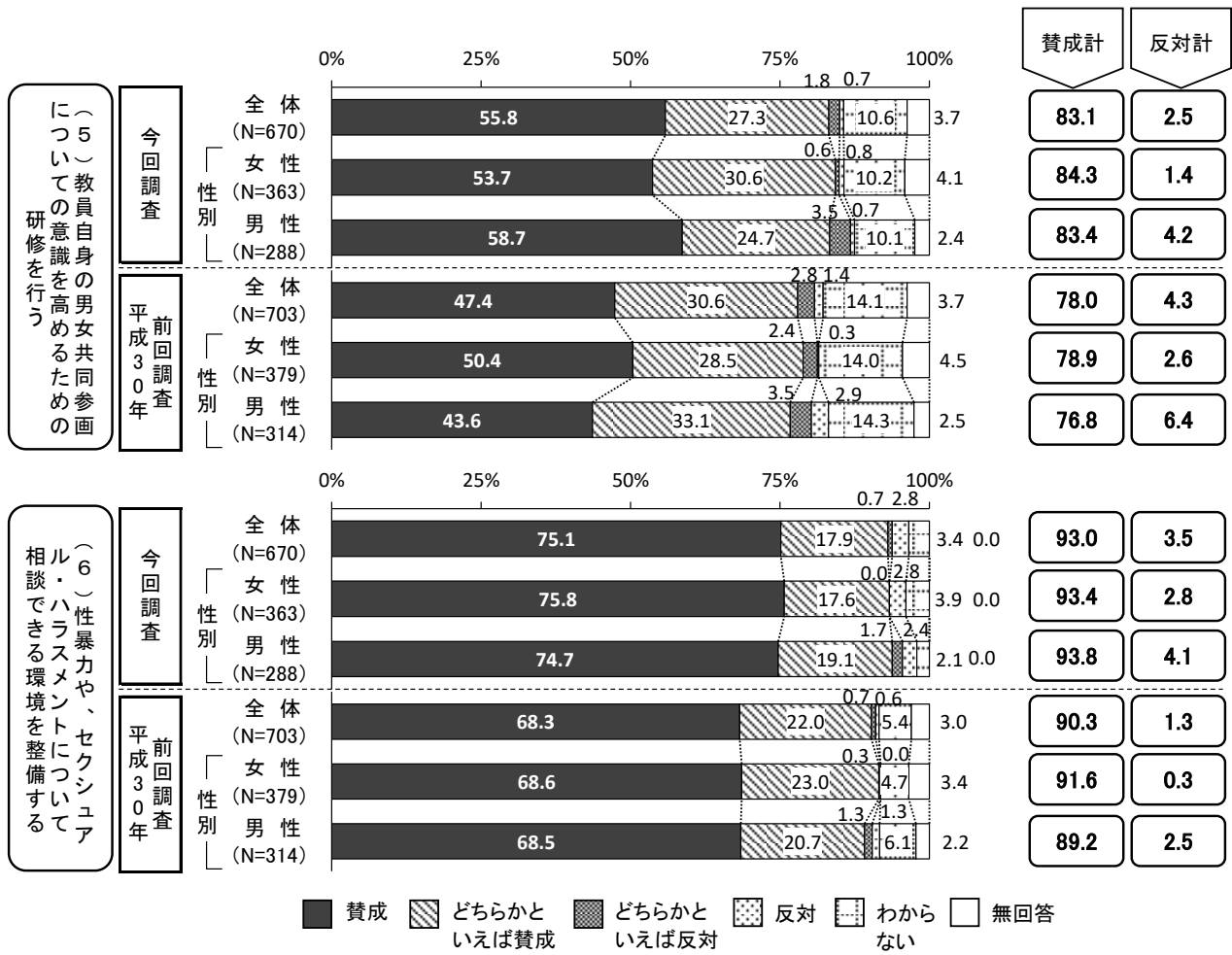
性別で見ると、『賛成』の割合に男女差はあまりないが、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるように配慮する」「性に関する正しい知識や命の大切さを伝える教育プログラムを作成する」は女性の「賛成」が男性より9.5～10.3ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、「性暴力や、セクシュアル・ハラスメントについて相談できる環境を整備する」は全体および男女とも「賛成」が6.2～7.2ポイント増加している。それ以外の項目についても、ほとんどの項目で「賛成」の割合が増加している。

図表3-3 (1) 学校教育の中で推進すべき男女共同参画の取り組み
[全体、性別] (前回調査比較)



図表 3-3 (2) 学校教育の中で推進すべき男女共同参画の取り組み
[全体、性別] (前回調査比較)



第4章 就労・働き方について

1. 女性が職業をもつことについて

(1) 理想の働き方

問7. 「女性が職業をもつこと」についておたずねします。

【女性の方】 あなたの理想の働き方に最も近いものを選んでください。

【男性の方】 あなたの妻やパートナーに求める理想の働き方に最も近いものを選んでください。(未婚の方も理想をお答えください。)(O印は1つ)

傾向

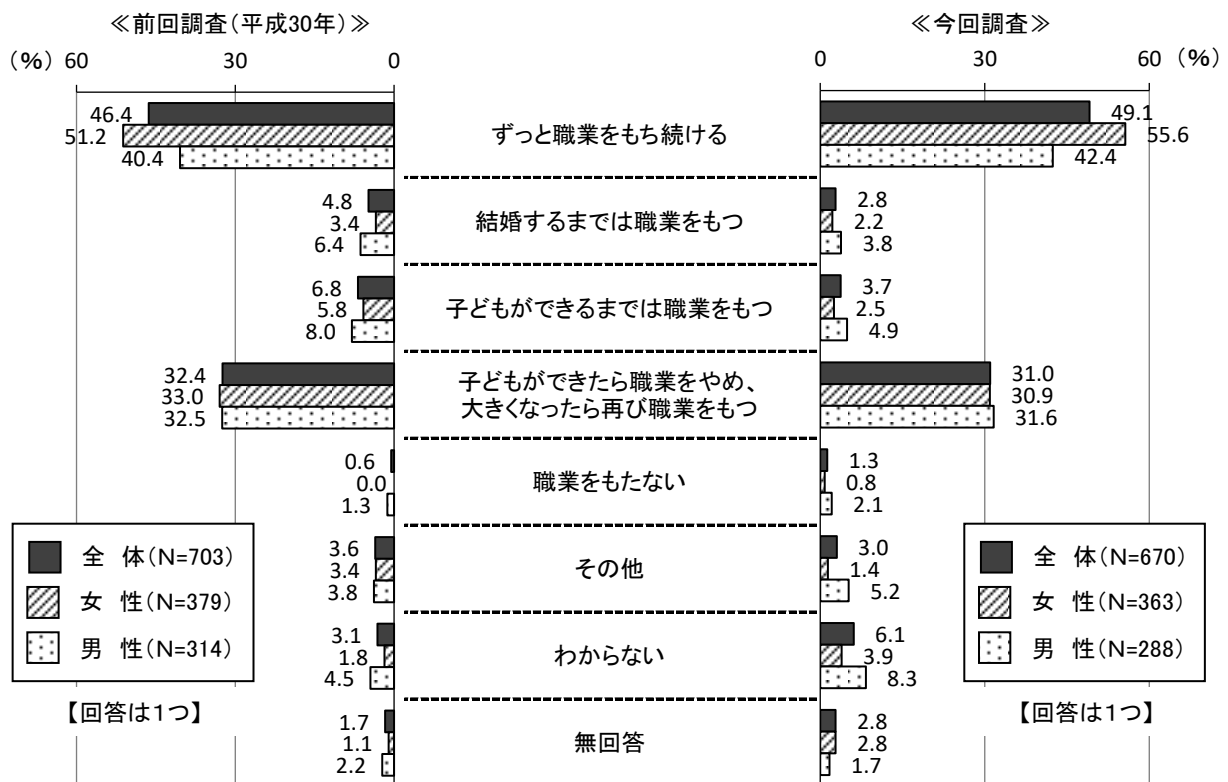
●女性の理想の働き方は、就労継続型が女性で5割台半ば、男性で約4割。

女性の理想の働き方についてたずねたところ、「結婚や出産に関わらず、ずっと職業をもち続ける」とする就労継続型が49.1%で最も高く、次いで「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ」といういわゆる中断再就労型が31.0%となっており、この2つの項目で約8割となっている。

性別で見ると、就労継続型は女性では55.6%で、男性より13.2ポイント高いが、中断再就労型は性別でほぼ差はみられない。

前回調査と比べて就労継続型がやや増加しているが、大きな変化はない。

図表4-1 理想の働き方 [全体、性別] (前回調査比較)



男女共同参画に関する市民意識調査報告書

年代別でみると、男女とも40代で就労継続型が、女性の30代と男性の60代で中断再就労型が高くなっている。

性別役割分担意識別では、性別役割分担に反対の人ほど就労継続型を支持しており、性別役割分担に「反対」の女性の72.4%、男性の63.9%が就労継続型を理想としている。

図表4-2 理想の働き方 [全体、年代別、性別役割分担意識別]

			る ず つ と 職 業 を も ち 続 け	も 結 婚 す る ま で は 職 業 を	職 業 を も つ	子 ど も が で き る ま で は	ら を 再 び 職 業 を も つ	子 ど も が で き た ら 職 業	職 業 を も た な い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
		標 本 数	(%)									
全 体		670 100.0	329 49.1	19 2.8	25 3.7	208 31.0	9 1.3	20 3.0	41 6.1	19 2.8		
年 代 別	女性:10,20代	24	54.2	4.2	4.2	33.3	-	-	4.2	-		
	女性:30代	36	44.4	-	2.8	44.4	2.8	-	5.6	-		
	女性:40代	55	67.3	1.8	-	23.6	-	3.6	1.8	1.8		
	女性:50代	63	57.1	1.6	4.8	27.0	-	-	6.3	3.2		
	女性:60代	77	61.0	-	1.3	26.0	2.6	3.9	1.3	3.9		
	女性:70代以上	108	49.1	4.6	2.8	35.2	-	-	4.6	3.7		
	男性:10,20代	18	55.6	-	5.6	22.2	-	5.6	11.1	-		
	男性:30代	19	36.8	-	-	31.6	-	15.8	10.5	5.3		
	男性:40代	34	58.8	2.9	2.9	14.7	2.9	8.8	5.9	2.9		
	男性:50代	33	57.6	-	3.0	24.2	3.0	-	12.1	-		
男性:60代	79	39.2	3.8	2.5	39.2	-	6.3	7.6	1.3			
男性:70代以上	105	33.3	6.7	8.6	35.2	3.8	2.9	7.6	1.9			
無回答		17	17.6	-	11.8	29.4	-	-	17.6	23.5		
性 別 役 割 分 担 意 識 別	女性:賛成	11	9.1	9.1	18.2	36.4	-	-	9.1	18.2		
	女性:どちらかといえば賛成	63	31.7	3.2	6.3	47.6	1.6	3.2	4.8	1.6		
	女性:どちらかといえば反対	120	60.0	1.7	2.5	30.0	0.8	0.8	2.5	1.7		
	女性:反対	123	72.4	1.6	-	20.3	0.8	0.8	0.8	3.3		
	女性:わからない	38	39.5	2.6	-	39.5	-	2.6	15.8	-		
	男性:賛成	11	18.2	9.1	-	63.6	9.1	-	-	-		
	男性:どちらかといえば賛成	84	20.2	3.6	9.5	56.0	3.6	4.8	-	2.4		
	男性:どちらかといえば反対	81	56.8	3.7	1.2	27.2	2.5	4.9	3.7	-		
	男性:反対	72	63.9	2.8	4.2	11.1	-	9.7	4.2	4.2		
	男性:わからない	33	21.2	6.1	3.0	15.2	-	-	54.5	-		
無回答		32	37.5	-	9.4	28.1	-	-	9.4	15.6		

(2) 現実の働き方

問8. 問7では理想の働き方についておたずねしましたが、ここでは現実の働き方についておたずねします。

【女性の方】 あなたは現実にどのような働き方をしましたか（すると思いますか）。

【男性の方】 あなたの妻やパートナーはどのような働き方をしましたか（すると思いますか）。（未婚の方も想定されることをお答えください。）（○印は1つ）

傾向

- 女性の現実の働き方は、就労継続型と中断再就職型がほぼ同率。
- 理想の働き方に比べ、就労継続型は少なく、専業主婦型は多くなっている。

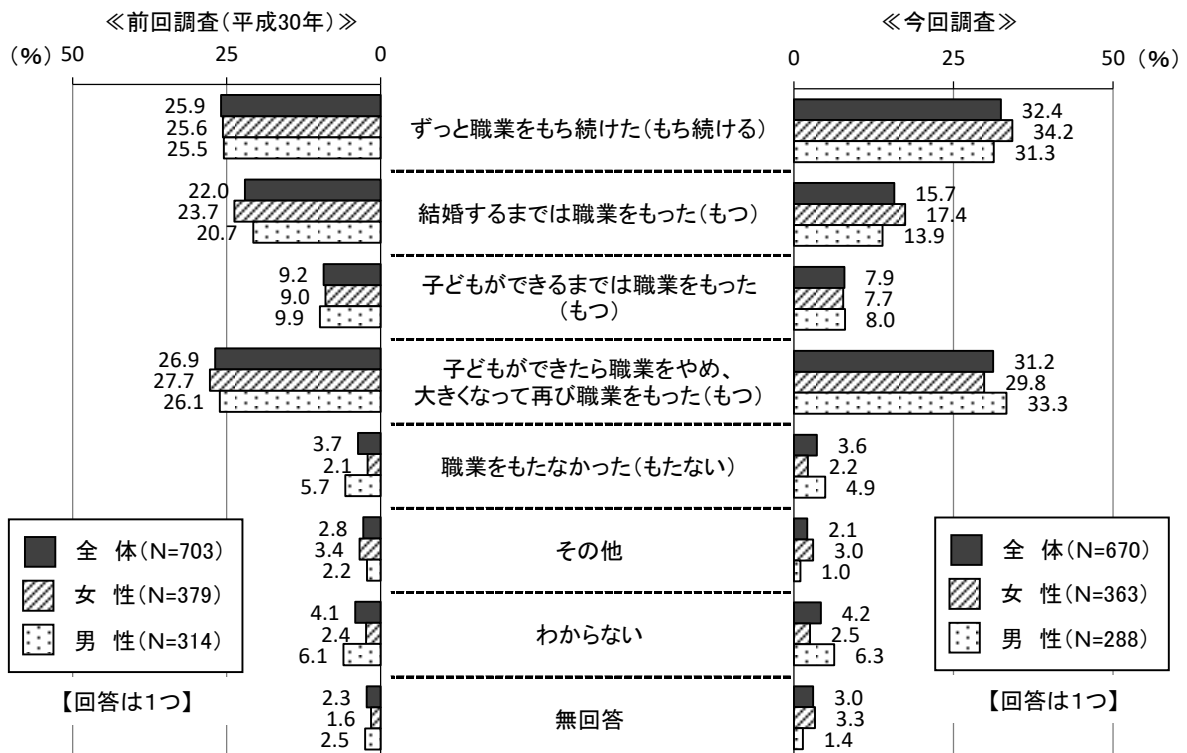
女性の現実の働き方としては、「結婚や出産に関わらず、ずっと職業をもち続けた（もち続ける）」という就労継続型が32.4%、「子どもができたら職業をやめ、大きくなって再び職業をもった（もつ）」という中断再就職型が31.2%でほぼ同率となっている。他に、「結婚するまでは職業をもった（もつ）」が15.7%、「子どもができるまでは職業をもった（もつ）」が7.9%などとなっている。

性別では大きな差はみられない。

前回調査と比べて、就労継続型が6.5ポイント増加し、中断再就職型が4.3ポイント、専業主婦型が7.7ポイント減少している。

理想の働き方と現実の働き方を比べると、中断再就職型は割合がほぼ同じだが、「結婚や出産に関わらず、ずっと職業をもち続ける」は、理想に比べて現実が16.7ポイント低くなっている。また、専業主婦型は理想の働き方では1割に満たなかったが、現実の働き方では合計で27.2%となっている。

図表4-3 現実の働き方 [全体、性別] (前回調査比較)



男女共同参画に関する市民意識調査報告書

年代別では、就労継続型は女性の10, 20代と男性の30代で5割を超えて高い。

性別役割分担意識別では、男女とも性別役割分担に反対の人ほど就労継続型の割合が高くなっている。

図表4-4 現実の働き方 [全体、年代別、性別役割分担意識別]

		標本数	（ずっと職 業をもち 続けた）	結婚する までは 職を	子どもが できる までは 職	子どもが 大きくな たら再 業を	職業を もたな かった （も	その他	わからない	無回答
全体		670 100.0	217 32.4	105 15.7	53 7.9	209 31.2	24 3.6	14 2.1	28 4.2	20 3.0
年代別	女性:10,20代	24	58.3	4.2	4.2	12.5	4.2	4.2	12.5	-
	女性:30代	36	38.9	8.3	16.7	27.8	2.8	2.8	2.8	-
	女性:40代	55	45.5	9.1	1.8	34.5	1.8	1.8	1.8	3.6
	女性:50代	63	38.1	9.5	9.5	31.7	-	3.2	4.8	3.2
	女性:60代	77	29.9	18.2	6.5	35.1	-	5.2	-	5.2
	女性:70代以上	108	22.2	31.5	8.3	26.9	4.6	1.9	0.9	3.7
	男性:10,20代	18	38.9	5.6	-	38.9	-	5.6	11.1	-
	男性:30代	19	52.6	5.3	10.5	15.8	-	5.3	5.3	5.3
	男性:40代	34	44.1	14.7	14.7	20.6	-	-	5.9	-
	男性:50代	33	45.5	6.1	6.1	30.3	3.0	-	6.1	3.0
	男性:60代	79	25.3	12.7	5.1	45.6	1.3	1.3	7.6	1.3
男性:70代以上	105	21.9	20.0	9.5	31.4	11.4	-	4.8	1.0	
無回答		17	17.6	11.8	11.8	17.6	11.8	-	5.9	23.5
性別 役割 分担 意識 別	女性:賛成	11	-	9.1	36.4	18.2	-	9.1	9.1	18.2
	女性:どちらかといえば賛成	63	14.3	33.3	9.5	31.7	3.2	3.2	3.2	1.6
	女性:どちらかといえば反対	120	30.8	16.7	6.7	34.2	2.5	3.3	2.5	3.3
	女性:反対	123	48.0	13.8	4.9	26.0	0.8	3.3	-	3.3
	女性:わからない	38	39.5	5.3	10.5	28.9	5.3	-	7.9	2.6
	男性:賛成	11	27.3	9.1	27.3	27.3	-	-	-	9.1
	男性:どちらかといえば賛成	84	20.2	23.8	7.1	35.7	7.1	2.4	1.2	2.4
	男性:どちらかといえば反対	81	35.8	9.9	8.6	38.3	2.5	1.2	3.7	-
	男性:反対	72	43.1	11.1	8.3	26.4	5.6	-	4.2	1.4
	男性:わからない	33	24.2	9.1	3.0	27.3	3.0	-	33.3	-
無回答		32	28.1	12.5	6.3	28.1	9.4	-	3.1	12.5

2. 男性の育児休業・介護休業取得率が低い理由

問9. 男性の育児休業・介護休業取得率が低い状況にありますか、それはなぜだと思いますか。(〇印はいくつでも)

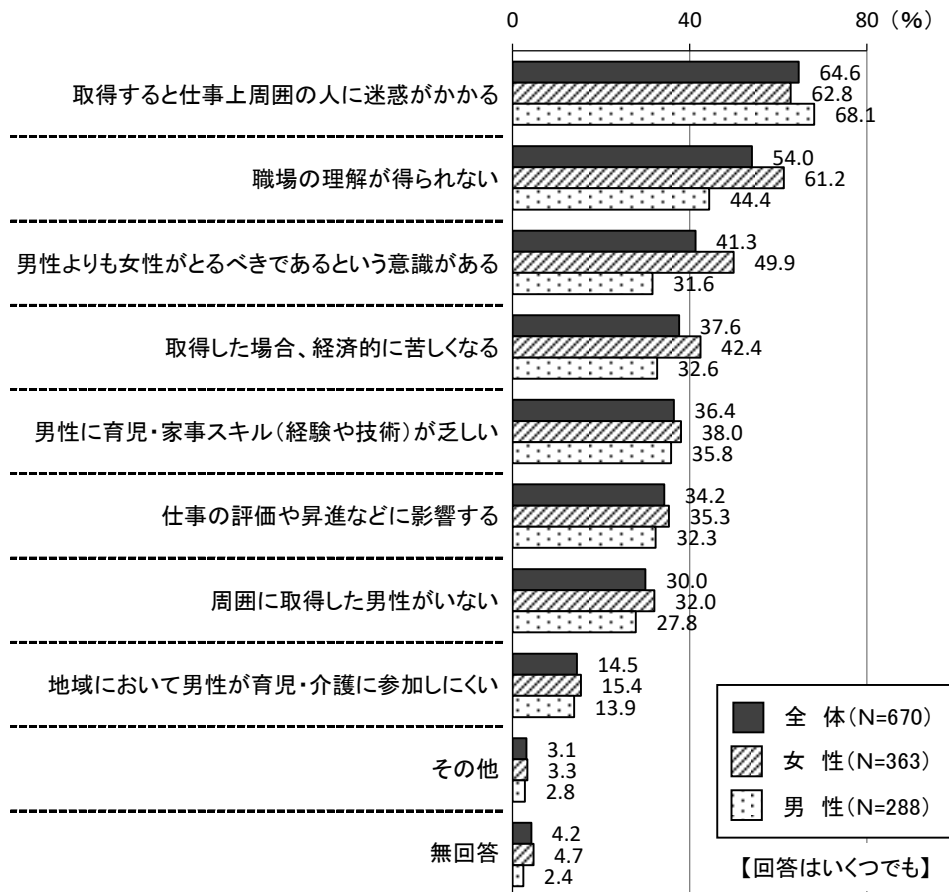
傾向

- 男性の育児休業や介護休業の取得率が低い理由として、「取得すると仕事上周囲の人に迷惑がかかる」が6割台半ば、「職場の理解が得られない」が5割台半ば。
- 男性は「取得すると仕事上周囲の人に迷惑がかかる」、女性は「職場の理解が得られない」「男性よりも女性がとるべきであるという意識がある」が高い。

男性の育児休業や介護休業の取得率が低い理由についてたずねたところ、「取得すると仕事上周囲の人に迷惑がかかる」が64.6%で最も高く、次いで「職場の理解が得られない」が54.0%、「男性よりも女性がとるべきであるという意識がある」が41.3%、「取得した場合、経済的に苦しくなる」が37.6%、「男性に育児・家事スキル(経験や技術)が乏しい」が36.4%、「仕事の評価や昇進などに影響する」が34.2%などとなっていた。

性別でみると、「取得すると仕事上周囲の人に迷惑がかかる」は女性(62.8%)より男性(68.1%)で5.3ポイント高く、「職場の理解が得られない」(女性61.2%、男性44.4%)、「男性よりも女性がとるべきであるという意識がある」(女性49.9%、男性31.6%)、「取得した場合、経済的に苦しくなる」(女性42.4%、男性32.6%)などは女性の方が男性より9.8~18.3ポイント高くなっている。

図表4-5 男性の育児休業・介護休業取得率が低い理由 [全体、性別]



男女共同参画に関する市民意識調査報告書

年代別でみると、「取得すると仕事上周囲の人に迷惑がかかる」は男性の10,20代と30代で8割を超えて高くなっている。全体的に、男女とも30代、40代での割合が高い傾向がみられ、育児に携わる年代の人が取得しづらさを感じていることがうかがえる。

働き方別でみると、女性の契約・派遣、パート・アルバイトや男性の勤め人（正社員・正規雇用）で「取得すると仕事上周囲の人に迷惑がかかる」や「職場の理解が得られない」が高くなっている。

図表4-6 男性の育児休業・介護休業取得率が低い理由 [全体、年代別、働き方別]

		標本数	職場の理解が得られない	周囲の人に迷惑がかかる	取得しにくい	取得した場合は苦しい	男性に育児・家事経験が乏しい	仕事の評価や昇進などに影響する	周囲に取れない	加育に育児・介護に男性が加わる	地域に育児・介護の意識が低い	男性よりも女性と異なる	その他	無回答
全体		670 100.0	362 54.0	433 64.6	252 37.6	244 36.4	229 34.2	201 30.0	97 14.5	277 41.3	21 3.1	28 4.2		
年代別	女性:10,20代	24	75.0	66.7	37.5	16.7	41.7	41.7	12.5	62.5	-	-		
	女性:30代	36	83.3	69.4	63.9	41.7	66.7	58.3	19.4	58.3	8.3	-		
	女性:40代	55	70.9	74.5	50.9	47.3	34.5	47.3	21.8	52.7	1.8	3.6		
	女性:50代	63	54.0	68.3	34.9	27.0	36.5	28.6	4.8	38.1	4.8	4.8		
	女性:60代	77	62.3	58.4	40.3	35.1	35.1	29.9	14.3	51.9	3.9	3.9		
	女性:70代以上	108	49.1	53.7	38.0	45.4	23.1	16.7	18.5	48.1	1.9	8.3		
	男性:10,20代	18	44.4	83.3	50.0	33.3	44.4	50.0	22.2	33.3	5.6	-		
	男性:30代	19	68.4	84.2	52.6	21.1	52.6	31.6	10.5	42.1	5.3	-		
	男性:40代	34	44.1	76.5	52.9	23.5	38.2	26.5	14.7	14.7	2.9	-		
	男性:50代	33	48.5	72.7	45.5	24.2	18.2	39.4	21.2	36.4	3.0	-		
男性:60代	79	38.0	63.3	29.1	38.0	32.9	25.3	13.9	31.6	3.8	3.8			
男性:70代以上	105	43.8	61.9	18.1	44.8	28.6	21.9	10.5	33.3	1.0	3.8			
	無回答	17	58.8	41.2	17.6	17.6	35.3	23.5	-	17.6	-	23.5		
働き方別	女性:勤め人(正社員、正規雇用)	74	66.2	62.2	47.3	23.0	35.1	35.1	10.8	48.6	2.7	4.1		
	女性:契約・派遣、パート・アルバイト	112	70.5	73.2	45.5	42.0	37.5	44.6	16.1	52.7	3.6	0.9		
	女性:自営業(農林水産・商工サービス)	18	44.4	50.0	38.9	11.1	22.2	16.7	5.6	22.2	5.6	33.3		
	女性:自由業	3	33.3	66.7	33.3	33.3	66.7	33.3	33.3	66.7	33.3	-		
	女性:専業主婦、学生、無職	147	54.4	58.5	40.1	45.6	35.4	24.5	18.4	51.0	2.7	3.4		
	女性:その他	3	33.3	33.3	-	33.3	33.3	-	33.3	100.0	-	-		
	男性:勤め人(正社員、正規雇用)	102	46.1	74.5	40.2	24.5	40.2	33.3	13.7	35.3	2.9	2.0		
	男性:契約・派遣、パート・アルバイト	43	37.2	69.8	37.2	37.2	23.3	23.3	16.3	23.3	4.7	2.3		
	男性:自営業(農林水産・商工サービス)	27	44.4	59.3	25.9	40.7	18.5	25.9	14.8	33.3	-	3.7		
	男性:自由業	13	23.1	76.9	23.1	53.8	30.8	38.5	15.4	23.1	-	-		
	男性:専業主夫、学生、無職	100	49.0	63.0	27.0	44.0	32.0	23.0	13.0	32.0	3.0	3.0		
	男性:その他	1	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-		
	無回答	25	60.0	36.0	16.0	24.0	32.0	16.0	-	24.0	-	24.0		

3. 職場における慣習

問10. 過去5年間に職業をもっていた方におたずねします。

あなたの職場において、以下のようなことがありますか（これまで働いてきた職場のなかで以下のようなことがありましたか）。（○印はいくつでも）

傾向

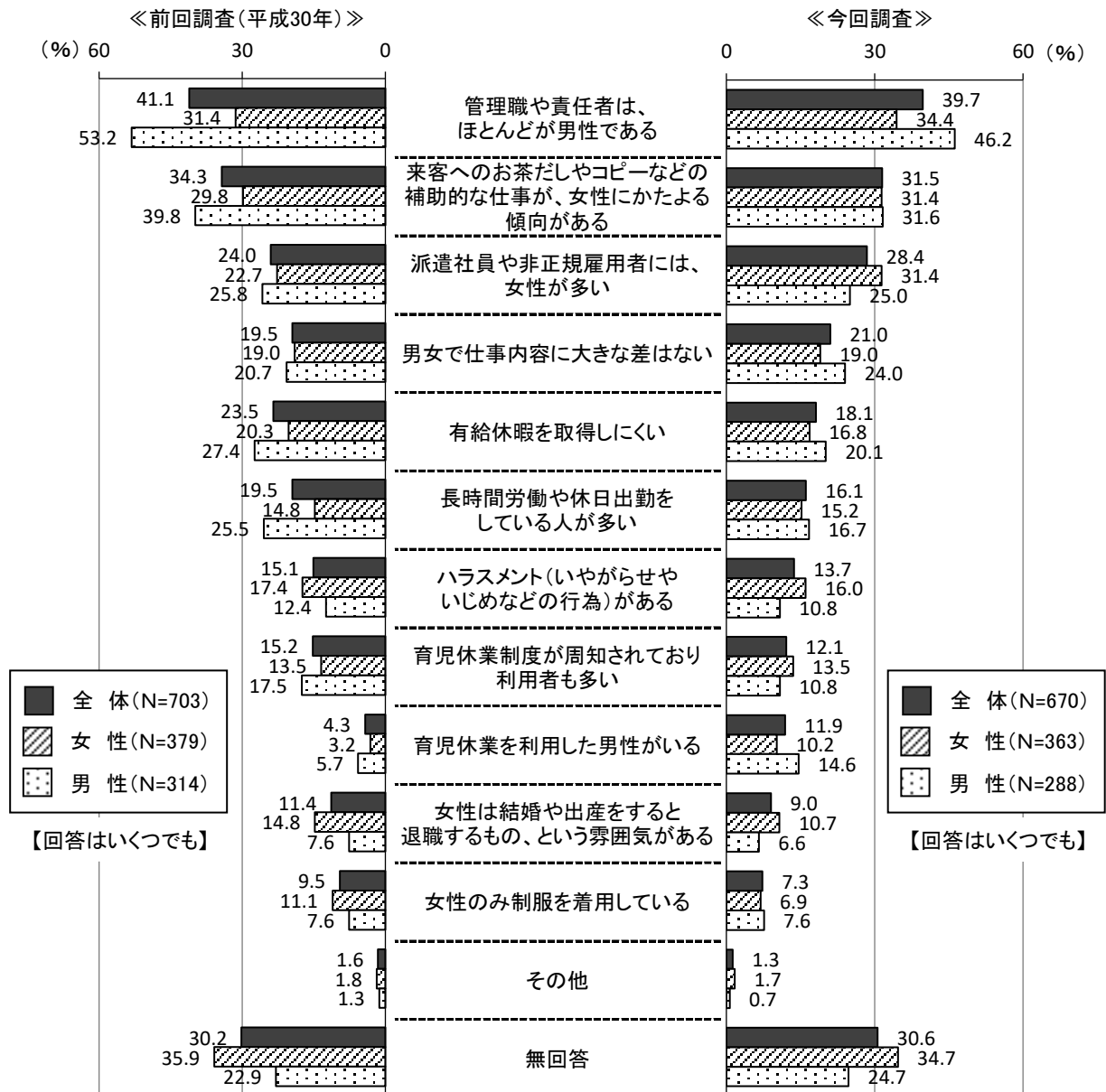
- 職場における慣習として、「管理職・責任者は男性」が約4割、「お茶出し、雑用が女性に偏る」が約3割。
- 「有給休暇を取得しにくい」「長時間労働や休日出勤が多い」は男性で減少、「育児休業利用の男性がいる」は男女とも増加。

過去5年間に職業をもっていた人に、職場における慣習についてたずねた。「管理職や責任者はほとんどが男性である」が39.7%で最も高く、「来客へのお茶だしや雑用などが女性に偏る傾向がある」が31.5%、「派遣社員や非正規雇用者には、女性が多い」が28.4%、「男女で仕事内容に大きな差はない」が21.0%、「有給休暇を取得しにくい」が18.1%などとなっている。

性別でみると、上位項目の順位は大きく変わらないが、男性の方が「管理職や責任者はほとんどが男性である」で11.8ポイント、「男女で仕事内容に大きな差はない」で5ポイント女性を上回っている。一方、「派遣社員や非正規雇用者には、女性が多い」「ハラスメント（いやがらせやいじめなどの行為）がある」は男性より女性で5.2～6.4ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、「管理職や責任者はほとんどが男性である」「来客へのお茶だしや雑用などが女性に偏る傾向がある」は男性で7～8.2ポイント減少したが、女性では大きな変化はみられない。「有給休暇を取得しにくい」と「長時間労働や休日出勤をしている人が多い」は、男性で7.3～8.8ポイント減少した。また、「育児休業を利用した男性がいる」は、男女とも7～8.9ポイント増加しており、働き方や育児休業の利用に関してやや変化がみられる。

図表4-7 職場における慣習 [全体、性別] (前回調査比較)



第4章 就労・働き方について

年代別でみると、「来客へのお茶だしや雑用などが女性に偏る傾向がある」は男女とも30代で約5割と高い。また、「育児休業を利用した男性がいる」は男性の30代で42.1%、「育児休業制度が周知されており利用者も多い」は女性の30代、40代で約3割と他の年代より高くなっている。一方、「有給休暇を取得しにくい」(63.2%)、「長時間労働や休日出勤をしている人が多い」(42.1%)は30代男性で目立って高くなっている。

働き方別にみると、「男女で仕事内容に大きな差はない」は、男女とも契約、派遣、パート・アルバイトよりも正規の勤め人で割合が高い。また、女性では「育児休業制度が周知されており利用者も多い」「有給休暇を取得しにくい」は契約、派遣、パート・アルバイトよりも正規の勤め人で高くなっている。

図表4-8 職場における慣習〔全体、年代別、働き方別〕

		標本数	性にかたよる傾向がある	来客への補助的な仕事がある	気がある	退職するもの	女性結婚や出産をする	管理職や責任者である	派遣社員や非正規雇用者に多い	ハラスメント(いやがらせ)	長時間労働や休日出勤が多い	有給休暇を取得しにくい	女性のみ制服を着用している	育児休業制度が周知されており利用者も多い	育児休業を利用した男性が多い	男女で仕事内容に大きな差はない	その他	無回答
全体		670	211	60	266	190	92	108	121	49	81	80	141	9	205			
		100.0	31.5	9.0	39.7	28.4	13.7	16.1	18.1	7.3	12.1	11.9	21.0	1.3	30.6			
年代別	女性:10,20代	24	29.2	16.7	25.0	25.0	16.7	16.7	20.8	-	16.7	16.7	25.0	-	29.2			
	女性:30代	36	50.0	16.7	52.8	47.2	22.2	36.1	30.6	8.3	27.8	16.7	22.2	2.8	8.3			
	女性:40代	55	38.2	3.6	41.8	52.7	20.0	16.4	20.0	7.3	30.9	16.4	27.3	-	18.2			
	女性:50代	63	42.9	12.7	52.4	46.0	23.8	17.5	14.3	14.3	15.9	15.9	25.4	1.6	17.5			
	女性:60代	77	27.3	9.1	29.9	32.5	16.9	15.6	19.5	6.5	3.9	7.8	19.5	2.6	37.7			
	女性:70代以上	108	18.5	11.1	19.4	7.4	6.5	5.6	9.3	3.7	4.6	1.9	8.3	1.9	61.1			
	男性:10,20代	18	22.2	16.7	50.0	11.1	11.1	16.7	5.6	-	5.6	16.7	16.7	-	38.9			
	男性:30代	19	52.6	21.1	68.4	31.6	26.3	42.1	63.2	-	15.8	42.1	31.6	-	-			
	男性:40代	34	35.3	8.8	47.1	8.8	11.8	14.7	32.4	-	11.8	26.5	29.4	-	8.8			
	男性:50代	33	33.3	3.0	51.5	39.4	15.2	15.2	24.2	6.1	18.2	18.2	33.3	-	15.2			
	男性:60代	79	27.8	1.3	44.3	36.7	12.7	19.0	13.9	11.4	16.5	16.5	29.1	1.3	15.2			
	男性:70代以上	105	30.5	6.7	41.0	18.1	4.8	11.4	14.3	10.5	3.8	2.9	15.2	1.0	41.9			
	無回答	17	29.4	5.9	41.2	23.5	11.8	23.5	5.9	5.9	5.9	5.9	17.6	-	47.1			
	働き方別	女性:勤め人(正社員、正規雇用)	74	40.5	10.8	41.9	43.2	23.0	24.3	31.1	5.4	32.4	27.0	40.5	-	5.4		
女性:契約・派遣、パート・アルバイト		112	46.4	12.5	51.8	46.4	22.3	22.3	17.0	11.6	13.4	11.6	24.1	1.8	11.6			
女性:自営業(農林水産・商工サービス)		18	44.4	16.7	27.8	27.8	11.1	16.7	16.7	11.1	11.1	-	5.6	-	44.4			
女性:自由業		3	33.3	-	33.3	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	-	-	-	33.3	-			
女性:専業主婦、学生、無職		147	14.3	9.5	17.7	14.3	8.2	4.8	10.2	2.7	4.1	1.4	6.1	1.4	66.0			
女性:その他		3	33.3	-	66.7	33.3	33.3	-	-	33.3	66.7	33.3	33.3	-	33.3			
男性:勤め人(正社員、正規雇用)		102	39.2	8.8	59.8	23.5	13.7	22.5	24.5	7.8	16.7	25.5	35.3	-	6.9			
男性:契約・派遣、パート・アルバイト		43	18.6	7.0	51.2	39.5	18.6	14.0	23.3	7.0	11.6	20.9	23.3	2.3	11.6			
男性:自営業(農林水産・商工サービス)		27	51.9	3.7	37.0	22.2	3.7	3.7	14.8	-	7.4	-	22.2	-	22.2			
男性:自由業		13	30.8	7.7	53.8	38.5	15.4	15.4	46.2	15.4	15.4	23.1	23.1	-	23.1			
男性:専業主夫、学生、無職		100	25.0	5.0	33.0	19.0	6.0	16.0	13.0	9.0	5.0	4.0	14.0	1.0	48.0			
男性:その他		1	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
無回答		25	24.0	4.0	36.0	20.0	8.0	20.0	4.0	4.0	4.0	8.0	16.0	4.0	52.0			

第5章 地域活動や社会活動への参加について

1. 女性の役職登用についての考え方

問11. あなたは、次にあげるような役職に、女性がどの程度つくことが望ましいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○印はそれぞれ1つ)

傾向

●男女ともすべての役職で「男性と同じくらいの方がよい」が最も高く、約5割から7割に上る。

市や地域の役職に女性がどの程度つくのが望ましいかをたずねた。いずれの役職も「男性と同じくらいの方がよい」の割合が最も高く、「農業委員」(49.1%)を除くすべての役職で約6割から7割を占めている。

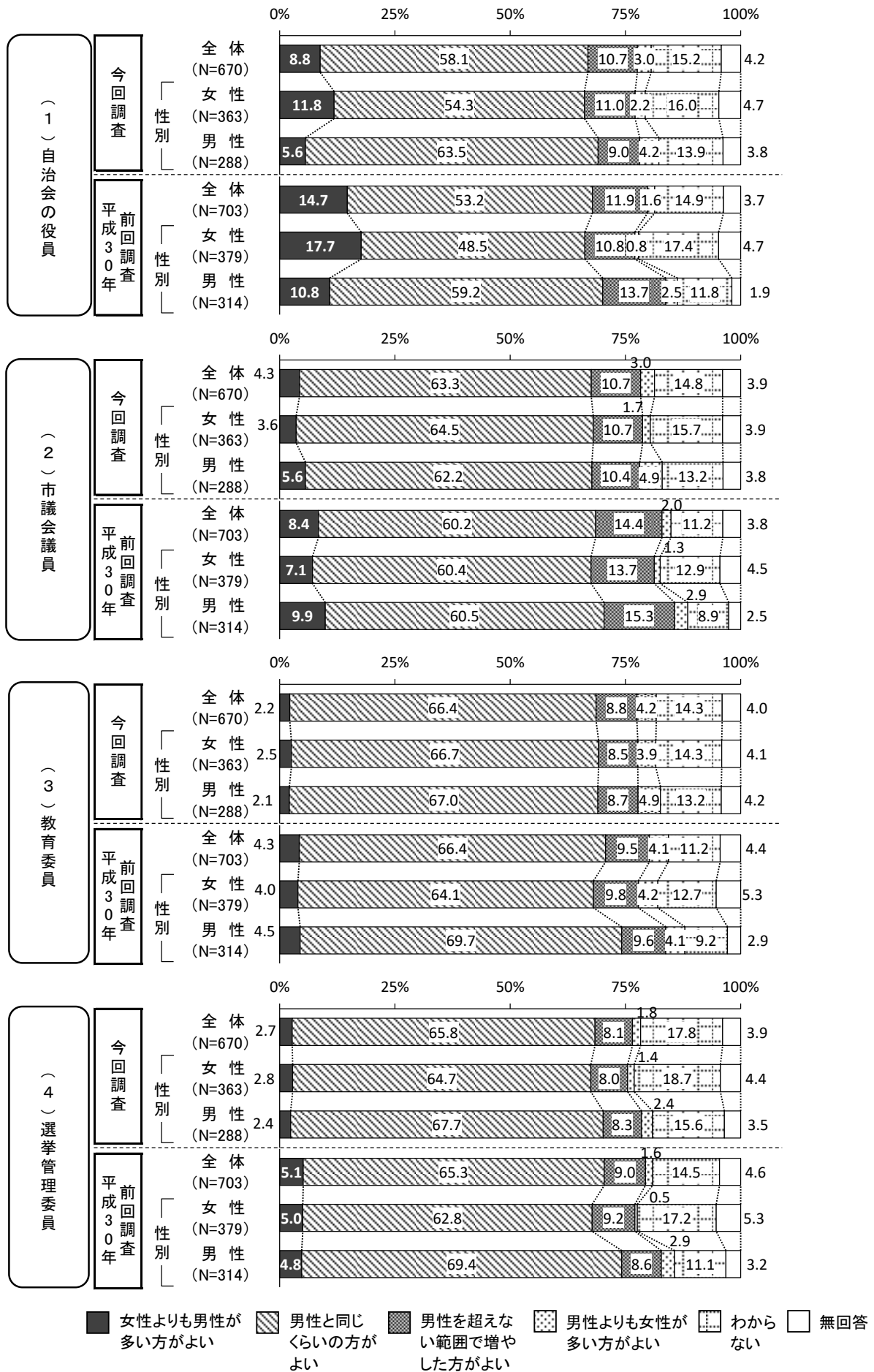
性別で見ると、「自治会の役員」「小・中学校PTA会長」は男性より女性で「女性よりも男性が多い方がよい」が4.9~6.2ポイント高く、男性は「男性と同じくらいの方がよい」が女性より9.2~9.8ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、ほぼすべての項目で「女性よりも男性が多い方がよい」が減少し、「教育委員」「選挙管理委員」以外のすべての項目で「男性と同じくらいの方がよい」が増加している。

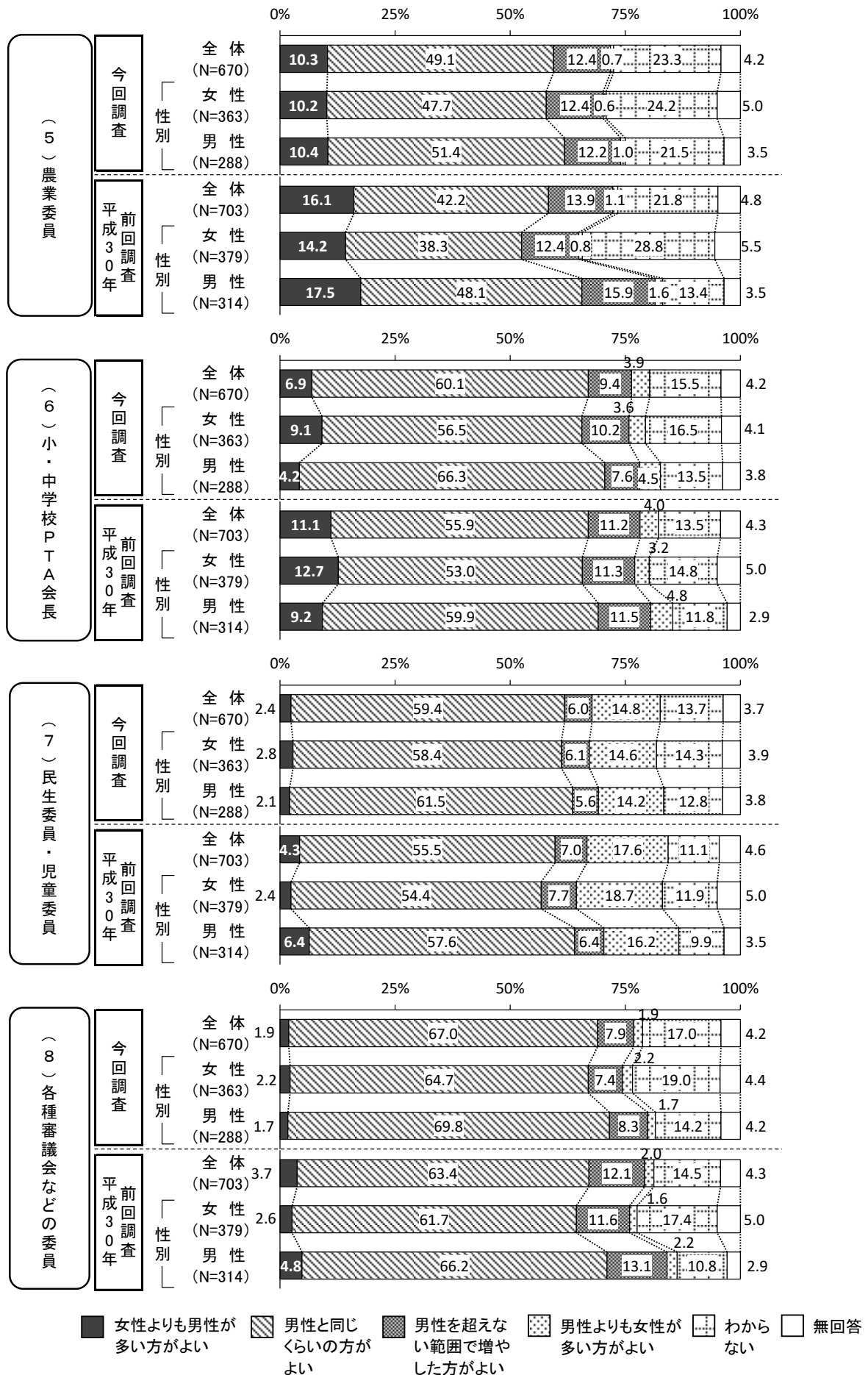
年代別で見ると、いずれの役職も男女とも50代、60代で「男性と同じくらいの方がよい」の割合が高い傾向がみられる。また、10,20代、30代は「わからない」の割合が比較的高い。

性別役割分担意識別にみると、ほとんどの役職で男女とも性別役割に反対する人の方が「男性と同じくらいの方がよい」の割合が高く、男女とも性別役割に賛成する人では「女性よりも男性が多い方がよい」の割合が高い傾向がみられる。

図表5-1 (1) 女性の役職登用についての考え方 [全体、性別] (前回調査比較)



図表 5-1 (2) 女性の役職登用についての考え方 [全体、性別] (前回調査比較)



図表5-2(1) 女性の役職登用についての考え方 [全体、年代別、性別役割分担意識別]

		(1)自治会の役員						(2)市議会議員						(%)	
		標本数	が女性	い男性	方範囲	が男性	わ	無	が女性	い男性	方範囲	が男性	わ	無	
			より	の方	がよ	多	か	回	多	の	がよ	多	か	回	
			男性	がよ	い	り	ら	答	性	方	で	性	ら	答	
			がよ	いく	やえ	も	ない		い	よ	え	も	ない		
			い	ら	し	よ			い	い	ない	い			
			性	たい	たい	性			性	性	性	性			
全体		670 100.0	59 8.8	389 58.1	72 10.7	20 3.0	102 15.2	28 4.2	29 4.3	424 63.3	72 10.7	20 3.0	99 14.8	26 3.9	
年代別	女性:10,20代	24	-	58.3	12.5	-	29.2	-	4.2	62.5	8.3	-	25.0	-	
	女性:30代	36	11.1	50.0	11.1	-	27.8	-	2.8	52.8	11.1	-	30.6	2.8	
	女性:40代	55	14.5	49.1	9.1	-	23.6	3.6	3.6	60.0	7.3	1.8	23.6	3.6	
	女性:50代	63	11.1	60.3	6.3	3.2	14.3	4.8	6.3	65.1	6.3	3.2	14.3	4.8	
	女性:60代	77	19.5	58.4	6.5	1.3	11.7	2.6	2.6	72.7	9.1	1.3	13.0	1.3	
	女性:70代以上	108	8.3	50.9	17.6	4.6	9.3	9.3	2.8	64.8	16.7	1.9	7.4	6.5	
	男性:10,20代	18	5.6	66.7	11.1	-	16.7	-	5.6	61.1	5.6	11.1	16.7	-	
	男性:30代	19	5.3	42.1	15.8	-	31.6	5.3	10.5	42.1	15.8	-	26.3	5.3	
	男性:40代	34	-	61.8	2.9	8.8	20.6	5.9	2.9	58.8	5.9	8.8	17.6	5.9	
	男性:50代	33	-	78.8	6.1	-	12.1	3.0	-	72.7	3.0	6.1	15.2	3.0	
男性:60代	79	2.5	65.8	7.6	8.9	12.7	2.5	2.5	70.9	5.1	3.8	15.2	2.5		
男性:70代以上	105	11.4	61.0	11.4	1.9	9.5	4.8	9.5	57.1	18.1	3.8	6.7	4.8		
	無回答	17	-	47.1	35.3	-	17.6	-	-	58.8	17.6	-	17.6	5.9	
性別役割分担意識別	女性:賛成	11	36.4	18.2	9.1	-	27.3	9.1	9.1	36.4	9.1	-	36.4	9.1	
	女性:どちらかといえば賛成	63	15.9	42.9	15.9	4.8	15.9	4.8	6.3	57.1	22.2	1.6	12.7	-	
	女性:どちらかといえば反対	120	15.0	51.7	11.7	1.7	15.8	4.2	4.2	65.8	10.8	0.8	14.2	4.2	
	女性:反対	123	5.7	68.3	9.8	2.4	10.6	3.3	2.4	74.0	5.7	3.3	10.6	4.1	
	女性:わからない	38	5.3	44.7	7.9	-	34.2	7.9	-	44.7	7.9	-	39.5	7.9	
	男性:賛成	11	18.2	9.1	27.3	9.1	18.2	18.2	18.2	45.5	9.1	-	9.1	18.2	
	男性:どちらかといえば賛成	84	8.3	70.2	13.1	1.2	6.0	1.2	9.5	63.1	16.7	1.2	8.3	1.2	
	男性:どちらかといえば反対	81	4.9	71.6	8.6	1.2	13.6	-	2.5	69.1	9.9	4.9	11.1	2.5	
	男性:反対	72	2.8	66.7	4.2	8.3	8.3	9.7	4.2	65.3	4.2	9.7	9.7	6.9	
	男性:わからない	33	-	39.4	6.1	6.1	48.5	-	-	39.4	12.1	6.1	42.4	-	
	無回答	32	9.4	53.1	18.8	3.1	9.4	6.3	3.1	68.8	12.5	-	9.4	6.3	
				(3)教育委員						(4)選挙管理委員					
		標本数	が女性	い男性	方範囲	が男性	わ	無	が女性	い男性	方範囲	が男性	わ	無	
			より	の方	がよ	多	か	回	多	の	がよ	多	か	回	
			男性	がよ	い	り	ら	答	性	方	で	性	ら	答	
			がよ	いく	やえ	も	ない		い	よ	え	も	ない		
			い	ら	し	よ			性	性	性	性			
			性	たい	たい	性			性	性	性	性			
全体		670 100.0	15 2.2	445 66.4	59 8.8	28 4.2	96 14.3	27 4.0	18 2.7	441 65.8	54 8.1	12 1.8	119 17.8	26 3.9	
年代別	女性:10,20代	24	-	66.7	4.2	8.3	20.8	-	-	62.5	8.3	-	29.2	-	
	女性:30代	36	2.8	50.0	11.1	5.6	27.8	2.8	-	58.3	5.6	-	33.3	2.8	
	女性:40代	55	5.5	61.8	7.3	1.8	20.0	3.6	3.6	65.5	7.3	-	20.0	3.6	
	女性:50代	63	3.2	71.4	3.2	4.8	12.7	4.8	4.8	65.1	3.2	3.2	19.0	4.8	
	女性:60代	77	1.3	77.9	5.2	2.6	11.7	1.3	3.9	75.3	6.5	-	13.0	1.3	
	女性:70代以上	108	1.9	63.9	14.8	3.7	8.3	7.4	1.9	59.3	13.0	2.8	14.8	8.3	
	男性:10,20代	18	-	66.7	11.1	5.6	16.7	-	-	66.7	11.1	-	22.2	-	
	男性:30代	19	-	57.9	15.8	-	21.1	5.3	-	52.6	15.8	-	26.3	5.3	
	男性:40代	34	2.9	52.9	2.9	17.6	20.6	2.9	2.9	61.8	2.9	5.9	23.5	2.9	
	男性:50代	33	-	78.8	-	3.0	15.2	3.0	-	75.8	3.0	6.1	12.1	3.0	
男性:60代	79	-	74.7	7.6	2.5	12.7	2.5	1.3	74.7	2.5	-	19.0	2.5		
男性:70代以上	105	4.8	63.8	12.4	3.8	8.6	6.7	4.8	64.8	14.3	2.9	8.6	4.8		
	無回答	17	-	52.9	17.6	-	29.4	-	5.9	58.8	5.9	-	29.4	-	
性別役割分担意識別	女性:賛成	11	9.1	36.4	9.1	-	36.4	9.1	9.1	27.3	9.1	-	45.5	9.1	
	女性:どちらかといえば賛成	63	6.3	58.7	20.6	1.6	12.7	-	6.3	57.1	17.5	1.6	15.9	1.6	
	女性:どちらかといえば反対	120	0.8	75.0	6.7	3.3	10.8	3.3	1.7	70.8	7.5	0.8	15.8	3.3	
	女性:反対	123	2.4	71.5	4.1	6.5	10.6	4.9	2.4	72.4	4.1	2.4	13.8	4.9	
	女性:わからない	38	-	42.1	10.5	2.6	36.8	7.9	-	39.5	7.9	-	44.7	7.9	
	男性:賛成	11	9.1	27.3	27.3	-	9.1	27.3	18.2	36.4	18.2	-	9.1	18.2	
	男性:どちらかといえば賛成	84	4.8	75.0	9.5	1.2	8.3	1.2	4.8	72.6	10.7	1.2	9.5	1.2	
	男性:どちらかといえば反対	81	-	71.6	9.9	4.9	11.1	2.5	-	69.1	9.9	4.9	14.8	1.2	
	男性:反対	72	1.4	66.7	4.2	11.1	9.7	6.9	1.4	72.2	4.2	1.4	13.9	6.9	
	男性:わからない	33	-	48.5	6.1	3.0	42.4	-	-	48.5	6.1	3.0	42.4	-	
	無回答	32	-	65.6	12.5	-	15.6	6.3	3.1	71.9	3.1	-	15.6	6.3	

男女共同参画に関する市民意識調査報告書

図表5-2(2) 女性の役職登用についての考え方 [全体、年代別、性別役割分担意識別]

		(5) 農業委員						(6) 小・中学校PTA会長						
		標本数	が女性より方もよい	い男性の方がよいくら	方範囲がよいで増えたい	が男性より方もよい女性	わからない	無回答	が女性より方もよい男性	い男性の方がよいくら	方範囲がよいで増えたい	が男性より方もよい女性	わからない	無回答
全体		670 100.0	69 10.3	329 49.1	83 12.4	5 0.7	156 23.3	28 4.2	46 6.9	403 60.1	63 9.4	26 3.9	104 15.5	28 4.2
年代別	女性:10,20代	24	-	58.3	16.7	-	25.0	-	8.3	58.3	4.2	8.3	20.8	-
	女性:30代	36	2.8	55.6	8.3	-	33.3	-	2.8	50.0	8.3	5.6	33.3	-
	女性:40代	55	7.3	41.8	10.9	-	32.7	7.3	9.1	52.7	10.9	1.8	21.8	3.6
	女性:50代	63	11.1	46.0	7.9	3.2	27.0	4.8	9.5	54.0	7.9	6.3	17.5	4.8
	女性:60代	77	16.9	55.8	9.1	-	16.9	1.3	10.4	64.9	9.1	1.3	10.4	3.9
	女性:70代以上	108	11.1	40.7	18.5	-	20.4	9.3	10.2	55.6	13.9	2.8	11.1	6.5
	男性:10,20代	18	5.6	50.0	16.7	-	27.8	-	5.6	66.7	11.1	-	16.7	-
	男性:30代	19	5.3	42.1	10.5	-	36.8	5.3	-	57.9	10.5	5.3	21.1	5.3
	男性:40代	34	8.8	52.9	8.8	2.9	23.5	2.9	2.9	61.8	5.9	5.9	20.6	2.9
	男性:50代	33	-	72.7	6.1	-	18.2	3.0	-	75.8	6.1	3.0	12.1	3.0
男性:60代	79	10.1	53.2	11.4	-	22.8	2.5	3.8	72.2	2.5	5.1	13.9	2.5	
男性:70代以上	105	16.2	44.8	15.2	1.9	17.1	4.8	6.7	61.9	11.4	4.8	9.5	5.7	
無回答	17	11.8	41.2	17.6	-	29.4	-	5.9	35.3	23.5	-	23.5	11.8	
性別役割分担意識別	女性:賛成	11	27.3	9.1	9.1	-	45.5	9.1	27.3	9.1	9.1	-	45.5	9.1
	女性:どちらかといえば賛成	63	22.2	33.3	20.6	-	23.8	-	9.5	55.6	20.6	1.6	12.7	-
	女性:どちらかといえば反対	120	9.2	51.7	12.5	-	20.8	5.8	12.5	55.8	12.5	3.3	11.7	4.2
	女性:反対	123	6.5	56.9	11.4	1.6	18.7	4.9	4.9	67.5	4.9	5.7	13.0	4.1
	女性:わからない	38	2.6	34.2	5.3	-	50.0	7.9	7.9	31.6	5.3	2.6	44.7	7.9
	男性:賛成	11	27.3	18.2	18.2	-	18.2	18.2	9.1	54.5	9.1	-	9.1	18.2
	男性:どちらかといえば賛成	84	17.9	51.2	13.1	1.2	15.5	1.2	4.8	69.0	11.9	4.8	7.1	2.4
	男性:どちらかといえば反対	81	7.4	56.8	13.6	1.2	19.8	1.2	3.7	70.4	6.2	6.2	12.3	1.2
	男性:反対	72	6.9	54.2	9.7	1.4	20.8	6.9	4.2	72.2	4.2	4.2	8.3	6.9
	男性:わからない	33	3.0	36.4	12.1	-	48.5	-	3.0	42.4	3.0	3.0	48.5	-
無回答	32	6.3	59.4	9.4	-	18.8	6.3	3.1	53.1	18.8	-	12.5	12.5	
		(7) 民生委員・児童委員						(8) 各種審議会などの委員						
		標本数	が女性より方もよい	い男性の方がよいくら	方範囲がよいで増えたい	が男性より方もよい女性	わからない	無回答	が女性より方もよい男性	い男性の方がよいくら	方範囲がよいで増えたい	が男性より方もよい女性	わからない	無回答
全体		670 100.0	16 2.4	398 59.4	40 6.0	99 14.8	92 13.7	25 3.7	13 1.9	449 67.0	53 7.9	13 1.9	114 17.0	28 4.2
年代別	女性:10,20代	24	-	62.5	4.2	12.5	20.8	-	-	62.5	12.5	4.2	20.8	-
	女性:30代	36	-	50.0	8.3	8.3	33.3	-	-	52.8	8.3	-	36.1	2.8
	女性:40代	55	1.8	54.5	1.8	16.4	21.8	3.6	3.6	61.8	5.5	-	25.5	3.6
	女性:50代	63	1.6	55.6	4.8	19.0	14.3	4.8	3.2	61.9	3.2	4.8	22.2	4.8
	女性:60代	77	2.6	68.8	6.5	10.4	10.4	1.3	2.6	68.8	11.7	-	15.6	1.3
	女性:70代以上	108	5.6	56.5	8.3	16.7	5.6	7.4	1.9	69.4	6.5	3.7	10.2	8.3
	男性:10,20代	18	-	61.1	-	22.2	16.7	-	-	72.2	11.1	-	16.7	-
	男性:30代	19	-	47.4	10.5	10.5	26.3	5.3	-	57.9	15.8	-	21.1	5.3
	男性:40代	34	-	52.9	8.8	17.6	17.6	2.9	-	61.8	8.8	5.9	20.6	2.9
	男性:50代	33	-	72.7	3.0	9.1	12.1	3.0	-	78.8	3.0	3.0	12.1	3.0
男性:60代	79	1.3	69.6	-	15.2	11.4	2.5	1.3	73.4	6.3	1.3	13.9	3.8	
男性:70代以上	105	4.8	57.1	9.5	13.3	9.5	5.7	3.8	68.6	9.5	1.0	11.4	5.7	
無回答	17	-	47.1	11.8	29.4	11.8	-	-	70.6	11.8	-	17.6	-	
性別役割分担意識別	女性:賛成	11	18.2	27.3	-	18.2	27.3	9.1	9.1	18.2	-	-	54.5	18.2
	女性:どちらかといえば賛成	63	-	50.8	14.3	22.2	12.7	-	4.8	60.3	12.7	4.8	17.5	-
	女性:どちらかといえば反対	120	4.2	63.3	5.8	13.3	10.0	3.3	0.8	69.2	9.2	0.8	16.7	3.3
	女性:反対	123	1.6	65.0	3.3	14.6	11.4	4.1	2.4	72.4	4.9	3.3	12.2	4.9
	女性:わからない	38	2.6	36.8	5.3	7.9	39.5	7.9	-	42.1	5.3	-	44.7	7.9
	男性:賛成	11	-	27.3	36.4	9.1	9.1	18.2	18.2	18.2	27.3	-	9.1	27.3
	男性:どちらかといえば賛成	84	4.8	69.0	4.8	11.9	7.1	2.4	2.4	77.4	9.5	-	8.3	2.4
	男性:どちらかといえば反対	81	1.2	64.2	4.9	17.3	11.1	1.2	-	74.1	9.9	2.5	12.3	1.2
	男性:反対	72	1.4	61.1	-	20.8	9.7	6.9	1.4	75.0	2.8	4.2	9.7	6.9
	男性:わからない	33	-	48.5	6.1	3.0	42.4	-	-	48.5	6.1	-	45.5	-
無回答	32	-	59.4	12.5	15.6	6.3	6.3	-	71.9	9.4	-	12.5	6.3	

2. 女性が役職につくことについての考え方

(1) 地域の役職に推薦された場合の対処

問12. 自治会長や公民館長、PTA会長などの地域の役職についておたずねします。

【女性の方】あなたが推薦されたらどうしますか。

【男性の方】妻などの身近な女性が推薦されたらどうしますか。(〇印は1つ)

傾向

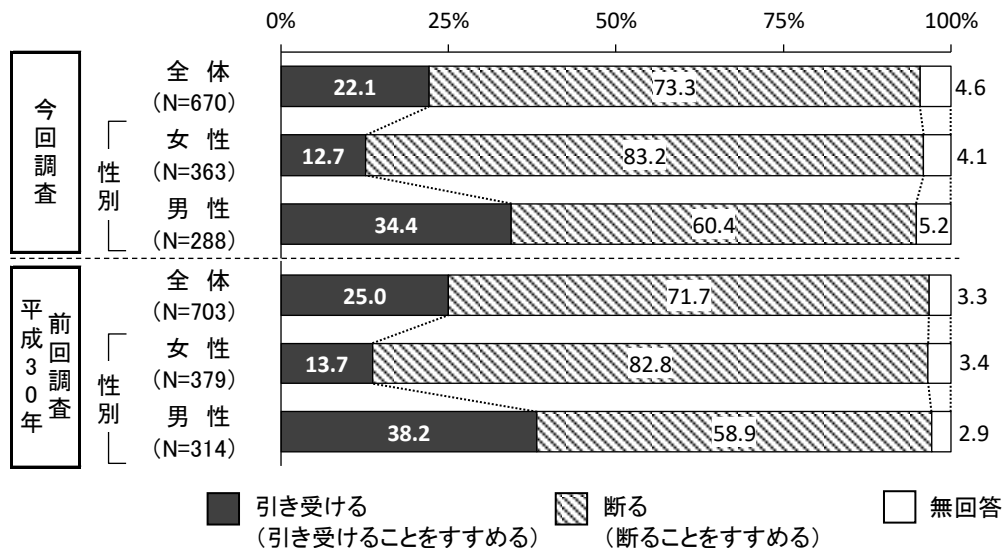
●地域の役職に推薦された場合、「引き受ける」女性は約1割。「引き受けることをすすめる」男性は3割台半ば。

自治会長や公民館長など地域の役職について、女性は自分が推薦された場合に引き受けるかどうか、男性は妻などの身近な女性が推薦された場合に引き受けることをすすめるかどうかをたずねたところ、「引き受ける（引き受けることをすすめる）」が22.1%、「断る（断ることをすすめる）」が73.3%となっている。

性別でみると、女性は「引き受ける」が12.7%と男性の「引き受けることをすすめる」の34.4%を大きく下回る結果となっている。地域の役職につくことに女性の方が消極的であることが表れているが、男性も60.4%が「断ることをすすめる」と回答しており、身近な女性が役職につくことに積極的とはいえない。

前回調査と比較すると、傾向としては大きな変化はみられないが、「引き受ける（引き受けることをすすめる）」が全体的に減少している。

図表5-3 地域の役職に推薦された場合の対処 [全体、性別] (前回調査比較)



男女共同参画に関する市民意識調査報告書

年代別でみると、10、20代では「引き受ける（引き受けることをすすめる）」の割合が女性で29.2%、男性では44.4%で、若い世代で積極的な回答がみられた。男性では60代でも「引き受けることをすすめる」が40.5%と高くなっている。一方、女性の30代、40代では「引き受ける」が1割に満たない。

性別役割分担意識別にみると、男性は性別役割分担への賛否による差はほとんどみられないが、女性は性別役割分担に「反対」と回答した人の方が「引き受ける」の割合が低くなる傾向がみられる。

図表5-4 地域の役職に推薦された場合の対処 [全体、年代別、性別役割分担意識別]

			(%)		
		標本数	する（引 めこ引き るととき るを受け ）をすける	めこ断 るとる ）を（断 すする	無回 答
全 体		670 100.0	148 22.1	491 73.3	31 4.6
年 代 別	女性:10,20代	24	29.2	70.8	-
	女性:30代	36	5.6	94.4	-
	女性:40代	55	7.3	89.1	3.6
	女性:50代	63	15.9	77.8	6.3
	女性:60代	77	11.7	85.7	2.6
	女性:70代以上	108	13.0	80.6	6.5
	男性:10,20代	18	44.4	55.6	-
	男性:30代	19	26.3	68.4	5.3
	男性:40代	34	32.4	61.8	5.9
	男性:50代	33	24.2	72.7	3.0
	男性:60代	79	40.5	55.7	3.8
	男性:70代以上	105	33.3	59.0	7.6
	無回答	17	17.6	76.5	5.9
	性 別 役 割 分 担 意 識 別	女性:賛成	11	27.3	54.5
女性:どちらかといえば賛成		63	15.9	84.1	-
女性:どちらかといえば反対		120	14.2	80.8	5.0
女性:反対		123	8.9	87.0	4.1
女性:わからない		38	10.5	86.8	2.6
男性:賛成		11	36.4	54.5	9.1
男性:どちらかといえば賛成		84	38.1	59.5	2.4
男性:どちらかといえば反対		81	34.6	60.5	4.9
男性:反対		72	38.9	55.6	5.6
男性:わからない		33	21.2	69.7	9.1
無回答		32	12.5	78.1	9.4

(2) 地域の役職を断る理由

副問1. (問12で「2. 断る(断ることをすすめる)」と回答した方におたずねします。) その理由は何ですか。最も近いものを選んでください。(〇印は3つまで)

傾向

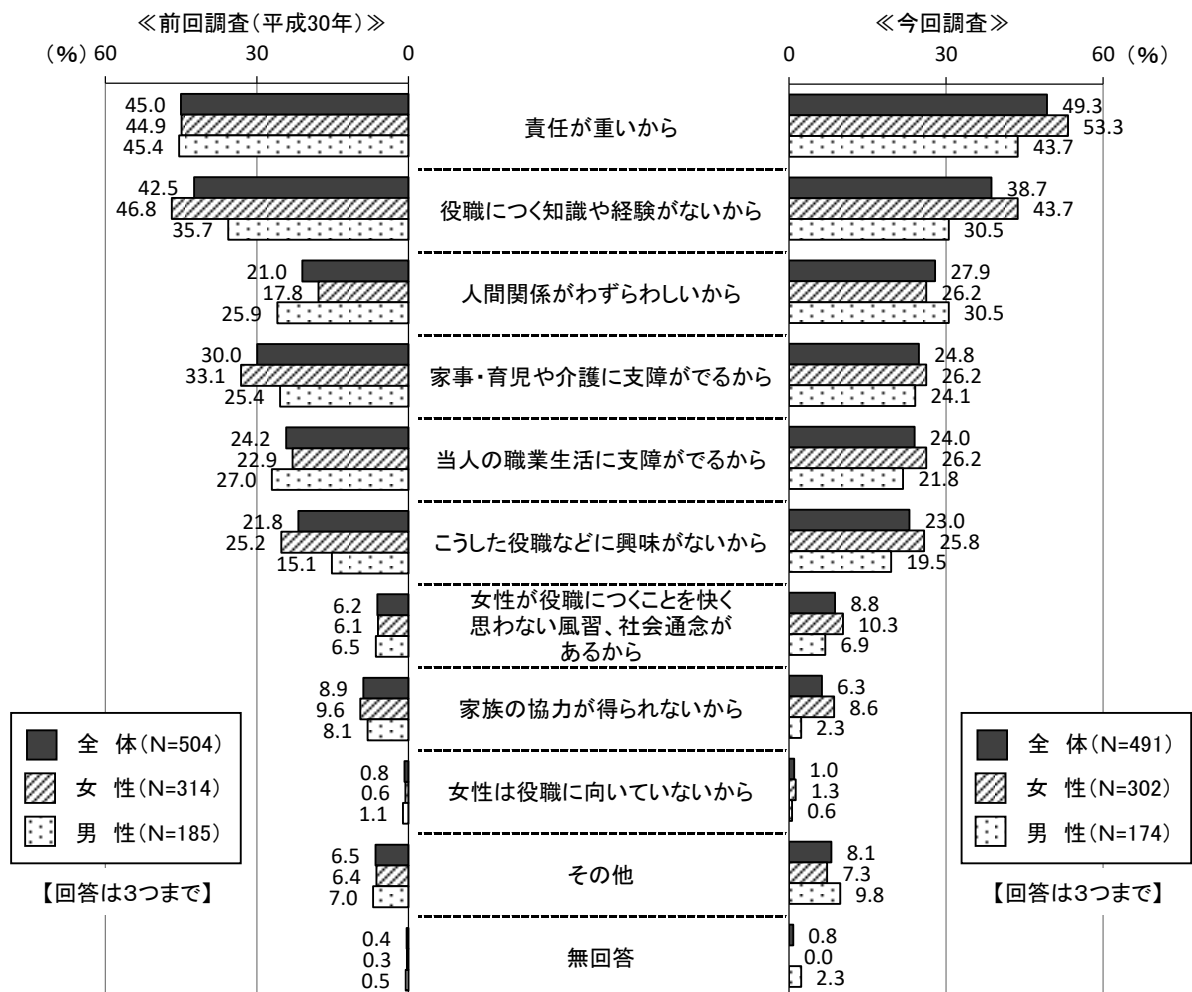
●役職を断る(断ることをすすめる)理由は、「責任が重いから」「役職につく知識や経験がないから」「人間関係がわずらわしいから」が上位となっている。

「断る(断ることをすすめる)」を選んだ人にその理由をたずねたところ、「責任が重いから」(49.3%)、「役職につく知識や経験がないから」(38.7%)、「人間関係がわずらわしいから」(27.9%)などが上位にあげられている。

性別でみると、女性は「責任が重いから」(女性 53.3%、男性 43.7%)「役職につく知識や経験がないから」(女性 43.7%、男性 30.5%)などが男性に比べて9.6~13.2ポイント高くなっている。「人間関係がわずらわしいから」(女性 26.2%、男性 30.5%)は男性の方が女性より4.3ポイント高い。

前回調査と比較すると、「人間関係がわずらわしいから」が全体、男女ともに割合が増加しており、順位も前回の6位から3位に上がっている。

図表5-5 地域の役職を断る理由〔全体、性別〕(前回調査比較)



男女共同参画に関する市民意識調査報告書

年代別でみると、「家事・育児や介護に支障がでるから」は男女とも30代で、「当人の職業生活に支障が出るから」は40代で最も高くなっている。「役職につく知識や経験がないから」は女性の60代、70代以上で高い。「人間関係がわずらわしいから」は年齢が低い層で高くなる傾向がみられる。

共働き別にみると、女性の場合、共働きでは「家事・育児や介護に支障がでるから」(44.6%)「当人の職業生活に支障が出るから」(41.1%)などが高くなっている。

図表5-6 地域の役職を断る理由 [全体、年代別、共働きの状況別]

		標本数	責任が重いから	家族の協力が得られないから	社会通念がわななく、慣習、	女性に役職につく知識や経験がないから	女性に役職に向いていないから	当人の職業生活に支障が出るから	家事・育児や介護に支障がでるから	人間関係がわずらわしいから	こうしただけでなく、味がないから	その他	無回答
全体		491 100.0	242 49.3	31 6.3	43 8.8	190 38.7	5 1.0	118 24.0	122 24.8	137 27.9	113 23.0	40 8.1	4 0.8
年代別	女性:10,20代	17	47.1	-	5.9	41.2	-	29.4	11.8	47.1	35.3	5.9	-
	女性:30代	34	58.8	5.9	-	35.3	-	38.2	52.9	26.5	35.3	2.9	-
	女性:40代	49	42.9	12.2	4.1	32.7	-	42.9	38.8	24.5	20.4	4.1	-
	女性:50代	49	61.2	4.1	12.2	30.6	-	34.7	28.6	36.7	32.7	6.1	-
	女性:60代	66	42.4	7.6	13.6	57.6	1.5	25.8	19.7	19.7	21.2	9.1	-
	女性:70代以上	87	62.1	12.6	14.9	50.6	3.4	6.9	14.9	21.8	23.0	10.3	-
	男性:10,20代	10	60.0	-	-	10.0	-	30.0	10.0	50.0	50.0	10.0	10.0
	男性:30代	13	61.5	-	-	30.8	-	30.8	46.2	46.2	15.4	7.7	-
	男性:40代	21	23.8	-	4.8	9.5	4.8	38.1	33.3	38.1	28.6	14.3	4.8
	男性:50代	24	58.3	-	16.7	20.8	-	29.2	37.5	33.3	20.8	8.3	-
男性:60代	44	50.0	2.3	6.8	34.1	-	15.9	25.0	25.0	18.2	2.3	2.3	
男性:70代以上	62	33.9	4.8	6.5	41.9	-	14.5	12.9	24.2	12.9	14.5	1.6	
	無回答	13	30.8	7.7	-	38.5	-	7.7	7.7	30.8	7.7	7.7	-
共働きの状況別	女性:共働きである	112	46.4	11.6	8.0	34.8	0.9	41.1	44.6	21.4	22.3	5.4	-
	女性:片働きである	49	59.2	2.0	4.1	38.8	-	12.2	24.5	30.6	32.7	12.2	-
	女性:二人とも働いていない	60	60.0	15.0	13.3	55.0	3.3	5.0	13.3	20.0	23.3	11.7	-
	女性:その他	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:共働きである	56	37.5	-	8.9	17.9	-	33.9	32.1	42.9	21.4	7.1	1.8
	男性:片働きである	39	43.6	2.6	5.1	35.9	-	15.4	28.2	25.6	17.9	5.1	2.6
	男性:二人とも働いていない	48	45.8	6.3	6.3	50.0	-	2.1	12.5	22.9	18.8	14.6	2.1
	男性:その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	126	50.8	3.2	11.1	40.5	1.6	29.4	13.5	32.5	23.8	6.3	0.8

3. 災害への備えについての考え方

問13. 地域の防災について、過去の経験から、男女共同参画の視点による対策や対応が求められています。災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。
(〇印はいくつでも)

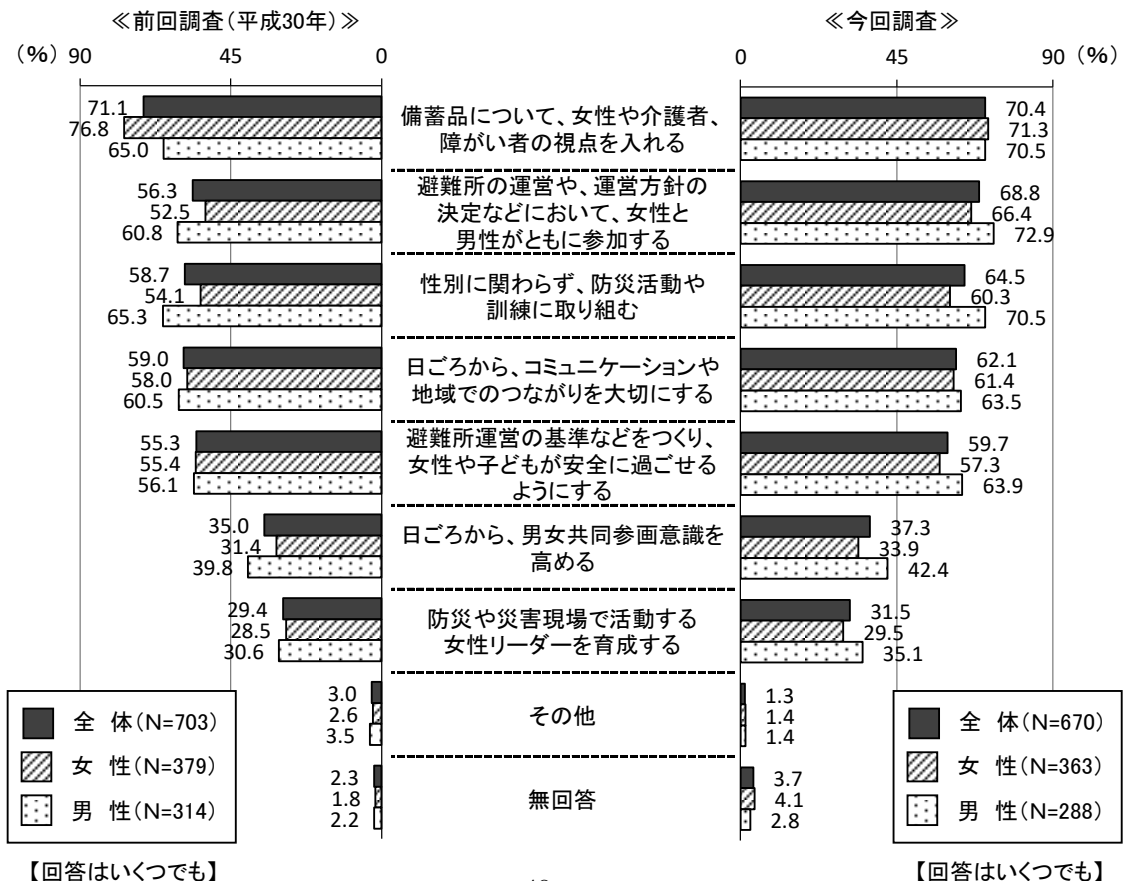
傾向

●防災対策・対応としては「備蓄品に女性や介護者、障がい者の視点を入れる」「避難所運営に女性も参画できるようにする」が約7割で高い。

地域の防災について、男女共同参画の視点から必要だと思う対策や対応についてたずねたところ、「備蓄品について、女性や介護者、障がい者の視点を入れる」が70.4%と最も高く、「避難所の運営に女性も参画できるようにする」(68.8%)、「性別に関わらず、防災活動や訓練に取り組む」(64.5%)「日ごろから、コミュニケーションや地域でのつながりを大切にする」(62.1%)、「避難所運営の基準などをつくり、女性や子どもが安全に過ごせるようにする」(59.7%)が約6から7割と高い。

性別でみると、男性の割合が高い項目が多く、「避難所の運営や、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加する」(女性66.4%、男性72.9%)、「性別に関わらず、防災活動や訓練に取り組む」(女性60.3%、男性70.5%)、「避難所運営の基準などをつくり、女性や子どもが安全に過ごせるようにする」(女性57.3%、男性63.9%)、「日ごろから、男女共同参画意識を高める」(女性33.9%、男性42.4%)などで男性が女性より高くなっている。

図表5-7 災害への備えについての考え方〔全体、性別〕(前回調査比較)



男女共同参画に関する市民意識調査報告書

年代別でみると、女性は30代、40代で、男性は50代以上で各項目の割合が高い傾向があり、これらの年代で男女共同参画の視点からの防災対策・対応への関心が高いことがうかがえる。

図表5-8 災害への備えについての考え方 [全体、年代別]

		(%)													
		標本数	との男性がとにも参加する女性針	避難所の運営、運営する女性針	や性別に関わりなく、防災活動	れ護蓄、障がい者の視点を介	備蓄品についで、女性や入	にく過ごせるようにする	避難所の運営の基準などが安全	女性リ―災害現場で活動する	をシヨンの地域でのつながり	日ごろから、コミュニティケ	意識を高める、男女共同参画	その他	無回答
全体		670 100.0	461 68.8	432 64.5	472 70.4	400 59.7	211 31.5	416 62.1	250 37.3	9 1.3	25 3.7				
年代別	女性:10,20代	24	75.0	50.0	70.8	50.0	8.3	54.2	20.8	-	-				
	女性:30代	36	75.0	69.4	77.8	63.9	44.4	61.1	44.4	2.8	-				
	女性:40代	55	69.1	69.1	81.8	72.7	34.5	58.2	40.0	3.6	1.8				
	女性:50代	63	60.3	57.1	73.0	55.6	20.6	54.0	27.0	-	7.9				
	女性:60代	77	64.9	58.4	68.8	59.7	29.9	61.0	35.1	1.3	3.9				
	女性:70代以上	108	64.8	58.3	64.8	48.1	31.5	69.4	33.3	0.9	5.6				
	男性:10,20代	18	66.7	83.3	88.9	77.8	50.0	77.8	50.0	-	-				
	男性:30代	19	52.6	63.2	63.2	68.4	21.1	57.9	26.3	-	-				
	男性:40代	34	70.6	55.9	70.6	67.6	29.4	41.2	35.3	2.9	5.9				
	男性:50代	33	81.8	63.6	84.8	72.7	45.5	60.6	51.5	6.1	-				
	男性:60代	79	74.7	73.4	64.6	54.4	32.9	69.6	45.6	1.3	1.3				
男性:70代以上	105	74.3	74.3	68.6	63.8	35.2	65.7	41.0	-	4.8					
無回答		17	47.1	52.9	47.1	41.2	11.8	52.9	23.5	-	11.8				

第6章 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

1. 自身のワーク・ライフ・バランス

問14. あなたご自身は、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」がとれている
と思いますか。（〇印は1つ）

傾向

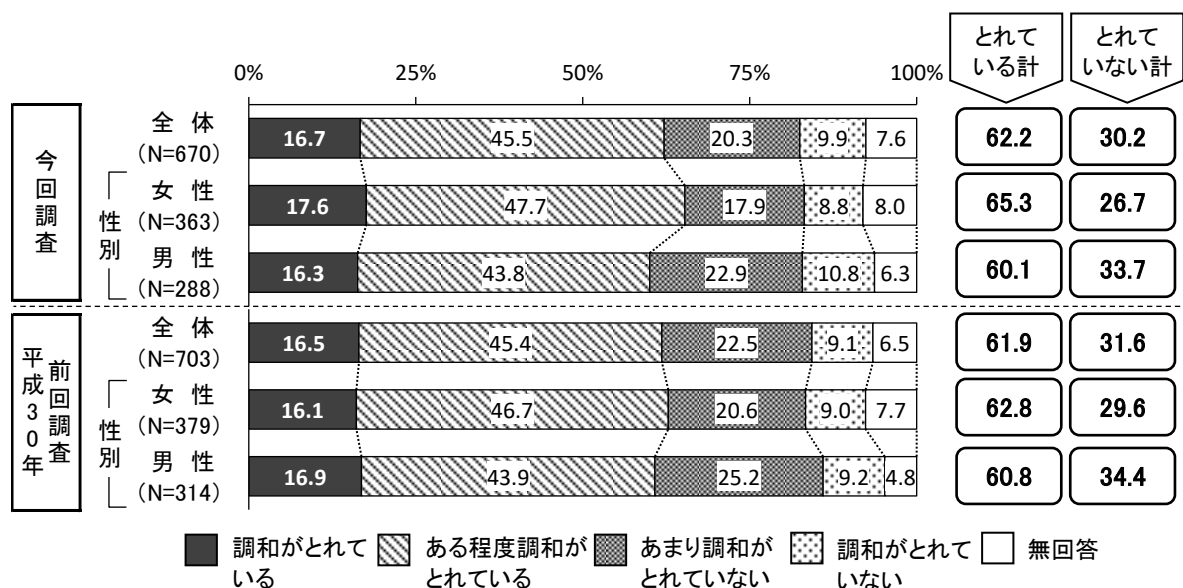
- ワーク・ライフ・バランスが『とれている』人が約6割、『とれていない』人が約3割。
- 男性は女性より『とれていない』が高い。

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）がとれているかどうかについて、「ある程度調和がとれている」が45.5%と最も高く、「調和がとれている」（16.7%）と合わせると『とれている』人は62.2%となっている。一方、「調和がとれていない」（9.9%）と「あまり調和がとれていない」（20.3%）を合わせた『とれていない』人は30.2%である。

性別でみると、『とれていない』人は女性では26.7%であるのに対し、男性は33.7%と、男性の方が7ポイント高い。

前回調査と比べて、大きな変化はみられない。

図表6-1 自身のワーク・ライフ・バランス [全体、性別] (前回調査比較)



男女共同参画に関する市民意識調査報告書

年代別でみると、『とれていない』は男女とも30代、40代で他の年代よりやや高くなっている。
共働き別でみると、男女とも共働きの人のほうが片働き、二人とも働いていない人より『とれていない』が高くなっている。

働き方別にみると、女性の勤め人（正社員・正規雇用）で『とれていない』が33.8%と、契約・派遣、パート・アルバイトの18.8%と比べて高くなっている。

図表6-2 自身のワーク・ライフ・バランス〔全体、年代別、共働き別、働き方別〕

			(%)						
		標本数	い調 和が とれ て	があ とる れ程 て度 い調 和	とあ れま てり い調 和が	い調 和が とれ て	無 回 答	る『と れて い 』計 れて い	い『と れて い 』計 れて い な
全体		670 100.0	112 16.7	305 45.5	136 20.3	66 9.9	51 7.6	158 23.3	202 30.2
年代別	女性:10,20代	24	25.0	41.7	20.8	4.2	8.3	66.7	25.0
	女性:30代	36	16.7	50.0	16.7	16.7	-	66.7	33.4
	女性:40代	55	12.7	50.9	21.8	14.5	-	63.6	36.3
	女性:50代	63	22.2	44.4	20.6	9.5	3.2	66.6	30.1
	女性:60代	77	19.5	57.1	11.7	6.5	5.2	76.6	18.2
	女性:70代以上	108	14.8	41.7	18.5	5.6	19.4	56.5	24.1
	男性:10,20代	18	11.1	55.6	22.2	11.1	-	66.7	33.3
	男性:30代	19	31.6	31.6	10.5	26.3	-	63.2	36.8
	男性:40代	34	17.6	44.1	29.4	8.8	-	61.7	38.2
	男性:50代	33	6.1	60.6	21.2	12.1	-	66.7	33.3
	男性:60代	79	24.1	43.0	21.5	5.1	6.3	67.1	26.6
	男性:70代以上	105	11.4	39.0	24.8	12.4	12.4	50.4	37.2
	無回答	17	5.9	23.5	29.4	17.6	23.5	29.4	47.0
共働きの状況別	女性:共働きである	133	24.8	51.9	17.3	6.0	-	76.7	23.3
	女性:片働きである	59	16.9	52.5	13.6	13.6	3.4	69.4	27.2
	女性:二人とも働いていない	69	11.6	37.7	21.7	8.7	20.3	49.3	30.4
	女性:その他	1	100.0	-	-	-	-	100.0	-
	男性:共働きである	95	15.8	54.7	21.1	7.4	1.1	70.5	28.5
	男性:片働きである	58	19.0	36.2	31.0	10.3	3.4	55.2	41.3
	男性:二人とも働いていない	74	13.5	36.5	23.0	9.5	17.6	50.0	32.5
	男性:その他	1	100.0	-	-	-	-	100.0	-
無回答	180	12.8	43.9	19.4	13.3	10.6	56.7	32.7	
働き方別	女性:勤め人(正社員、正規雇用)	74	20.3	45.9	25.7	8.1	-	66.2	33.8
	女性:契約・派遣、パート・アルバイト	112	20.5	58.9	13.4	5.4	1.8	79.4	18.8
	女性:自営業(農林水産・商工サービス)	18	27.8	50.0	5.6	11.1	5.6	77.8	16.7
	女性:自由業	3	-	66.7	-	33.3	-	66.7	33.3
	女性:専業主婦、学生、無職	147	12.9	40.1	19.7	11.6	15.6	53.0	31.3
	女性:その他	3	66.7	-	33.3	-	-	66.7	33.3
	男性:勤め人(正社員、正規雇用)	102	17.6	52.0	20.6	9.8	-	69.6	30.4
	男性:契約・派遣、パート・アルバイト	43	16.3	53.5	25.6	4.7	-	69.8	30.3
	男性:自営業(農林水産・商工サービス)	27	18.5	40.7	25.9	7.4	7.4	59.2	33.3
	男性:自由業	13	30.8	30.8	30.8	7.7	-	61.6	38.5
	男性:専業主夫、学生、無職	100	13.0	34.0	22.0	16.0	15.0	47.0	38.0
	男性:その他	1	-	100.0	-	-	-	100.0	-
無回答	25	4.0	28.0	24.0	12.0	32.0	32.0	36.0	

2. 男女があらゆる場面に参画するために必要なこと

問15. 男女がともにあらゆる場面（仕事・家事・子育て・介護・地域活動など）に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇印は3つまで）

傾向

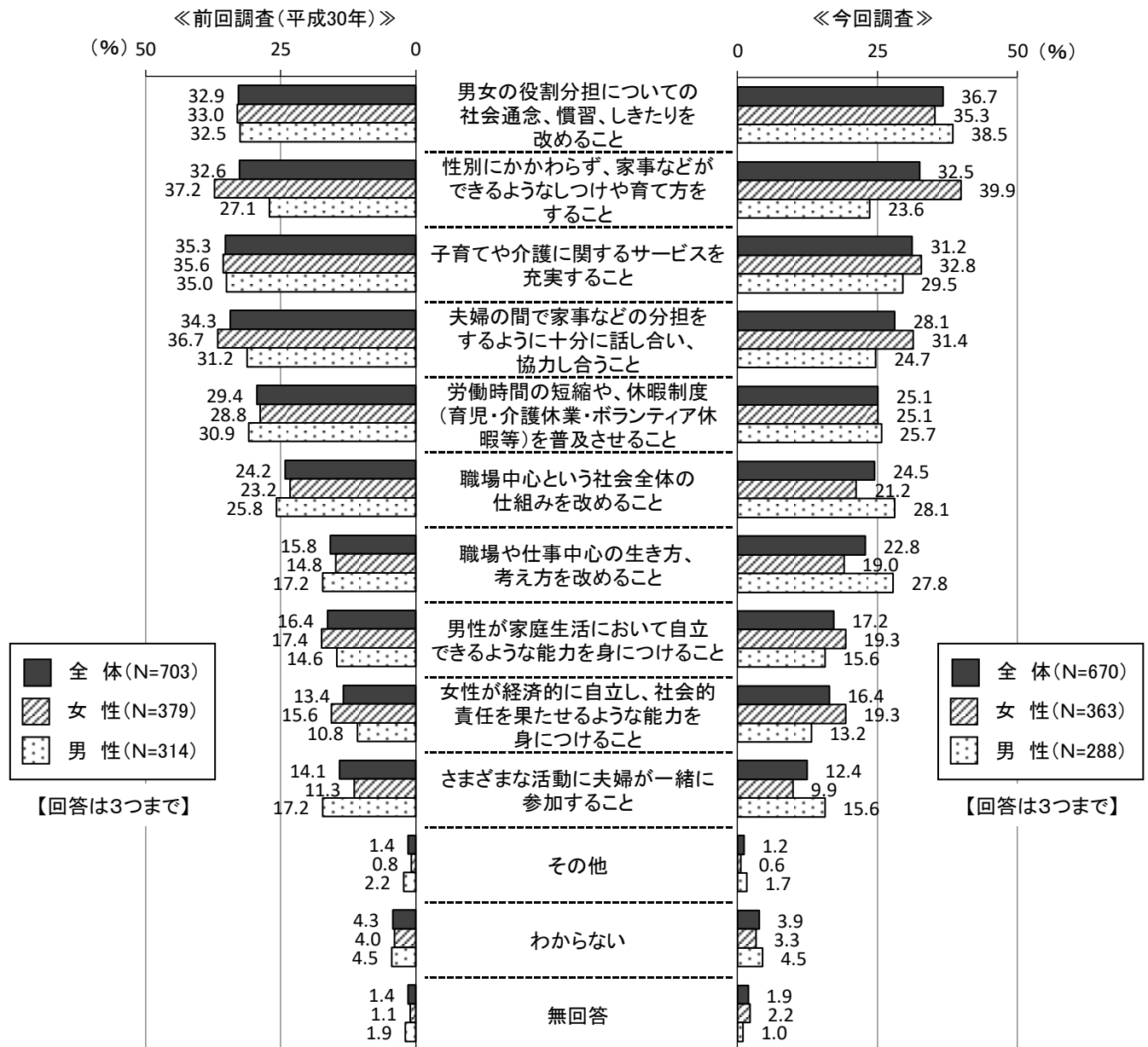
- 男女があらゆる場面へ参画するために必要なことは、「男女の役割分担について社会通念、慣習、しきたりを改める」「性別にかかわらず育て方」「子育てや介護サービスの充実」「夫婦間での家事分担などについての話し合い、協力」などが上位となっている。
- 女性は「性別にかかわらず育て方」、男性は職場・仕事中心の仕組みや考え方の見直しを求めている。

男女がともに仕事や家事、子育てなどあらゆる場面に積極的に参加していくために必要なこととしては、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」（36.7%）、「性別にかかわらず家事などができるようなしつけや育て方をすること」（32.5%）「子育てや介護に関するサービスを充実すること」（31.2%）、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合い、協力しあうこと」（28.1%）などが約3割から3割台半ばと高くなっている。他に、「労働時間の短縮や、休暇制度（育児・介護休業・ボランティア休暇等）を普及させること」（25.1%）、「職場中心という社会全体の仕組みを改めること」（24.5%）、「職場や仕事中心の生き方、考え方を改めること」（22.8%）など、働き方や職場・仕事中心の考え方の見直しなども2割を超えて上位にあがっている。

性別で見ると、女性では「性別にかかわらず家事などができるようなしつけや育て方をすること」（女性39.9%、男性23.6%）が第1位で、男性より16.3ポイント高くなっている。また、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合い、協力しあうこと」（女性31.4%、男性24.7%）も男性より6.7ポイント高い。男性では、「職場中心という社会全体の仕組みを改めること」（女性21.2%、男性28.1%）、「職場や仕事中心の生き方、考え方を改めること」（女性19.0%、男性27.8%）が女性より6.9～8.8ポイント高い。

前回調査と比較すると、上位項目の割合に大きな変化はないものの、「子育てや介護に関するサービスを充実すること」が前回1位から3位へ順位が下がり、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」は前回4位から1位へ、「性別にかかわらず家事などができるようなしつけや育て方をすること」は前回3位から2位へ順位が高くなっている。また、男性で「職場や仕事中心の生き方、考え方を改める」が10.6ポイント増加している。

図表6-3 男女があらゆる場面に参画するために必要なこと〔全体、性別〕(前回調査比較)



年代別でみると、「職場中心という社会全体の仕組みを改めること」は男性の30代、40代で、「職場や仕事中心の生き方、考え方を改める」は男性の30代で4割を超えて高くなっている。「労働時間の短縮や休暇制度（育児休業・介護休業・ボランティア休暇等）を普及させること」は男性の30代で5割を超えて高い。「性別にかかわらず家事などができるようなしつけや育て方をすること」は女性の50代以上で高くなっている。「子育てや介護に関するサービスを充実すること」は、女性の30代、40代と、男性の50代で高い。年齢や性別によって、必要と考えることに大きな差がみられる。

図表6-4 男女があらゆる場面に参画するために必要なこと [全体、年代別]

		標本数	通念、慣習、しきたりについて改めること	男女の役割分担について改めること	職場中心という社会全体の仕組みを改めること	子育てや介護に関するサービスを充実すること	労働時間の短縮や、休暇制度（育児休業・介護休業・ボランティア）を普及させること	夫婦の間で家事などの分担を話し合い、協力するようにつけや育て方を力ずけること	性別にかかわらず、家事などができるようなしつけや育て方を身につけること	女性が経済的に自立し、社会的責任を果たせるような能力を身につけること	男性が家庭生活において自立でき、自立した能力を身につけること	職場や仕事中心の生き方、考え方を改めること	さまざまな活動に夫婦と一緒に参加すること	その他	わからない	無回答
全体		670 100.0	246 36.7	164 24.5	209 31.2	168 25.1	188 28.1	218 32.5	110 16.4	115 17.2	153 22.8	83 12.4	8 1.2	26 3.9	13 1.9	
年代別	女性:10,20代	24	20.8	29.2	12.5	29.2	37.5	25.0	12.5	12.5	37.5	12.5	-	16.7	-	
	女性:30代	36	25.0	25.0	47.2	33.3	25.0	38.9	16.7	19.4	16.7	11.1	2.8	2.8	-	
	女性:40代	55	41.8	29.1	40.0	34.5	30.9	27.3	16.4	16.4	18.2	5.5	1.8	1.8	-	
	女性:50代	63	31.7	25.4	27.0	28.6	27.0	42.9	12.7	15.9	20.6	7.9	-	6.3	3.2	
	女性:60代	77	41.6	18.2	32.5	24.7	27.3	50.6	23.4	19.5	18.2	7.8	-	-	1.3	
	女性:70代以上	108	36.1	13.9	32.4	14.8	38.0	40.7	24.1	24.1	15.7	13.9	-	1.9	3.7	
	男性:10,20代	18	27.8	33.3	27.8	33.3	38.9	38.9	22.2	5.6	11.1	27.8	-	5.6	-	
	男性:30代	19	10.5	42.1	36.8	52.6	21.1	21.1	5.3	10.5	42.1	15.8	-	-	-	
	男性:40代	34	26.5	47.1	32.4	32.4	20.6	26.5	5.9	8.8	29.4	14.7	-	2.9	2.9	
	男性:50代	33	39.4	30.3	42.4	21.2	21.2	15.2	12.1	18.2	27.3	12.1	6.1	9.1	-	
	男性:60代	79	48.1	27.8	22.8	26.6	19.0	21.5	8.9	12.7	29.1	12.7	3.8	3.8	1.3	
男性:70代以上	105	41.9	18.1	28.6	18.1	29.5	24.8	19.0	21.9	26.7	17.1	-	4.8	1.0		
無回答	17	29.4	23.5	29.4	17.6	11.8	23.5	11.8	-	23.5	11.8	5.9	5.9	11.8		

第7章 暴力などの人権侵害について

1. ドメスティック・バイオレンスの見聞き

問16. あなたは、「DV（ドメスティック・バイオレンス：配偶者やパートナーからの暴力）」を実際に受けたり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。

（○印はいくつでも）

傾向

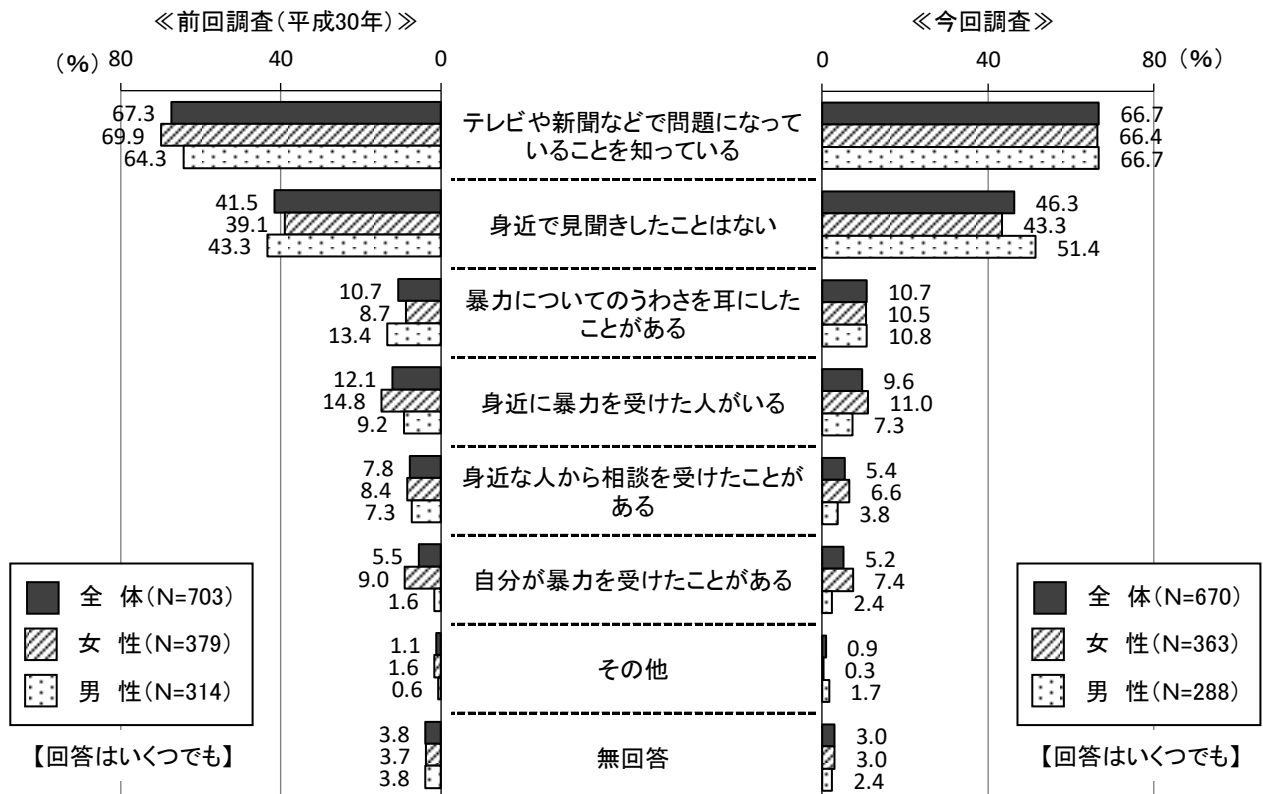
- ドメスティック・バイオレンスについて「自分が暴力を受けたことがある」女性は7.4%。
- 50代女性では「自分が暴力を受けたことがある」が2割を超える。

ドメスティック・バイオレンスについて見聞きしたことがあるかたずねたところ、「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」が66.7%で最も多く、次いで「身近で見聞きしたことはない」が46.3%となっている。「身近に暴力を受けた人がある」は9.6%、「身近な人から相談を受けたことがある」は5.4%、「自分が暴力を受けたことがある」は5.2%となっている。

性別でみると、女性で「身近に暴力を受けた人がある」が11.0%（男性7.3%）、「身近な人から相談を受けたことがある」が6.6%（男性3.8%）、「自分が暴力を受けたことがある」が7.4%（男性2.4%）と、身近で見聞きしたり被害を受けた人が多くなっている。

前回調査と比べて「身近で見聞きしたことはない」が男女とも4.2～8.1ポイント増加している。

図表7-1 ドメスティック・バイオレンスの見聞き〔全体、性別〕（前回調査比較）



年代別でみると、「自分が暴力を受けたことがある」は女性の50代で22.2%、「身近に暴力を受けた人がある」は女性の40代で20.0%と他の年代に比べて高くなっている。

図表7-2 ドメスティック・バイオレンスの見聞き [全体、年代別]

(%)

		標 本 数	自 分 が 暴 力 を 受 け た こ と が あ る	人 が 近 に 暴 力 を 受 け た	受 身 近 な 人 か ら 相 談 を あ る	暴 力 に つ い て こ と が あ る	問 題 に な っ て い る	テ レ ビ や 新 聞 な ど で	と 身 近 で 見 聞 き し た こ と	そ の 他	無 回 答
全 体		670 100.0	35 5.2	64 9.6	36 5.4	72 10.7	447 66.7	310 46.3	6 0.9	20 3.0	
年 代 別	女性:10,20代	24	12.5	12.5	4.2	12.5	54.2	41.7	-	-	
	女性:30代	36	5.6	2.8	2.8	8.3	72.2	22.2	-	2.8	
	女性:40代	55	-	20.0	10.9	9.1	61.8	38.2	-	-	
	女性:50代	63	22.2	12.7	9.5	14.3	58.7	31.7	-	4.8	
	女性:60代	77	2.6	7.8	3.9	11.7	77.9	49.4	1.3	1.3	
	女性:70代以上	108	5.6	10.2	6.5	8.3	65.7	55.6	-	5.6	
	男性:10,20代	18	11.1	5.6	-	5.6	38.9	66.7	-	-	
	男性:30代	19	-	15.8	-	5.3	68.4	31.6	5.3	-	
	男性:40代	34	8.8	11.8	8.8	23.5	50.0	38.2	5.9	-	
	男性:50代	33	-	6.1	3.0	6.1	57.6	66.7	3.0	-	
	男性:60代	79	1.3	8.9	6.3	11.4	70.9	50.6	-	3.8	
	男性:70代以上	105	1.0	3.8	1.9	9.5	76.2	52.4	1.0	3.8	
無回答		17	5.9	5.9	5.9	11.8	76.5	29.4	-	11.8	

2. ドメスティック・バイオレンスの認知

問17. あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーや恋人との間で行われた場合、それは暴力だと思いますか。次の各項目について、それぞれあてはまるものを選んでください。(○印はそれぞれ1つ)

傾向

- 身体的暴力や経済的暴力、性的暴力は「どんな場合も暴力にあたる」が7割を超える。
- 精神的暴力や社会的暴力については「場合によっては暴力にあたる」などの回答が比較的高いが、DVについての認識は高まりつつある。

ドメスティック・バイオレンスにあたる様々な行為について、暴力だと思うかどうかをたずねた。

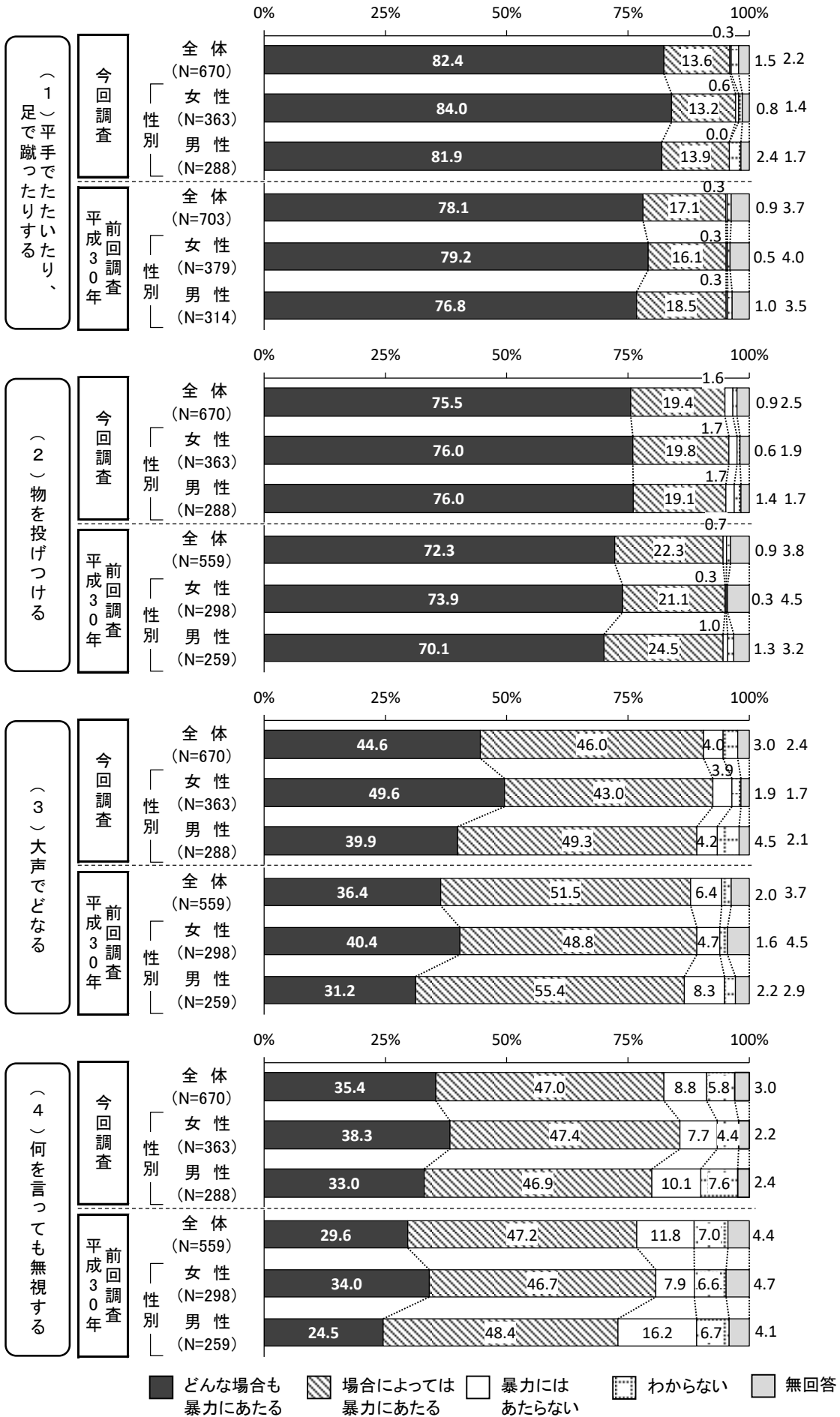
その結果、「どんな場合も暴力にあたる」との回答が高かったのは、「平手でたたいたり、足で蹴ったりする」(82.4%)、「嫌がっているのに性行為を強要する」(77.6%)「物を投げつける」(75.5%)、「生活費を渡さない」(75.4%)、「避妊に協力しない」(71.3%)、「誰のおかげで生活できるんだ」などと暴言を吐く」(71.2%)などが7割を超えており、身体的暴力に限らず、性的暴力や経済的暴力、暴言などについても暴力にあると認識されていることがわかる。

一方、精神的暴力である「何を言っても無視する」「大声でどなる」、社会的暴力である「携帯電話のメールや着信をチェックする」「外出を制限する」などは「場合によっては暴力にあたる」の割合が比較的高く、「何を言っても無視する」「携帯電話のメールや着信をチェックする」「外出を制限する」は「暴力にあたらぬ」の割合も高く、DVであるとの認識が低い。

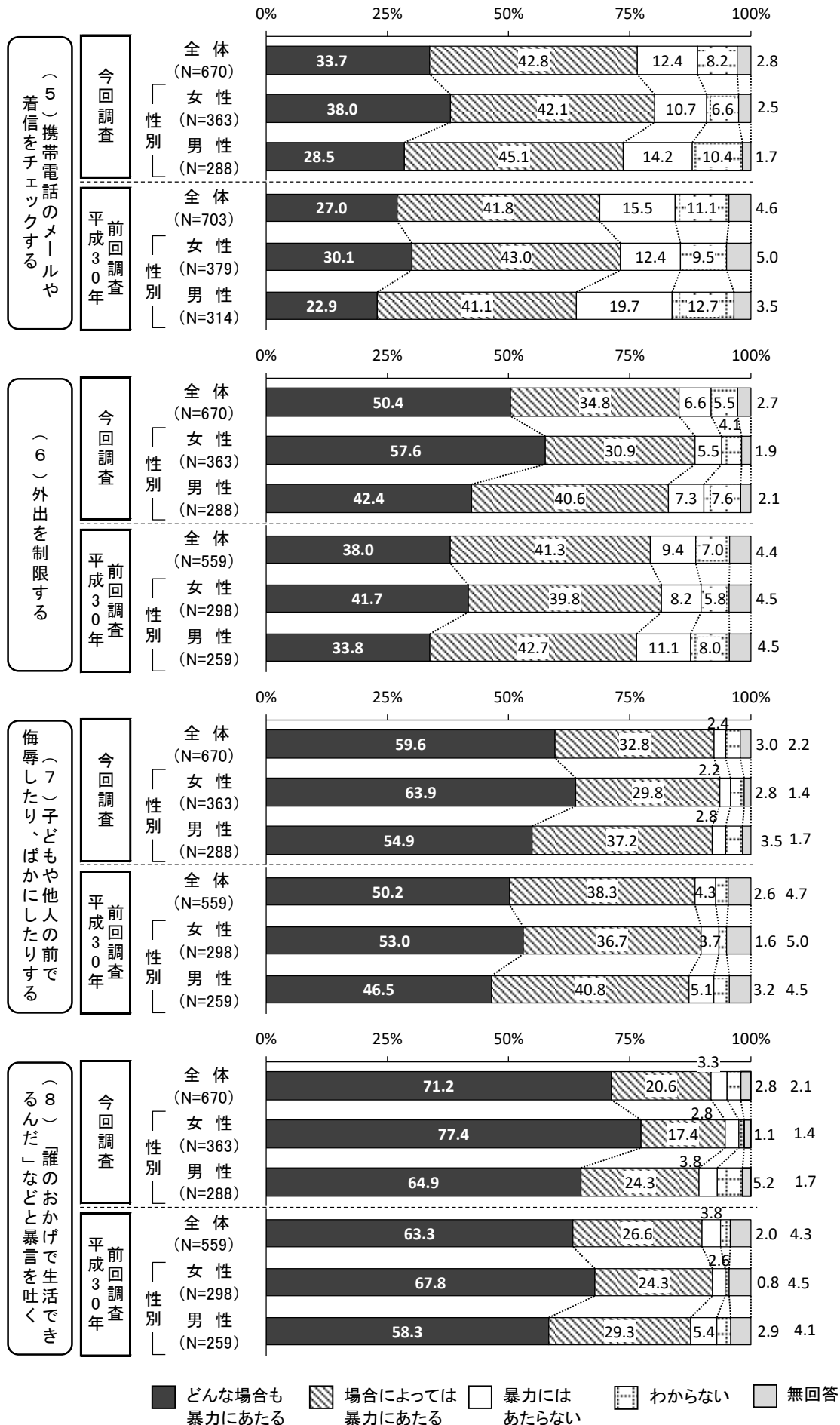
性別でみると、「物を投げつける」以外のすべての行為について、女性の方が「どんな場合も暴力にあたる」とする割合が男性よりも高い。特に「大声でどなる」「携帯電話のメールや着信をチェックする」「外出を制限する」「子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」「誰のおかげで生活できるんだ」などと暴言を吐く」「生活費を渡さない」「避妊に協力しない」などの項目では9.7～15.2ポイントの差があり、性別による認識の差が大きい。

前回調査と比較すると、男女ともすべての行為について「どんな場合も暴力にあたる」と回答している人の割合が増加しており、ドメスティック・バイオレンスについて正しく認識する人が増えている。

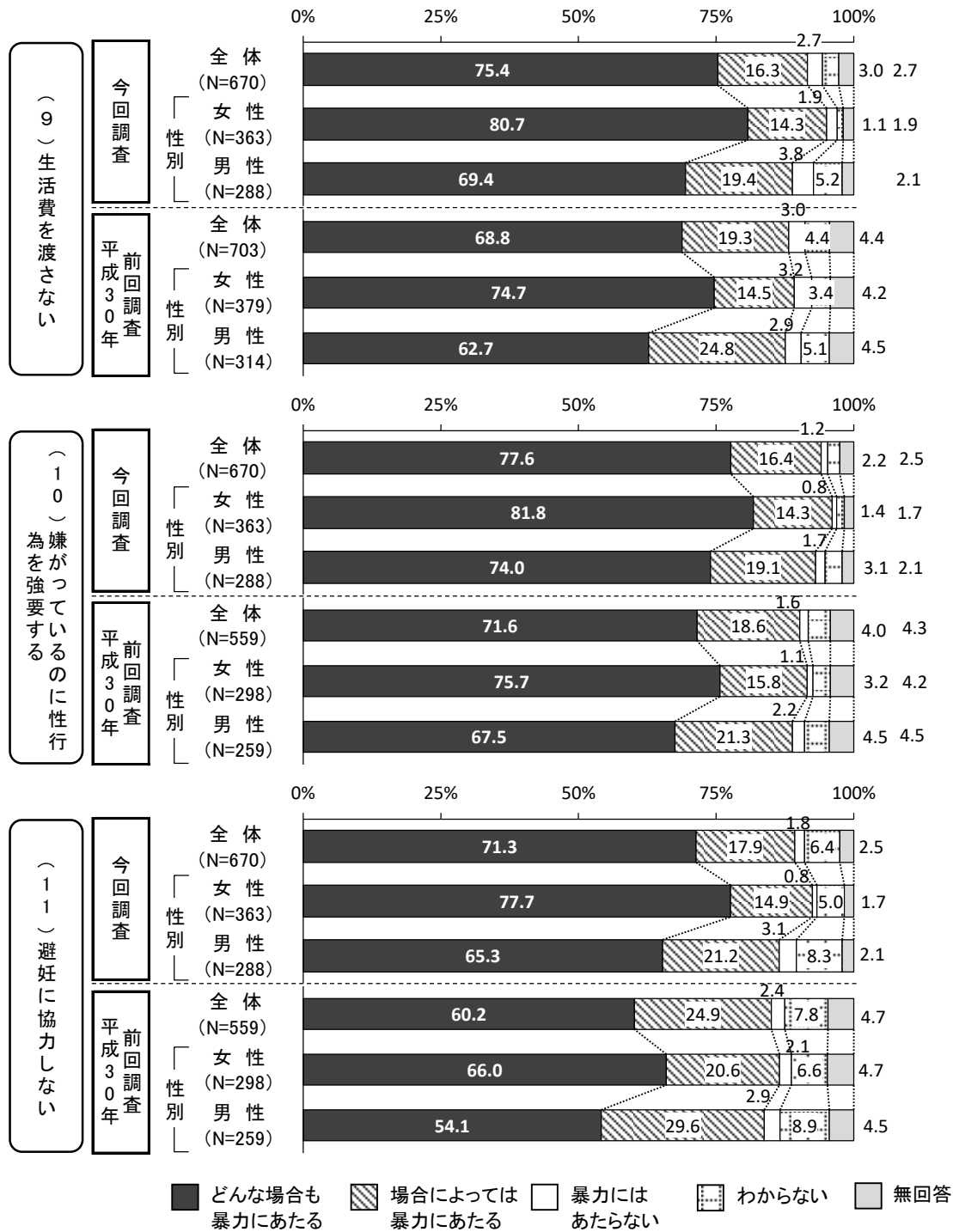
図表7-3 (1) ドメスティック・バイオレンスの認知 [全体、性別] (前回調査比較)



図表7-3 (2) ドメスティック・バイオレンスの認知 [全体、性別] (前回調査比較)



図表7-3 (3) ドメスティック・バイオレンスの認知 [全体、性別] (前回調査比較)



年代別で見ると、男女とも70代以上では、身体的暴力以外の行為については「どんな場合も暴力にあたる」が他の年代より低い傾向がみられる。また、「携帯電話のメールや着信をチェックする」は男女とも40代以下で「暴力にあたらない」の割合が他の年代に比べて高く、特に男性の10, 20代、30代では2割を超えている。

図表7-4 (1) ドメスティック・バイオレンスの認知 [全体、年代別]

(%)

		標本数	(1) 平手でたたいたり、足で蹴ったりする					(2) 物を投げつける				
			たもどる暴力な場合	あてはまる暴力によつ	た暴らなはいはあ	わからない	無回答	たもどる暴力な場合	あてはまる暴力によつ	た暴らなはいはあ	わからない	無回答
全体		670 100.0	552 82.4	91 13.6	2 0.3	10 1.5	15 2.2	506 75.5	130 19.4	11 1.6	6 0.9	17 2.5
年代別	女性:10,20代	24	91.7	8.3	-	-	-	79.2	20.8	-	-	-
	女性:30代	36	86.1	13.9	-	-	-	77.8	22.2	-	-	-
	女性:40代	55	87.3	10.9	-	1.8	-	76.4	20.0	3.6	-	-
	女性:50代	63	77.8	19.0	-	-	3.2	77.8	17.5	1.6	-	3.2
	女性:60代	77	87.0	10.4	1.3	1.3	-	77.9	16.9	3.9	1.3	-
	女性:70代以上	108	81.5	13.9	0.9	0.9	2.8	72.2	22.2	-	0.9	4.6
	男性:10,20代	18	77.8	16.7	-	5.6	-	83.3	11.1	-	5.6	-
	男性:30代	19	78.9	21.1	-	-	-	78.9	21.1	-	-	-
	男性:40代	34	70.6	26.5	-	2.9	-	67.6	26.5	5.9	-	-
	男性:50代	33	84.8	12.1	-	3.0	-	81.8	18.2	-	-	-
	男性:60代	79	83.5	16.5	-	-	-	79.7	19.0	1.3	-	-
	男性:70代以上	105	84.8	6.7	-	3.8	4.8	72.4	18.1	1.9	2.9	4.8
無回答	17	58.8	11.8	-	-	29.4	52.9	17.6	-	-	29.4	
		標本数	(3) 大声でどなる					(4) 何を言っても無視する				
			たもどる暴力な場合	あてはまる暴力によつ	た暴らなはいはあ	わからない	無回答	たもどる暴力な場合	あてはまる暴力によつ	た暴らなはいはあ	わからない	無回答
全体		670 100.0	299 44.6	308 46.0	27 4.0	20 3.0	16 2.4	237 35.4	315 47.0	59 8.8	39 5.8	20 3.0
年代別	女性:10,20代	24	62.5	33.3	4.2	-	-	54.2	29.2	16.7	-	-
	女性:30代	36	44.4	52.8	2.8	-	-	33.3	55.6	11.1	-	-
	女性:40代	55	47.3	47.3	3.6	1.8	-	45.5	43.6	5.5	3.6	1.8
	女性:50代	63	50.8	46.0	-	-	3.2	46.0	47.6	3.2	-	3.2
	女性:60代	77	58.4	33.8	5.2	2.6	-	35.1	53.2	9.1	2.6	-
	女性:70代以上	108	42.6	44.4	5.6	3.7	3.7	30.6	46.3	7.4	11.1	4.6
	男性:10,20代	18	55.6	38.9	-	5.6	-	33.3	38.9	22.2	5.6	-
	男性:30代	19	42.1	57.9	-	-	-	47.4	42.1	5.3	5.3	-
	男性:40代	34	44.1	47.1	8.8	-	-	35.3	55.9	5.9	2.9	-
	男性:50代	33	42.4	54.5	3.0	-	-	42.4	45.5	9.1	3.0	-
	男性:60代	79	43.0	46.8	5.1	3.8	1.3	40.5	39.2	11.4	8.9	-
	男性:70代以上	105	32.4	50.5	3.8	8.6	4.8	21.0	52.4	9.5	10.5	6.7
無回答	17	17.6	52.9	5.9	-	23.5	11.8	41.2	11.8	5.9	29.4	
		標本数	(5) 携帯電話のメールや着信をチェックする					(6) 外出を制限する				
			たもどる暴力な場合	あてはまる暴力によつ	た暴らなはいはあ	わからない	無回答	たもどる暴力な場合	あてはまる暴力によつ	た暴らなはいはあ	わからない	無回答
全体		670 100.0	226 33.7	287 42.8	83 12.4	55 8.2	19 2.8	338 50.4	233 34.8	44 6.6	37 5.5	18 2.7
年代別	女性:10,20代	24	33.3	54.2	12.5	-	-	70.8	25.0	4.2	-	-
	女性:30代	36	22.2	55.6	19.4	2.8	-	58.3	38.9	2.8	-	-
	女性:40代	55	40.0	41.8	12.7	3.6	1.8	67.3	25.5	3.6	1.8	1.8
	女性:50代	63	49.2	36.5	7.9	3.2	3.2	61.9	30.2	1.6	3.2	3.2
	女性:60代	77	40.3	44.2	9.1	6.5	-	57.1	32.5	6.5	3.9	-
	女性:70代以上	108	35.2	37.0	9.3	13.0	5.6	47.2	31.5	9.3	8.3	3.7
	男性:10,20代	18	11.1	55.6	27.8	5.6	-	33.3	55.6	5.6	5.6	-
	男性:30代	19	21.1	42.1	26.3	10.5	-	68.4	21.1	5.3	5.3	-
	男性:40代	34	26.5	52.9	17.6	2.9	-	44.1	47.1	5.9	2.9	-
	男性:50代	33	39.4	42.4	6.1	12.1	-	57.6	33.3	9.1	-	-
	男性:60代	79	39.2	38.0	13.9	8.9	-	49.4	35.4	5.1	10.1	-
	男性:70代以上	105	21.9	47.6	11.4	14.3	4.8	28.6	45.7	9.5	10.5	5.7
無回答	17	29.4	17.6	17.6	5.9	29.4	29.4	23.5	17.6	-	29.4	

図表7-4(2) ドメスティック・バイオレンスの認知 [全体、年代別]

		標本数	(7)子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする					(8)「誰のおかげで生活できるんだ」など暴言を吐く				
			たもどる暴ん力な場合	あてはまる暴力に	た暴ら力ないはあ	わからない	無回答	たもどる暴ん力な場合	あてはまる暴力に	た暴ら力ないはあ	わからない	無回答
			(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体		670 100.0	399 59.6	220 32.8	16 2.4	20 3.0	15 2.2	477 71.2	138 20.6	22 3.3	19 2.8	14 2.1
年代別	女性:10,20代	24	83.3	8.3	4.2	4.2	-	91.7	4.2	4.2	-	-
	女性:30代	36	66.7	30.6	2.8	-	-	83.3	13.9	2.8	-	-
	女性:40代	55	72.7	21.8	1.8	1.8	1.8	81.8	16.4	-	-	1.8
	女性:50代	63	60.3	34.9	-	1.6	3.2	79.4	15.9	-	1.6	3.2
	女性:60代	77	70.1	26.0	1.3	2.6	-	81.8	11.7	3.9	2.6	-
	女性:70代以上	108	51.9	38.0	3.7	4.6	1.9	65.7	26.9	4.6	0.9	1.9
	男性:10,20代	18	55.6	38.9	-	5.6	-	72.2	22.2	-	5.6	-
	男性:30代	19	73.7	26.3	-	-	-	89.5	10.5	-	-	-
	男性:40代	34	55.9	41.2	-	2.9	-	64.7	26.5	5.9	2.9	-
	男性:50代	33	72.7	27.3	-	-	-	81.8	18.2	-	-	-
	男性:60代	79	51.9	44.3	2.5	1.3	-	60.8	30.4	3.8	5.1	-
	男性:70代以上	105	47.6	35.2	5.7	6.7	4.8	57.1	23.8	5.7	8.6	4.8
	無回答	17	41.2	29.4	-	-	29.4	41.2	29.4	5.9	-	23.5
全体		670 100.0	505 75.4	109 16.3	18 2.7	20 3.0	18 2.7	520 77.6	110 16.4	8 1.2	15 2.2	17 2.5
年代別	女性:10,20代	24	75.0	25.0	-	-	-	95.8	4.2	-	-	-
	女性:30代	36	80.6	16.7	2.8	-	-	94.4	5.6	-	-	-
	女性:40代	55	83.6	10.9	3.6	-	1.8	90.9	7.3	-	-	1.8
	女性:50代	63	77.8	19.0	-	-	3.2	82.5	14.3	-	-	3.2
	女性:60代	77	89.6	7.8	1.3	1.3	-	83.1	13.0	1.3	2.6	-
	女性:70代以上	108	75.9	14.8	2.8	2.8	3.7	68.5	24.1	1.9	2.8	2.8
	男性:10,20代	18	61.1	16.7	16.7	5.6	-	77.8	16.7	-	5.6	-
	男性:30代	19	78.9	15.8	5.3	-	-	89.5	5.3	5.3	-	-
	男性:40代	34	76.5	20.6	2.9	-	-	70.6	26.5	-	2.9	-
	男性:50代	33	81.8	15.2	-	-	3.0	84.8	9.1	-	3.0	3.0
	男性:60代	79	67.1	25.3	1.3	6.3	-	74.7	22.8	1.3	1.3	-
	男性:70代以上	105	64.8	17.1	4.8	8.6	4.8	67.6	20.0	2.9	4.8	4.8
	無回答	17	58.8	5.9	-	5.9	29.4	47.1	17.6	-	5.9	29.4
全体		670 100.0	478 71.3	120 17.9	12 1.8	43 6.4	17 2.5					
年代別	女性:10,20代	24	87.5	12.5	-	-	-					
	女性:30代	36	91.7	8.3	-	-	-					
	女性:40代	55	85.5	12.7	-	-	1.8					
	女性:50代	63	79.4	15.9	-	1.6	3.2					
	女性:60代	77	83.1	10.4	1.3	5.2	-					
	女性:70代以上	108	62.0	21.3	1.9	12.0	2.8					
	男性:10,20代	18	77.8	16.7	-	5.6	-					
	男性:30代	19	89.5	5.3	5.3	-	-					
	男性:40代	34	73.5	23.5	2.9	-	-					
	男性:50代	33	78.8	15.2	-	3.0	3.0					
	男性:60代	79	65.8	20.3	3.8	10.1	-					
	男性:70代以上	105	51.4	26.7	3.8	13.3	4.8					
	無回答	17	35.3	29.4	-	5.9	29.4					

第8章 男女共同参画社会の実現について

1. 行政に望む施策

問18. あなたは、男女共同参画社会を実現するために、行政に対してどのような施策を望みますか。(○印は3つまで)

傾 向

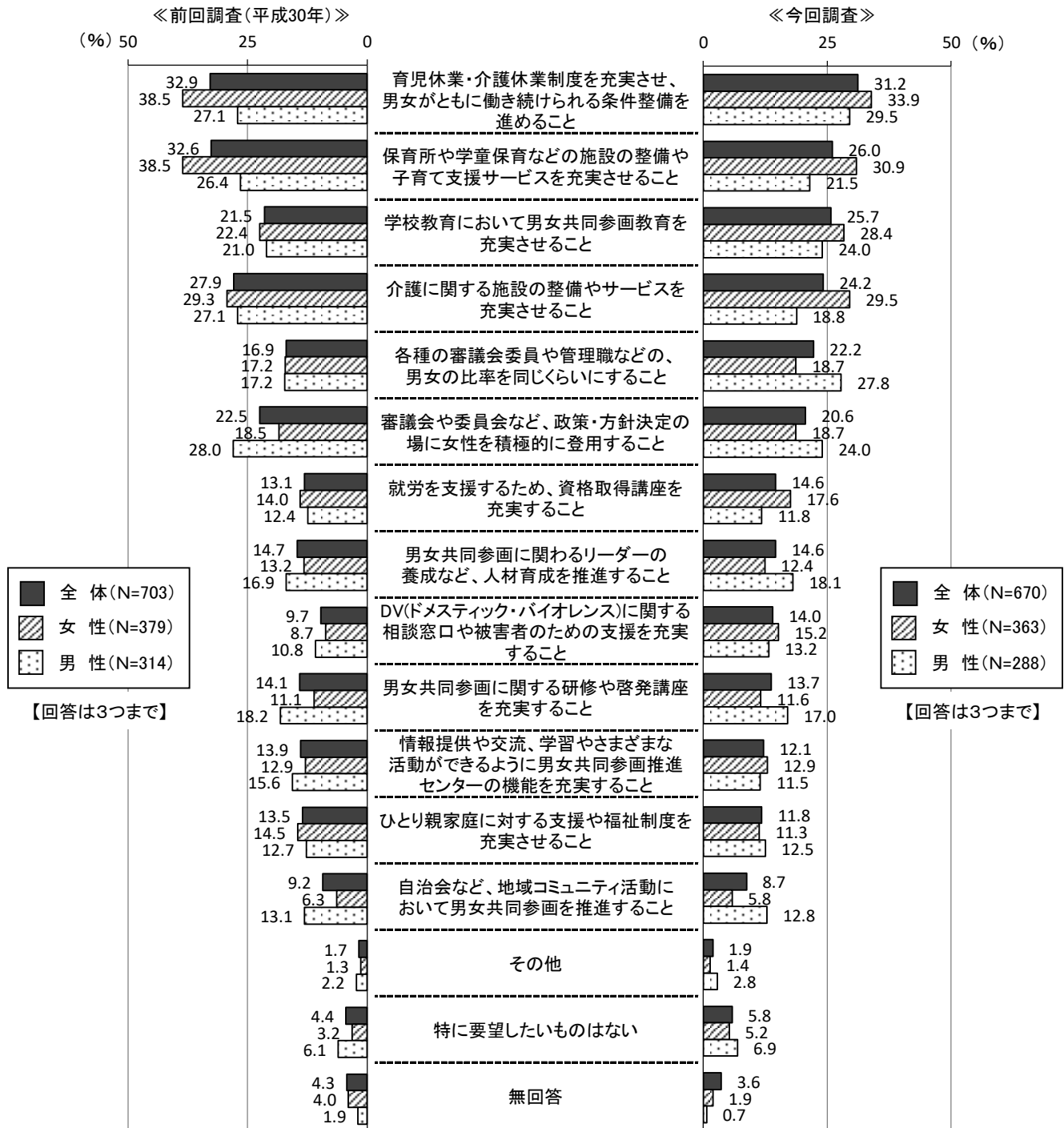
- 行政に望む施策としては、「男女がともに働き続けられる条件整備」「保育所などの施設整備やサービスの充実」「学校での男女共同参画教育の充実」「介護に関する施設整備やサービスの充実」などが上位となっている。

男女共同参画社会を実現するために行政に対して望むことは、「育児休業・介護休業制度を充実させ、男女がともに働き続けられる条件整備を進めること」(31.2%)、「保育所や学童保育などの施設の整備やサービスを充実させること」(26.0%)、「学校教育において男女共同参画教育を充実させること」(25.7%)、「介護に関する施設の整備やサービスを充実させること」(24.2%)、「各種の審議会委員や管理職などの、男女の比率を同じくらいにすること」(20.6%)などが2割を超えて高くなっており、育児・介護に関する支援のほか、男女共同参画教育や指導的地位への女性の登用など、幅広い取り組みが求められている。

性別でみると、女性では「保育所や学童保育などの施設の整備やサービスを充実させること」(女性 30.9%、男性 21.5%)、「介護に関する施設の整備やサービスを充実させること」(女性 29.5%、男性 18.8%)が男性より9.4~10.7ポイント高くなっており、育児や介護への支援の要望が高い。また、「育児休業・介護休業制度を充実させ、男女がともに働き続けられる条件整備を進めること」(女性 33.9%、男性 29.5%)、「学校教育において男女共同参画教育を充実させること」(女性 28.4%、男性 24.0%)も男性より高くなっている。一方、男性は「各種の審議会委員や管理職などの、男女の比率を同じくらいにすること」(女性 18.7%、男性 27.8%)や「審議会や委員会など政策・方針決定の場に女性を積極的に登用すること」(女性 18.7%、男性 24.0%)、「男女共同参画に関わるリーダーの養成など、人材育成を推進すること」(女性 12.4%、男性 18.1%)などが女性よりも高くなっている。女性は就業と育児や介護の両立支援の推進を、男性は女性登用の推進をより重視している。

前回調査と比較すると、全体的な傾向には大きな変化はみられないが、前回調査では両立支援に関する項目が第1位から第3位を占めていたが、今回は施設やサービスの整備がやや数値を下げている。

図表8-1 行政に望む施策〔全体、性別〕（前回調査比較）



男女共同参画に関する市民意識調査報告書

年代別でみると、男女とも 10, 20 代、30 代の年齢が低い層で「育児休業・介護休業制度を充実させ、男女がともに働き続けられる条件整備を進めること」「保育所や学童保育などの施設の整備やサービスを充実させること」などが高くなっており、就業と育児との両立支援が求められている。また、「介護に関する施設の整備やサービスを充実させること」は男女とも 50 代で高くなっており、この年代では介護への支援が重視されていると思われる。「男女共同参画に関する研修や啓発講座を充実すること」や「審議会や委員会など政策・方針決定の場に女性を積極的に登用すること」「各種の審議会委員や管理職などの、男女の比率を同じくらいにすること」は比較的年齢の高い層での回答率が高い傾向がみられる。「学校教育において男女共同参画教育を充実させること」は女性の 40 代、50 代で高くなっている。

図表 8-2 行政に望む施策 [全体、年代別]

		(%)																								
	標本数	男女共同参画に関する研修や啓発講座を充実させること	就労を充実させるため、資格取得	用針決定の場に女性を積極的に登方	審議会や委員会など、政策・方針	各種の審議会委員や管理職などに	同参画推進センターの機能や充	情報提供や交流、学習やさまざまな活動ができるように男女共	の養成など、人材育成を推進す	男女共同参画に関するリーダ	学校教育において男女共同参画	実させること	整備や子育て支援サービス充	介護に関する施設の整備やサ	ひとり親家庭に対する支援や福	社制度を充実させること	される条件整備を進めること	育児休業・介護休業制度を充	害者のための支援を充実するこ	DV(ドメスティック・パ	進活動において男女共同参画を推	自治会など、地域共同参画を推	その他	特に要望したものはない	無回答	
全体	670 100.0	92 13.7	98 14.6	138 20.6	149 22.2	81 12.1	98 14.6	172 25.7	174 26.0	162 24.2	79 11.8	209 31.2	94 14.0	58 8.7	13 1.9	39 5.8	24 3.6									
年代別	女性:10,20代	24	8.3	20.8	4.2	16.7	4.2	12.5	25.0	37.5	16.7	12.5	50.0	25.0	-	-	12.5	-	-	-	-	-	-	12.5	-	
	女性:30代	36	8.3	22.2	8.3	11.1	5.6	8.3	25.0	50.0	25.0	8.3	44.4	11.1	11.1	2.8	8.3	-	-	-	-	-	2.8	8.3	-	
	女性:40代	55	9.1	18.2	16.4	18.2	9.1	16.4	34.5	30.9	27.3	7.3	32.7	14.5	-	3.6	9.1	-	-	-	-	-	3.6	9.1	-	
	女性:50代	63	4.8	19.0	23.8	14.3	9.5	11.1	31.7	25.4	34.9	15.9	27.0	20.6	4.8	1.6	7.9	1.6	-	-	-	-	1.6	7.9	1.6	
	女性:60代	77	10.4	14.3	18.2	24.7	19.5	18.2	26.0	40.3	32.5	10.4	31.2	14.3	2.6	-	1.3	1.3	-	-	-	-	-	1.3	1.3	
	女性:70代以上	108	19.4	16.7	24.1	20.4	16.7	8.3	26.9	19.4	29.6	12.0	33.3	12.0	11.1	0.9	1.9	4.6	-	-	-	-	0.9	1.9	4.6	
	男性:10,20代	18	11.1	11.1	16.7	11.1	11.1	22.2	22.2	38.9	5.6	16.7	66.7	22.2	5.6	-	5.6	-	-	-	-	-	-	-	5.6	-
	男性:30代	19	-	15.8	26.3	15.8	10.5	-	10.5	52.6	15.8	15.8	47.4	21.1	5.3	-	15.8	-	-	-	-	-	-	-	15.8	-
	男性:40代	34	2.9	14.7	14.7	29.4	2.9	5.9	11.8	26.5	17.6	17.6	38.2	5.9	11.8	2.9	11.8	-	-	-	-	-	2.9	11.8	-	
	男性:50代	33	9.1	18.2	30.3	33.3	12.1	12.1	15.2	12.1	24.2	6.1	33.3	21.2	12.1	3.0	12.1	-	-	-	-	-	3.0	12.1	-	
男性:60代	79	22.8	7.6	24.1	30.4	11.4	15.2	29.1	22.8	21.5	13.9	21.5	12.7	8.9	6.3	3.8	1.3	-	-	-	-	6.3	3.8	1.3		
男性:70代以上	105	23.8	11.4	25.7	28.6	14.3	28.6	29.5	13.3	18.1	10.5	21.9	10.5	19.0	1.0	4.8	1.0	-	-	-	-	1.0	4.8	1.0		
不明・無回答	17	-	-	5.9	-	5.9	5.9	-	-	5.9	5.9	5.9	-	-	-	-	88.2	-	-	-	-	-	-	88.2	-	

Ⅲ 調査結果のまとめ

市民意識調査結果の総括と今後の課題

第1章 男女の地位・役割について

社会における各分野での男女の地位の平等感についてたずねた設問では、「学校教育」では「平等」が5割強を超えたものの、それ以外のすべての分野で『男性優遇』とする人が多かった。特に、「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」「社会全体」では『男性優遇』が8割前後と高くなっていた。「家庭生活」「職場」「法律や制度上」「地域活動や社会活動の場」でも『男性優遇』が4割台半ばから5割を占めているが、平成30年に実施した前回調査と比較すると、「職場」で『男性優遇』が減少し、「平等」が増加しており、職場における平等感が高まりつつあることがうかがえた。

性別でみると、女性の方が男性よりも不平等感をより強く感じていた。特に、「家庭生活」「地域活動や社会活動の場」「法律や制度上」において、性別による認識の差が大きくなっており、このような認識の差を解消していくことが求められる。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という性別役割分担については、前回調査に比べて『反対』の割合が男女とも大幅に増加していた。年代別でも、全体的に年齢が上がるほど『反対』の割合が低下する傾向がみられるものの、女性ではすべての年代で『反対』が6割を超え、男性でもすべての年代で『反対』が『賛成』を上回るなど、この5年間で性別役割分担を容認しない意識が全体的に高まっているといえる。

第2章 家庭生活について

家庭内での配偶者・パートナー間での役割分担についてみると、「家計を支える（生活費をかせぐ）」は『夫中心』が約7割、「料理や食事の支度、片付けなどの家事をする」や「掃除や洗濯などの家事をする」は『妻中心』のが約8割となっている。前回調査と比較すると、いずれの項目も「夫と妻が同じ程度」の割合がやや増加しているものの、依然として家計の維持は夫、家事や育児は妻という役割分担が残っていることが分かった。

共働き別では、「家計を支える（生活費をかせぐ）」は共働きの場合「夫と妻が同じ程度」が片働きより男女とも18～21.9ポイント高くなっているが、家事や育児の分担については、男性は片働きより共働きで「夫と妻が同じ程度」の割合が高いものの、女性では片働きと共働きでほとんど差がみられず、女性においては共働きであっても家事や育児の分担が自分に多くかかっていると認識されていた。

この5年で性別役割分担についての意識は変化がみられるものの、実際の分担は大きく変化しておらず、今後は意識の変化を行動面に結びつけていけるよう、啓発の対象や施策のあり方を検討していくことが必要である。

家庭生活における慣習については、「妻が夫のことを「主人」と呼ぶ」「親類や近所との付き合いは、夫の名前でする」が4割を超えるなど、家庭の代表を夫と位置づけるような慣習は根強く残る。ただ、「妻が夫のことを「主人」と呼ぶ」「親類や近所との付き合いは、夫の名前でする」「妻が外出するときは、家事を終わらせてから出かける」「家庭の貯金は夫名義になっている」「夫のお茶は妻が入れる」などの上位の項目はいずれも前回調査より割合が減少しており、特に「夫のお茶は妻が入れる」は大きく減少し、家庭内での慣習において変化がみられる。

男女共同参画に関する市民意識調査報告書

一方で、性別でみると、男性より女性の方が性差別的な慣習があると回答する傾向がみられ、特に、「妻が外出するときは、家事を終わらせてから出かける」では差が大きくなっており、ここでも性別による認識のギャップがうかがえる結果となった。

第3章 子育てや教育について

子どもの育て方について、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」は『賛成』が約半数を占める。一方、「男の子も女の子も経済的に自立できるように育てる」「男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる」についても『賛成』がそれぞれ9割を超えており、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」という意識をもつ人も多いものの、男の子にも女の子にも職業人、生活人として自立できることが必要と考える人が大半を占めた。

しかし、第2章の家庭内での慣習についての質問では、「女の子には家事の手伝いをさせるが、男の子にはさせない」が10,20代の女性で目立って高くなっており、若い世代の女性が家事の手伝いに関する不平等を経験している様子がうかがえた。男の子にも女の子にも生活自立をと考えている一方で、現実には無意識に女の子に手伝いを求めている可能性があり、アンコンシャス・バイアスの解消も含めた取り組みが必要とされている。

学校教育での男女共同参画を進めるために必要な取り組みとしては、「性暴力や、セクシュアル・ハラスメントについて相談できる環境を整備する」「生活指導や進路指導において、性別に関わりなく能力を活かせるように配慮する」「性に関する正しい知識や、命の大切さを伝える教育プログラムを作成する」について『賛成』が9割を超えて高くなっていた。前回調査と比較すると、大きな変化はないもののほとんどの項目で「賛成」の割合が増加しており、学校教育における男女共同参画に向けた幅広い取り組みが求められている。

第4章 就労・働き方について

女性の働き方について、理想としては、「結婚や出産に関わらず、ずっと職業をもち続ける」という就労継続型が約5割で最も多く、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ」といういわゆる中断再就労型を望ましいとする人が約3割で続いており、女性も職業を持つことが望ましいと考えている人が大半を占めた。特に、女性では就労継続型が5割台半ばと支持されていた。一方、現実としては就労継続型と中断再就労型とが約3割で拮抗しており、理想に比べて就労継続型の割合が低く、専業主婦型の割合が高くなっていた。理想と現実にはいまだ乖離はあるものの、前回調査に比べて就労継続型が増加し、中断再就労型と専業主婦型は減少しており、理想と現実のギャップは縮小しつつある。

男性の育児休業や介護休業の取得率が低い理由としては、「取得すると仕事上周圍の人に迷惑がかかる」「職場の理解が得られない」「男性よりも女性がとるべきであるという意識がある」「取得した場合、経済的に苦しくなる」「男性に育児・家事スキル（経験や技術）が乏しい」「仕事の評価や昇進などに影響する」などが多くあげられた。

性別では、「取得すると仕事上周圍の人に迷惑がかかる」は女性より男性で割合が高くなっていた。また、全体的に、男女とも30代、40代といった育児に携わる年代の人が取得しづらさを感じていることがうかがえる結果となっており、育児休業や介護休業を取得しやすい職場づくりを、事業所等の理解を得ながら進めることの重要性が示唆された。

職場における慣習をみると、「管理職や責任者はほとんどが男性である」「来客へのお茶だしや雑用などが女性に偏る傾向がある」「派遣社員や非正規雇用者には、女性が多い」などが高くなっており、女性の登用や職域の拡大が十分にはすすんでいない状況もうかがえた。一方、前回調査に比べて「有給休暇を取得しにくい」と「長時間労働や休日出勤をしている人が多い」が男性で減少し、「育児休業を利用した男性がいる」が男女とも増加するなど、長時間労働の改善や男性の育児休業取得が以前よりも進んでいることがうかがえる結果となった。

第5章 地域活動や社会活動について

地域活動や社会活動の役職に女性がどの程度つくのが望ましいと思うかについては、すべての活動の役職で「男性と同じくらいの方がよい」が最も高くなっており、「農業委員」を除くすべての役職で約6割から7割に上った。また、前回調査と比較してほぼすべての役職で「女性よりも男性が多い方がよい」の割合が減少しており、役職への女性の登用を支持する傾向が強まっていることがうかがえる。

しかし、女性は自分自身が、男性は身近な女性が、地域の役職に推薦されたらどうするかとたずねた質問では、「引き受ける（引き受けることをすすめる）」とする人が前回よりも減少しており、役職への就任に消極的な様子がみられた。

「断る（断ることをすすめる）」理由としては、「責任が重いから」「役職につく知識や経験がないから」「人間関係がわずらわしいから」などが上位にあげられていた。性別では、女性は「責任が重いから」「役職につく知識や経験がないから」などが男性より高くなっていて、また、全体的に「人間関係がわずらわしいから」が増加しており、性別に関わらず、地域の役職等を忌避する傾向が強まっていることが、「引き受ける（引き受けることをすすめる）」が減少している背景にあるのではないと思われる。しかし、地域での活動や意思決定に多様な人が参画することは、地域の活性化や非常時の対応においても重要である。地域活動や役職につく人の負担を軽減するための活動内容や仕事の分担などの見直しを行い、誰もが対等に参画できるような組織づくりを進めるとともに、知識や経験に不安を抱える女性が地域の意思決定に参画できるよう、活動のサポートや女性の人材育成に取り組むことが望まれる。

近年の大規模災害の経験から、防災対策や災害対応に男女共同参画の視点を導入する重要性が指摘されてきた。地域の防災について男女共同参画の視点から必要だと思う対策や対応としては、「備蓄品について、女性や介護者、障がい者の視点を入れる」「避難所の運営に女性も参画できるようにする」「性別に関わらず、防災活動や訓練に取り組む」「日ごろから、コミュニケーションや地域でのつながりを大切にする」「避難所運営の基準などをつくり、女性や子どもが安全に過ごせるようにする」などが約6から7割と高くなっていて、「日ごろから、男女共同参画意識を高める」や「防災や災害現場で活動する女性リーダーを育成する」は3割台にとどまったが、非常時に男女共同参画の視点をもって対応するには、平時からの取り組みが重要である。男女共同参画の視点からの防災、減災の取り組みを進めるとともに、日頃からの男女共同参画の重要性について広く啓発し、市民の理解を深めることが必要とされる。

第6章 ワーク・ライフ・バランスについて

自身のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について、調和が『とれている』人は約6割、『とれていない』人は約3割となっていた。年代別にみると、『とれていない』は男女とも30代、40代で他の年代よりやや高くなっており、いわゆる子育て世代にあたる人で仕事と生活の調和がとれていないと感じられているようである。引き続き、保育サービス等の充実を図るとともに、市内事業等に対して、ワーク・ライフ・バランスの重要性についての情報提供を行うことが望まれる。

男女がともに仕事や家事、子育てなどあらゆる場面に積極的に参加していくために必要なこととしては、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」「性別にかかわらず家事などができるようなしつけや育て方をすること」「子育てや介護に関するサービスを充実すること」「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合い、協力しあうこと」などが約3割から3割台半ばと高くなっていった。性別でみると、女性では「性別にかかわらず家事などができるようなしつけや育て方をすること」「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合い、協力しあうこと」が男性に比べて高く、男性の家事参画が求められているようである。男性では、「職場中心という社会全体の仕組みを改めること」「職場や仕事中心の生き方、考え方を改めること」が女性に比べて高く、職場や仕事中心の仕組みや考え方の見直しが必要とされている。

第7章 暴力などの人権侵害について

ドメスティック・バイオレンス（DV）について見聞きした経験としては、「身近に暴力を受けた人がある」「身近な人から相談を受けたことがある」「自分が暴力を受けたことがある」はいずれも女性で高くなっており、男性に比べて女性の方がDVを身近に経験していることがうかがえた。

DVの認識については、「平手でたたいたり、足で蹴ったりする」「嫌がっているのに性行為を強要する」「物を投げつける」「生活費を渡さない」「避妊に協力しない」「誰のおかげで生活できるんだ」などと暴言を吐く」などは7割を超える人がどんな場合でも暴力であると回答しており、身体的暴力に限らず、性的暴力や経済的暴力、暴言などについても暴力にあたることを認識されていた。一方で、「何を言っても無視する」「携帯電話のメールや着信をチェックする」「外出を制限する」など、一部の精神的暴力や、行動などを制限する社会的暴力は、「場合によっては暴力にあたる」の割合が比較的高いことに加えて、「暴力にあたらぬ」との回答も比較的高かった。

前回調査に比べると、男女ともすべての行為について「どんな場合も暴力にあたる」の割合が増加しており、DVについて正しく認識する人は増加傾向にある。しかし、一部の暴力については暴力であるとの認識が十分に共有されていないことや、性別や年代によっても認識に差がみられるため、精神的暴力や社会的暴力を含めて正しく認識できるよう、DVに関する啓発を幅広く行っていくことが望まれる。

第8章 男女共同参画社会の実現について

男女共同参画社会の実現のための行政への要望としては、「育児休業・介護休業制度を充実させ、男女がともに働き続けられる条件整備を進めること」「保育所や学童保育などの施設の整備やサービスを充実させること」「学校教育において男女共同参画教育を充実させること」「介護に関する施設の整備やサービスを充実させること」「各種の審議会委員や管理職などの、男女の比率を同じくらいにすること」などが上位にあげられた。育児や介護に関する支援、男女共同参画教育や指導的地位への女性の登用など、幅広い取り組みが求められていた。

性別で見ると、女性では「保育所や学童保育などの施設の整備やサービスを充実させること」「介護に関する施設の整備やサービスを充実させること」など、育児や介護への支援の要望が男性に比べて高くなっていた。男女がともに働き続けられる条件整備や、学校教育での男女共同参画教育の充実も、女性で高くなっていた。一方、男性は「各種の審議会委員や管理職などの、男女の比率を同じくらいにすること」「審議会や委員会など政策・方針決定の場に女性を積極的に登用すること」「男女共同参画に関わるリーダーの養成など、人材育成を推進すること」など、男性は女性登用の推進に関する項目が女性に比べて高くなっていた。

年代別では、「育児休業・介護休業制度を充実させ、男女がともに働き続けられる条件整備を進めること」「保育所や学童保育などの施設の整備やサービスを充実させること」などは年齢が低い層で、「介護に関する施設の整備やサービスを充実させること」は50代で高くなっているなど、ライフステージによって必要と考える項目に違いがみられた。男女共同参画施策を推進するにあたっては、市民のニーズの把握に努めるとともに、市が重点的に取り組む施策について、市民の理解を得ながら進めることが必要である。

◎ 参考資料
使用した調査票

男女共同参画社会に関する市民意識調査

日頃から、市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

宗像市では、男女共同参画社会（男女がお互いの人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会）の実現を目指し、さまざまな取り組みを進めています。その一環として、5年ごとにアンケート調査を実施し、市民の皆様の意見を伺い、今後の施策に反映させたいと考えております。

なお、この調査は、18歳以上の市民から無作為に抽出した2,000人を対象に実施しています。回答は無記名であり、結果はすべて統計的に処理しますので、個人が特定されることはありません。また、回答内容について、市から電話や訪問をしてお尋ねすることはありません。

お忙しいところ恐れ入りますが、調査にご協力いただきますようお願いいたします。

令和5年11月
宗像市長 伊豆 美沙子

記入上のお願い

1. この調査票は、封筒のあて名の方ご本人が記入してください。
2. ボールペンまたは鉛筆を使用して記入してください。
3. 回答は、あてはまる番号に〇印を付けてください。質問によって、〇印を付ける数を指定しています。
4. 各項目で「その他」に〇印をつけた方は、その内容を具体的に記入してください。
5. 回答済みの調査票は、同封の返信用封筒に入れて12月15日（金）までに投函してください。
6. 記名不要、切手不要です。

○ 内容や回答方法について不明な点や疑問がありましたら、下記までお問い合わせください。

インターネットからの回答はこちら



〔問い合わせ先〕

宗像市東郷一丁目1番1号
宗像市 市民協働部 男女共同参画推進課
電話 36-0048（直通）

男女の地位・役割についておたずねします

問1. あなたは、次にあげる各分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(O印はそれぞれ1つ)

※ (1)～(8)の項目ごとに横に見て、あてはまる番号にO印をつけてください (O印はそれぞれ1つ)	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
(1) 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
(2) 職場では	1	2	3	4	5	6
(3) 学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
(4) 政治の場では	1	2	3	4	5	6
(5) 地域活動や社会活動の場では	1	2	3	4	5	6
(6) 法律や制度上では	1	2	3	4	5	6
(7) 社会通念・慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6
(8) 社会全体でみると	1	2	3	4	5	6

問2. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(O印は1つ)

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対
4. 反対
5. わからない

家庭生活についておたずねします

問3. 現在、配偶者（パートナー）と同居している方におたずねします。

あなたの家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、主に誰がしていますか。各項目について、最もあてはまるものを選んでください。（○印はそれぞれ1つ）

※（１）～（１０）の項目ごとに横に見て、あてはまる番号に○印をつけてください（○印はそれぞれ1つ）	主に妻がしている	どちらかといえば妻	夫と妻が同じ程度	どちらかといえば夫	主に夫がしている	その他・非該当
（１）家計を支える（生活費を稼ぐ）	1	2	3	4	5	6
（２）料理や食事の支度、片付けなどの家事をする	1	2	3	4	5	6
（３）掃除や洗濯などの家事をする	1	2	3	4	5	6
（４）日々の家計を管理する	1	2	3	4	5	6
（５）育児、子どものしつけをする	1	2	3	4	5	6
（６）家族（親、祖父母等）の世話や介護をする	1	2	3	4	5	6
（７）自治会やPTA活動などの地域活動に参加する	1	2	3	4	5	6
（８）子どもの教育方針や進学目標を決める	1	2	3	4	5	6
（９）高額の商品や土地・家屋の購入を決める	1	2	3	4	5	6
（１０）家庭の問題における最終的な決定をする	1	2	3	4	5	6

問4. あなたの家庭生活において、以下のようなことがありますか（現在一人暮らしの方は、これまで家庭のなかで以下のようなことがありましたか）。（○印はいくつでも）

1. 妻が夫のことを「主人」と呼ぶ
2. 家庭の貯金が、夫名義になっている
3. 夫のお茶は、妻がいれる
4. 家族の意見が合わない時は、夫や父の意見に合わせる
5. 家族で家事を分担しようと思っても、周囲の目があってできない
6. 女の子には家事の手伝いをさせるが、男の子にはさせない
7. 親類や近所との付き合いは、夫の名前でする
8. 妻が外出するときは、家事を終わらせてから出かける
9. 子どもの進学や就職先は、男の子と女の子で異なる
10. その他（具体的に _____)
11. わからない

子育てや教育についておたずねします

問5. あなたは、子どもの育て方についてどのような考え方を持っていますか。

次の項目について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。子どものいない方も、一般的にどう思われるかお答えください。(〇印はそれぞれ1つ)

	賛成	どちらかといえば賛成	反対	どちらかといえば反対	反対	わからない
※(1)～(3)の項目ごとに横に見て、あてはまる番号に〇印をつけてください (〇印はそれぞれ1つ)						
(1) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる	1	2	3	4	5	
(2) 男の子も女の子も経済的に自立できるように育てる	1	2	3	4	5	
(3) 男の子も女の子も料理・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる	1	2	3	4	5	

問6. あなたは、男女共同参画をすすめるための取り組みとして、学校教育のなかで以下のことを推進すべきだと思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。

(〇印はそれぞれ1つ)

	賛成	どちらかといえば賛成	反対	どちらかといえば反対	反対	わからない
※(1)～(6)の項目ごとに横に見て、あてはまる番号に〇印をつけてください。(〇印はそれぞれ1つ)						
(1) 児童・生徒に向けた男女共同参画についての副読本・パンフレットなどを作成・配布する	1	2	3	4	5	
(2) 男女共同参画の意識を育てる授業をする	1	2	3	4	5	
(3) 生活指導や進路指導において、性別に関わりなく能力を活かせるように配慮する	1	2	3	4	5	
(4) 性に関する正しい知識や、命の大切さを伝える教育プログラムを作成する	1	2	3	4	5	
(5) 教員自身の男女共同参画についての意識を高めるための研修を行う	1	2	3	4	5	
(6) 性暴力や、セクシュアル・ハラスメントについて相談できる環境を整備する	1	2	3	4	5	

就労・働き方についておたずねします

問7. 「女性が職業をもつこと」についておたずねします。

【女性の方】 あなたの理想の働き方に最も近いものを選んでください。

【男性の方】 あなたの妻やパートナーに求める理想の働き方に最も近いものを選んでください。
(未婚の方も理想をお答えください。) (O印は1つ)

1. ずっと職業をもち続ける
2. 結婚するまでは職業をもつ
3. 子どもができるまでは職業をもつ
4. 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ
5. 職業をもたない
6. その他 (具体的に)
7. わからない

問8. 問7では理想の働き方についておたずねしましたが、ここでは現実の働き方についておたずねします。

【女性の方】 あなたは現実にとどのような働き方をしましたか (すると思いますか)。

【男性の方】 あなたの妻やパートナーはどのような働き方をしましたか (すると思いますか)。(未婚の方も想定されることをお答えください。) (O印は1つ)

1. ずっと職業をもち続けた (もち続ける)
2. 結婚するまでは職業をもった (もつ)
3. 子どもができるまでは職業をもった (もつ)
4. 子どもができたなら職業をやめ、大きくなって再び職業をもった (もつ)
5. 職業をもたなかった (もたない)
6. その他 (具体的に)
7. わからない

問9. 男性の育児休業・介護休業取得率が低い状況にあります。それはなぜだと思いますか。

(O印はいくでも)

1. 職場の理解が得られない
2. 取得すると仕事上周囲の人に迷惑がかかる
3. 取得した場合、経済的に苦しくなる
4. 男性に育児・家事スキル(経験や技術)が乏しい
5. 仕事の評価や昇進などに影響する
6. 周囲に取得した男性がいない
7. 地域において男性が育児・介護に参加しにくい
8. 男性よりも女性がとるべきであるという意識がある
9. その他(具体的に)

問10. 過去5年間に職業をもっていた方におたずねします。

あなたの職場において、以下のようなことがありますか（これまで働いてきた職場のなかで以下のようなことがありましたか）。(○印はいくつでも)

1. 来客へのお茶だしやコピーなどの補助的な仕事が、女性にかたよる傾向がある
2. 女性は結婚や出産をすると退職するもの、という雰囲気がある
3. 管理職や責任者は、ほとんどが男性である
4. 派遣社員や非正規雇用者には、女性が多い
5. ハラスメント（いやがらせやいじめなどの行為）がある
6. 長時間労働や休日出勤をしている人が多い
7. 有給休暇を取得しにくい
8. 女性のみ制服を着用している
9. 育児休業制度が周知されており利用者も多い
10. 育児休業を利用した男性がいる
11. 男女で仕事内容に大きな差はない
12. その他（具体的に

地域活動や社会活動への参加についておたずねします

問11. あなたは、次にあげるような役職に、女性がどの程度つくことが望ましいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○印はそれぞれ1つ)

	宗像市の現状		多い方がよい	女性よりも男性の方がよい	男性と同じくらいの方がよい	男性を越えない範囲で増やした方がよい	男性よりも女性が	男性よりも女性が	わからない
	女性数／全人数	全体に占める女性の比率							
※(1)～(8)の項目ごとに横に見て、あてはまる番号に○印をつけてください。(○印はそれぞれ1つ)									
(1) 自治会の役員	14/142	9.9%	1	2	3	4	5		
(2) 市議会議員	3/19	15.8%	1	2	3	4	5		
(3) 教育委員	2/4	50%	1	2	3	4	5		
(4) 選挙管理委員	2/4	50%	1	2	3	4	5		
(5) 農業委員	2/12	16.7%	1	2	3	4	5		
(6) 小・中学校PTA会長	0/20	0%	1	2	3	4	5		
(7) 民生委員・児童委員	95/151	62.9%	1	2	3	4	5		
(8) 各種審議会などの委員	170/450	37.8%	1	2	3	4	5		

【令和5年4月1日現在】

【自治会長のみ令和5年7月1日現在】

問12. 自治会長や公民館長、PTA会長などの地域の役職についておたずねします。

【女性の方】あなたが推薦されたらどうしますか。

【男性の方】妻などの身近な女性が推薦されたらどうしますか。(O印は1つ)

1. 引き受ける(引き受けることをすすめる)

2. 断る(断ることをすすめる)

副問1.(問12で「2.断る(断ることをすすめる)」と回答した方におたずねします。)

その理由は何ですか。最も近いものを選んでください。(O印は3つまで)

1. 責任が重いから
2. 家族の協力が得られないから
3. 女性が役職につくことを快く思わない風習、社会通念があるから
4. 役職につく知識や経験がないから
5. 女性は役職に向いていないから
6. 当人の職業生活に支障がでるから
7. 家事・育児や介護に支障がでるから
8. 人間関係がわずらわしいから
9. こうした役職などに興味がないから
10. その他(具体的に)

問13. 地域の防災について、過去の経験から、男女共同参画の視点による対策や対応が求められています。災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。(O印はいくつでも)

1. 避難所の運営や、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加する
2. 性別に関わらず、防災活動や訓練に取り組む
3. 備蓄品について、女性や介護者、障がい者の視点を入れる
4. 避難所運営の基準などをつくり、女性や子どもが安全に過ごせるようにする
5. 防災や災害現場で活動する女性リーダーを育成する
6. 日ごろから、コミュニケーションや地域でのつながりを大切にする
7. 日ごろから、男女共同参画意識を高める
8. その他(具体的に)

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）についておたずねします

*ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）とは・・・

仕事と、仕事以外の家庭生活（家事・子育て・介護など）、地域活動、個人の趣味や学習などを自らが希望するバランスで生活できること。

問14. あなたご自身は、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」がとれていると思いますか。
(○印は1つ)

1. 調和が取れている
2. ある程度調和がとれている
3. あまり調和がとれていない
4. 調和がとれていない

問15. 男女がともにあらゆる場面（仕事・家事・子育て・介護・地域活動など）に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○印は3つまで)

1. 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
2. 職場中心という社会全体の仕組みを改めること
3. 子育てや介護に関するサービスを充実すること
4. 労働時間の短縮や、休暇制度（育児・介護休業・ボランティア休暇等）を普及させること
5. 夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合い、協力し合うこと
6. 性別にかかわらず、家事などができるようなしつけや育て方をする
7. 女性が経済的に自立し、社会的責任を果たせるような能力を身につけること
8. 男性が家庭生活において自立できるような能力を身につけること
9. 職場や仕事中心の生き方、考え方を改めること
10. さまざまな活動に夫婦が一緒に参加すること
11. その他（具体的に)
12. わからない

暴力などの人権侵害についておたずねします

問16. あなたは、「DV（ドメスティック・バイオレンス：配偶者やパートナーからの暴力）」を実際に受けたり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。(○印はいくつでも)

1. 自分が暴力を受けたことがある
2. 身近に暴力を受けた人がいる
3. 身近な人から相談を受けたことがある
4. 暴力についてのうわさを耳にしたことがある
5. テレビや新聞などで問題になっていることを知っている
6. 身近で見聞きしたことはない
7. その他（具体的に)

問17. あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーや恋人との間で行われた場合、それは暴力だ
 と思いますか。次の各項目について、それぞれあてはまるものを選んでください。

(○印はそれぞれ1つ)

	どんな場合も暴力にあたる	場合によっては暴力にあたる	暴力にはあたらない	わからない
※(1)～(11)の項目ごとに横に見て、あてはまる番号に ○印をつけてください (○印はそれぞれ1つ)				
(1) 平手でたたいたり、足で蹴ったりする	1	2	3	4
(2) 物を投げつける	1	2	3	4
(3) 大声でどなる	1	2	3	4
(4) 何を言っても無視する	1	2	3	4
(5) 携帯電話のメールや着信をチェックする	1	2	3	4
(6) 外出を制限する	1	2	3	4
(7) 子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする	1	2	3	4
(8) 「誰のおかげで生活できるんだ」などと暴言を吐く	1	2	3	4
(9) 生活費を渡さない	1	2	3	4
(10) 嫌がっているのに性行為を強要する	1	2	3	4
(11) 避妊に協力しない	1	2	3	4

男女共同参画社会の実現についておたずねします

問18. あなたは、男女共同参画社会を実現するために、行政に対してどのような施策を望みますか。

(○印は3つまで)

1. 男女共同参画に関する研修や啓発講座を充実すること
2. 就労を支援するため、資格取得講座を充実すること
3. 審議会や委員会など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用すること
4. 各種の審議会委員や管理職などの、男女の比率を同じくらいにすること
5. 情報提供や交流、学習やささまざまな活動ができるように男女共同参画推進センターの機能を充実すること
6. 男女共同参画に関わるリーダーの養成など、人材育成を推進すること
7. 学校教育において男女共同参画教育を充実させること
8. 保育所や学童保育などの施設の整備や子育て支援サービスを充実させること
9. 介護に関する施設の整備やサービスを充実させること
10. ひとり親家庭に対する支援や福祉制度を充実させること
11. 育児休業・介護休業制度を充実させ、男女がともに働き続けられる条件整備を進めること
12. DV(ドメスティック・バイオレンス)に関する相談窓口や被害者のための支援を充実すること
13. 自治会など、地域コミュニティ活動において男女共同参画を推進すること
14. その他(具体的に)
15. 特に要望したいものはない

最後に、ご回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについておたずねします

F1. あなたの性別はどれに当てはまりますか。

〔※性のあり方は多様ですが、今回の調査は男女の性別による分析を目的とするため性別をおたずねしています。ご自身が思われる性別でご回答ください。〕

1. 女性
2. 男性
3. その他

F2. あなたの年代をお聞かせください。

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| 1. 18～19歳 | 5. 35～39歳 | 9. 55～59歳 |
| 2. 20～24歳 | 6. 40～44歳 | 10. 60～64歳 |
| 3. 25～29歳 | 7. 45～49歳 | 11. 65～69歳 |
| 4. 30～34歳 | 8. 50～54歳 | 12. 70歳以上 |

F3. あなたは結婚していますか。

1. 結婚している(配偶者がいる)
2. 結婚していないが、同居しているパートナーがいる
3. 配偶者やパートナーと離別・死別した
4. 未婚である

F4. (F3で「1. 結婚している」「2. 同居しているパートナーがいる」と答えた方へ) 共働きですか。

1. 共働きである
2. 夫 (男性のパートナー) のみ働いている
3. 妻 (女性のパートナー) のみ働いている
4. 二人とも働いていない
5. その他 (具体的に)

F5. あなたの家族構成は次のどれにあたりますか。

1. 単身 (一人暮らし)
2. 夫婦のみ
3. 2世代家族 (親と子)
4. 3世代家族 (親と子と孫、親と子と祖父母など)
5. その他 ()

F6. あなたの働き方についてお聞かせください。

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 正社員、正規雇用 | 6. 自由業 |
| 2. 契約社員、派遣社員 | 7. 専業主婦・主夫 |
| 3. パート・アルバイト (内職など) | 8. 学生 |
| 4. 自営業 (農林水産業) | 9. 無職 |
| 5. 自営業 (商工サービス業) | 10. その他 (具体的に) |

F7. あなたのお住まいはどの地区 (コミュニティ) にあたりますか。

- | | | |
|---------|--------|--------|
| 1. 吉武 | 5. 河東 | 9. 玄海 |
| 2. 赤間 | 6. 南郷 | 10. 池野 |
| 3. 赤間西 | 7. 東郷 | 11. 岬 |
| 4. 自由ヶ丘 | 8. 日の里 | 12. 大島 |

男女共同参画について意見や要望などございましたらご自由にお書きください。



お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。
ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、
12月15日(金)までに投函してください。



男女共同参画に関する法律など

- 女子差別撤廃条約…………… 女子に対するあらゆる分野・形態の差別をなくすことに関する条約
- 男女雇用機会均等法…………… 雇用の分野での男女の均等な機会と待遇を進める法律
- ストーカー行為規制法…………… ストーカー行為やつきまとい行為を行った者に対して行為の禁止を命じ、被害者やその家族を保護するための法律
- ドメスティック・バイオレンス（DV）防止法…… 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律
- 育児・介護休業法…………… 3歳未満の子どもを養育する男女労働者や、家族が要介護状態にある男女労働者が1人につき一定期間の休業期間をとることなどを保障する法律
- 男女共同参画社会基本法…… 男女が互いに人権を尊重し、責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を發揮することができる「男女共同参画社会」を形成するための法律
- 宗像市男女共同参画推進条例… 男女共同参画を総合的かつ計画的に推進することを目的とし、平成16年に制定した条例
- 第3次宗像市男女共同参画プラン… 「一人一人がお互いに認め合い、社会に参加できる、女性活躍のまち むなかた～未来を担う子どもたちにつなぐために～」を基本理念とし、市が男女共同参画社会実現を目指し、令和3年に策定した総合的計画。

あなたは大丈夫？ ◆このようなものもDV（パートナー間の暴力）にあたります

<p>○身体的暴力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殴る、ける、平手で打つ、押し倒す ・物を投げつける ・髪を引っ張る、引きずる ・食事や睡眠を制限する、家に入らせない ・病院に行かせない 	<p>○精神的暴力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大声で怒鳴る、ののしる、説教する ・無視をする ・まったく意見を聞き入れない ・周囲のものにあたる ・人との付き合いを制限する
<p>○経済的暴力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・借りたお金を返さない ・生活をかえりみず、散財する ・借金をさせる ・お金のつかい道をチェックする ・生活費を「ください」と言わせる 	<p>○性的暴力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無理やりわいせつな写真や動画を見せたり、撮影したりする ・撮影した写真や動画をインターネットにあげる（リベンジポルノ） ・避妊に協力しない、中絶を強要する
<p>○子どもを利用した暴力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの前で暴力を振るう（面前DV） ・子どもに配偶者の悪口を吹き込む 	

作成：宗像市男女共同参画推進課